

2023年度版
.....

東洋大学 ボランティア支援室年報

TOYO University Volunteer Support Office 2023 Annual Report



東洋大学



——まだまだ人手が足りていないことを痛感したが、
時間が過ぎていったことで支援が打ち切られていく様子も
目の当たりにした。



水道が整備され復興の兆しが見えても、次は家屋の再建などお金の問題が降りかかってくる。



輪島を訪れた際に初めて惨事ストレスに直面し、現場の最前線で動く方々の負担を痛感した。



一ヶ所を47人がかりで1日作業しても終わらなかったことに驚きました。

ワークキャンププログラム(田人)



——2泊3日という宿泊型のボランティアで起こった、
すべての出来事が新鮮でした。



学部学科の違う7人の仲間との2泊3日のワークキャンプは今まで感じたことの無い緊張感とワクワクから始まりました。到着と同時に昼食のサンドイッチを作り、一気に打ち解けることができました。また現地の子供と一緒に川で遊んだり、温泉に行ったりと現地でしか味わう事のできない体験ができました。



他所から来た我々を、家族のように受け入れてくれる人々の温かさ、虹や星空、川や森、動物などの自然に触れることができました。

宿泊サバイバル



——普段使っている校舎も、視点を変えて見ると
たくさんの危険が見えてくることに驚きました。



災害時は物品や情報が制限され、かつその精度や正確さがより不確実なものになるので、平時より一層ものごとを深く考える必要があると感じた一夜だった。



普段何も考えずにまたいでいる段差も、停電時などでは大きな脅威になりえます。今後は今回の経験を生かして見落としがちな脅威に目を向けることが大切だと思います。

被災地のまちづくりを考え、発信するスタディーツアー



——「環境にダメージを負った福島だからこそ環境に配慮した有機栽培で」
そんな思いを实らせる綿花の土壌は、真っ黒でふかふかと温かった。



だんだんと農家が減っていき、この集落で農業をやる人の最年少が75歳という現状。若者を集めようと土地を開拓している姿を見て、自分もできることをやらなければと考えさせられた。



現地に行ったからこそ聞ける当時の被災者の気持ちや決断、また災害の余波による産業の停滞と再興、そして被災したままのものを直接見ることで災害に対する支援の在り方や復興の難しさを知った。

東洋大学ボランティア支援室開設7年目の活動について

ボランティア支援室長 高山 直樹

現在、国内外において、多くの問題が山積しています。それはいまだに続いている戦争・内戦、地球温暖化、超少子化、虐待、子どもの貧困、枚挙にいとまがありません。そこに関連している国および人々、自然、環境、宗教、文化等を理解していく視点やそこに関わりをもつ「わたし」が自分事としてとらえ、いかに考え、どのように行動するのかが問われています。しかし国内外の現実はいまだ「いまだけ・ここだけ」そして「わたしのことだけ」を考えているのではないのでしょうか。またこれらのニュースに多くの人々は辟易しつつも、そこにいる「わたし」は、「しかたがない」という言葉であきらめてしまっている現実があります。

東洋大学の教育理念は、「主体的に社会の課題に取り組む」ことを基盤とし、教育を展開してきました。それは前身である哲学館の創立直後より「余資なく、優暇なき者」のために『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育や2部（イブニングコース）へと継承してきました。このように東洋大学は、社会貢献を建学の精神を具現化するための柱の一つとし、人材育成に傾注してきました。

それは、この混沌とした国内外の問題を自分ごととし、社会の幸せの在り方を発信していくことが大学にとっての使命といえます。そのためには、地域社会から厚い信頼を受け支援されることが必要となり、積極的な社会貢献を進めることが期待されています。本学は、3万人超の学生を擁し、17大学院研究科、14学部を擁する総合大学です。大学に蓄積された人的・知的資源を必要としている地域や人たちに届ける方法が、学生によるボランティア活動であります。

東洋大学では、さまざまなボランティア活動が展開されています。複数の学生団体、教員・学生によるゼミ他の活動は、多岐にわたります。これらの活動を一元的に把握し、特に学生がボランティア活動をするための情報提供、活動支援、助言等をおこなっているのがボランティア支援室です。2023年5月までは、コロナ禍の中で、その活動を自粛することを余儀なくされました。5月以降は徐々に活動が再開され、ボランティア活動を積極的に行う方向性を意識しながら活動の再開、新規活動の展開をしてきました。

具体的には、これらの活動を実施するために専門のスタッフ（ボランティアコーディネーター）を配置し、ボランティア先の開拓、学生とのマッチングに加え、実施後の検証、まとめ、実施報告などを連続的に実施してきました。また、ボランティア支援室では、大学のボランティア活動の中期・長期的な方向性を策定し、さらに学生や卒業生、地域に向けた様々な企画を検討することで、大学が設置するボランティア支援室の機能を果たしてきました。

またボランティア支援室に設置した専門部会や運営委員会の教員を中心に検討を重ね、学生に対するボランティア活動の支援策を策定しました。

2024年1月1日の16時10分、能登半島地震が起きました。帰省や帰郷等多くの方々が、それぞれの希望の満ちた新しい都市を迎えたときでした。その時から時間が止まっているのが、今の現状でもあります。当時は被災地から、ボランティア活動の自粛が要請されましたが、で

きることから始めようと、SDGsアンバサダーを中心に、4つのキャンパスで募金活動がなされ、多くの学生や教職員が募金に思いを込めました。それによって能登震災への理解が深まり、支援を考えていく全学の機運が高まりました。さらに今後の支援の組織やあり方に関して、社会貢献センターを中心に検討を開始しました。センターでは、数回における視察を行い、被災地に迷惑がかからないボランティア等の活動の可能性、そのための連携先、宿泊先の確保の調査等を行いました。3月の春季休暇に、石川県志賀町で学生と教職員との協働チーム（延べ12人）が先遣隊として、主に被災者の自宅に伺い、がれきの撤去や家の中の整理といった活動を行いました。5月の連休には輪島市門前町での活動を予定しています。

散乱した家の数々の思い出がある生活用品を一つ一つ家主の方と相談・確認をしながら、廃棄していく過程に寄り添えたことから、改めて幸せとは何か、家や地域の大切さを「自分事」とできたとともに、本学がこの支援に継続的にかかわる必要性があると確信しました。

本学は、石川県のスローガンである「創造的復興」の「創造」に焦点を当て、二つの「そうぞう」に着目します。住民の方々や地域の声を「想像」して聴き、その声を「創造」していく。これまでの被災地支援の経験を活かし、本学の知を結集して継続的にかかわる体制づくりと支援活動を展開していきます。

ここに、2023年度ボランティア支援室の報告書をお届けいたします。ぜひお読みいただき、ご指導・ご助言をいただきたくお願い申し上げます。

目 次

■ 東洋大学ボランティア支援室開設7年目の活動について	5
■ 目次	7
■ 2023年度 ボランティア支援室 活動内容・利用状況	9
■ 活動内容・各企画概要	
① トルコ・シリア地震応援企画	23
② TOYO 1Day ボランティアプログラム「カンボジアフェスティバル2023」運営ボランティア活動	25
③ 白山キャンパス ボランティアサークル合同新歓2023	28
④ ボランティア支援室赤羽台分室 オープニングイベント「福祉人生すごろくゲーム in 赤羽台」	30
⑤ トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”「当事者が語る、率直な思い」	32
⑥ 当事者が語る、ソーシャルワークへの期待「トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”」	34
⑦ 「ウクライナの子どもたちは今」～ウクライナ侵襲から1年以上が経過したルーマニアの支援現場からの報告～	36
⑧ Toyo 1day ボランティアプログラム 「ビーチクリーンアップ in Yuigahama Beach～SDGs14『海の豊かさを守ろう』～」	38
⑨ 「そなエリア東京」フィールドワーク（「防災ゲームDay2023」実施に合わせて）	41
⑩ 「クールアースフェア2023」への出展	44
⑪ サイボウズ(株) CSRスタディーツアー	46
⑫ CSRスタディーツアー NEC ネットズエスアイ(株)	49
⑬ 東洋大姫路SDGs フェスティバル	51
⑭ 「みんなの金融セミナー」	54
⑮ 都立小石川中等教育学校における防災授業講演	57
⑯ Toyo オンラインボランティアプログラム2023「フィリピンの若者とつくるSDGsアクション!」	59
⑰ 災害救援ボランティア講座	63
⑱ 中野区・東洋大学連携事業 少年・少女野球教室	65
⑲ 「FUMIDA!2024～文京区大学生によるボランティア・地域活動報告会・交流会～」	67
⑳ 東洋大学ボランティアカフェ 「新しいことをはじめる新学期に!～世界ひろがる!仲間みつかる!ボランティアのススメ～」	70
㉑ 東洋大学ボランティアカフェ「『好き』から始まるボランティア!～あなたの好きを教えてください～」	72
㉒ 東洋大生がワークショップで考えるSDGs「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」	74
㉓ 東洋大生がワークショップで考えるSDGs「日本の貧困問題とSDGs—相談事例から貧困を考える—」	76
㉔ 東洋大学学生課外活動育成会「樹海清掃ボランティア(春)」	78
㉕ 東洋大学学生課外活動育成会企画2023年度 合宿型ボランティアプログラム 「ワークキャンププログラム(掛川グループ)」	80
㉖ 東洋大学学生課外活動育成会支援事業「湯河原でみつける、わたしの『ローカル』なライフデザイン」	83
㉗ 東洋大学学生課外活動育成会「樹海清掃ボランティア(夏)」	87
㉘ 東洋大学学生課外活動育成会「里親子デイキャンプ」	89
㉙ 東洋大学学生課外活動育成会「ボランティアやっただけで終わらせないための『対話のシカタ』」	91
㉚ 東洋大学学生課外活動育成会支援事業「感染症まん延期に大地震!あなたは、生き延びる? ～首都直下型地震に備える!東洋大学宿泊サバイバル体験～」	93
㉛ アフガニスタンにおける教育の現状と課題—初等中等教育制度及び障害児教育を中心に—	96

32	2023年度白山祭 SDGsアンバサダー出展	97
33	「AKABANEDAI FESTIVAL 2023」へのSDGsアンバサダーによる出展	100
34	CSR論 公開講座「企業と人権」	103
35	誰もが尊重され、すこやかに生きることができる社会とは ～LGBTQ+ について学ぶ～	104
36	子どもの貧困問題と学習支援教室が果たす役割	105
37	「SDGs Week EXPO(エコプロ2023)」への出展	107
38	4大学合同 能登半島地震復興ボランティア	109
	■ 2023年度 ボランティア支援室 各企画資料	111
	■ 2023年度 ボランティア支援室 資料・記録	127
	ボランティア支援室 ガイダンスの実施	127
	東洋大学ボランティア支援室要項	128
	ボランティア支援室運営委員会委員名簿	130
	2023 年度 ボランティア支援室運営委員会・専門部会活動記録	132
	東洋大学ボランティア支援室に対する内部評価結果	136

2023年度 ボランティア支援室 活動内容・利用状況

ボランティア支援室における活動を振り返って

開設7年目を迎えた東洋大学ボランティア支援室（以下、支援室）は、年間を通じて以下の取り組みを重点的に進めました。

【主な取り組み】

1. 赤羽台キャンパス分室の設置

今年度よりボランティア支援室は、赤羽台キャンパスに分室を設置しました。

社会学部社会福祉学科が白山キャンパスから移転し、従来赤羽台キャンパスに設置されていたライフデザイン学部と統合、新たに「福祉社会デザイン学部」として再編されたことに関連する動きで分室の設置に至りました。今年度は火曜日と金曜日の週2日開室し、白山キャンパスからボランティアコーディネーターと職員が出張の形で、赤羽台キャンパス所属の学生への相談対応等を行いました。

2. ボランティア等情報の全学生への発信

今年度より、従来の「ToyoNet ACE（ガクチカサプリ）」における情報発信を「東洋大学ボランティア支援室学内情報サイト」に移行しました。ガクチカサプリ時代の機能を集約し、情報発信のベースステーションとして再編しました。これは、本学のホームページの更新や学内におけるシステム統合の一環でもあります。このことにより、本学学生向けの情報と、広く社会に向け発信している情報とを一元的にまとめ、ボランティア支援室の取り組みの全体像が見えやすくなり、またアイコンや写真などを主体としたデザイン性の向上も図られました。

その他、東洋大学アプリ内の機能の一つ「Discover」への情報発信を行い、学生がスマートフォンから手軽に活動参加へのきっかけを提供できるように注力しました。

3. ボランティア・コーディネーターによる相談等対応

引き続き、2名のボランティア・コーディネーターによる相談体制を確保し、学生からのボランティア相談対応や、地域団体からの学生ボランティア受け入れの相談対応を行いました。

特に新しく開設した赤羽台分室では、北区社会福祉協議会のCSW（コミュニティソーシャルワーカー）との情報交換を緊密に行いながら、地域資源の発掘と地域性の把握に注力しました。

4. ボランティア活動促進のための講座、イベント等の実施

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、コロナ禍以前の賑わいが社会全体に戻りつつある中、本学におけるボランティアプログラムも概ねコロナ禍以前と同様の形で実施できるようになりました。

文京区白山神社での「あじさい祭り」や、北区「ヌーベル赤羽台団地」の夏祭りなど、地域行事への学生ボランティアを送り出しました。また、「Toyo 1day ボランティアプログラム」として実施した「カンボジアフェスティバル2023」「ビーチクリーンアップ in Yuigahama Beach」では、多摩大学学生社会ボランティアコーナーとの連携により、同大学の学生と共同でボランティアプログラムを企画運営することで、多様な学生にボランティア活動の通じた地域・社会への参加機会の提供を行いました。

一方、「きっかけ」からどのように次へのステップを踏み出し、学生自身が以後地域・社会との関わりを持ち続けていけるようになるための働きかけには課題も残ります。

5. 授業におけるボランティアセミナー等の実施

ボランティア支援室のボランティア・コーディネーターが授業に登壇し、ボランティア活動に関する入門的な講義・ワークショップやコメントーションなどを計13回実施しました。授業の形式は対面またはオンライン（リアルタイム）の両方がありましたが、これらとは別にオンデマンド教材を提供した科目が1コマありました。

特に、今年度は赤羽台キャンパスにある社会福祉学科との授業連携では、赤羽台分室においてゼミ単位のガイダンス等を実施し、赤羽台分室の存在感を高めることができました。

6. 支援室学生スタッフ（サポートスタッフ）の育成

学生のボランティア活動や社会貢献活動に関する理解を深めリーダーシップの涵養を図ることと、ボランティア支援室の活動の学生へのアプローチ力を高めるための試みとして、サポートスタッフによる活動展開が継続されています。今年度は計19名で活動を行いました。

昨年度に続き、「ボランティアカフェ」の運営をサポートスタッフが担ったほか、1day ボランティアプログラムや課外活動育成会事業などの企画運営、ボランティア入門講座への登壇などを通じ、ボランティア活動への理解と認識を深めることを目指しました。

また、今年度はボランティアサークルとの連携にも注力し、4月と5月にボランティアサークル合同による新入生歓迎企画の企画運営に携わり、事前にサークル間の交流機会を創出するための座談会を開催する試みも行われました。こうした取り組みを、サポートスタッフはボランティアコーディネーションについての学習会を重ねる中で、ボランティア団体間の連帯の必要性について学んだことを受けて取り組むなど、学習を踏まえた実践機会とすることもできました。

7. SDGsに関する取り組み

「東洋大学SDGsアンバサダー」（以下、SDGsアンバサダー）プログラムが始まって、3年目を迎えました。今年度は昨年度からの継続者21名に加え、新たに登録された70名と、全学計91名の学生がSDGsアンバサダーとして活動しました。

今年度は活動分野に沿う形で、「ヒューマン支援」「カーボンニュートラル」「防災・まちづくり」「ダイバーシティ」「パートナーシップ推進」といった5つのチームが編成されました。アンバサダー学生がそれぞれ自分自身の興味関心のSDGs目標・分野に沿って、活動できるように支援室ではサポートを行いました。

また、活動分野ごとに組織された「チーム」という軸に加え、白山・赤羽台・川越・板倉の4キャンパスそれぞれに所属するSDGsアンバサダーが、キャンパス単位での活動軸を新たに設定しました。特に、赤羽台キャンパスSDGsアンバサダーチームは、株式会社ファーストリテイニング社との連携が実現でき、大学祭期間中にユニクロ・ジーユーの衣類回収企画を行い、難民支援を図りました。

SDGsアンバサダーは、大学祭、文京区「クールアースフェア」と「エコプロ*」において出展しました。それぞれのチームごとの活動やキャンパスでの取り組みが取りまとめられ、学内だけにとどまらず、社会に向けての発信を行いました。

8. 大規模災害への対応

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」では、被災地支援ボランティア活動の現地での受け入れに、地理的要因なども絡む困難が課題となる中、状況が整った時に意思ある学生ボランティアの送り出しができるよう、被災地近隣の大学の協力も得ながら情報収集に注力しました。

1月には白山・赤羽台・川越・板倉の各キャンパスで、SDGsアンバサダーが中心となり義援金募金活動を実施。総額411,280円を、日本赤十字社を通じて被災地に届けることとなりました。

9. 他機関・地域・他大学等との連携

引き続き、毎月1回程度実施された文京区学生支援担当者連絡会（通称「地域ニーズの会」）の会合に出席しています。

連絡会の活動の集大成的位置付けとして実施している、文京区内大学の学生活動報告会を、今年度は3月に本学を会場校として開催し、支援室サポートスタッフの学生と共に企画づくりを進めました。

10. その他

各事業の実施については、ボランティア支援室だけではなく、学生部等学内の関係部署・団体との連携・協働を図り、さまざまな活動や事業のスムーズな実施を心がけました。

*日本経済新聞社が主催する、企業・団体・教育機関等が、自団体の環境・SDGsへの取り組みを企業や学生に直接PRすることを目的として開催される大規模展示会。

ボランティア・コーディネーター

日比野 勲

陶 嘉禎

2023年度 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフの取り組み

東洋大学ボランティア支援室のような大学ボランティアセンターは、1995年の阪神・淡路大震災を皮切りに全国の大学に設置されるようになり、2022年度時点でおおよそ170*のセンターが各キャンパスに設置されるに至っています。このうち、先進的な実践を積み重ねている大学ボランティアセンターでは、学生スタッフ（または学生コーディネーター）を設置する動きが見られ、学生目線によるボランティア活動推進のための取り組みが進められています。

本学においては、「ボランティア支援室サポートスタッフ（以下、サポートスタッフと表記）」、2019年度の結成後活動を継続しています。本稿では、サポートスタッフの2023年度の取り組みについてまとめます。

【概括】

2023年度は4年生2名、3年生9名、2年生5名、1年生4名、そして休学中の学生1名の計21名で活動を行いました。

昨年度同様、「今よりもっとボランティアが応援される社会」をビジョン（目指す社会像）に掲げ、「学生目線でボランティアの知識や魅力を発する」取り組みを行うことをミッション（役割）として掲げて活動しました。

私たちサポートスタッフは、ボランティアをすることやボランティアをする人を支えることが好きな学生たちが集まっているため、学内外の他のボランティア団体と兼任している学生が多く見られます。その団体でのボランティア活動での経験やそれで得たことをお互いに共有し合い、サポートスタッフでの活動に活かすことが出来ました。それだけでなく、その繋がりを活かしてサポートスタッフがボランティア団体同士や一般学生との交流のきっかけをつくり、その結果多くの人とボランティアを結びつけることもできました。

また、今年度はサポートスタッフとしては初めての合宿を実施しました。普段とは違う土地で、メンバー揃って顔を合わせてミーティングや勉強会を行い、お互いの新しい一面をよく知ることで信頼関係が深まり、より多くのアイデアを出すことができました。それだけでなく、「ボランティア活動を運営する立場ならどのようなことが必要か」という俯瞰的な視点から、実際にボランティア活動に参加する機会も得られました。

【2023年度のサポートスタッフの取り組み】

サポートスタッフは、2023年度現在以下の3つの軸に沿って活動を行っています。

1 「学ぶ」：ボランティアを学ぶ活動、ボランティアから学ぶ活動

- (1) ボランティア勉強会
- (2) その他、学内外のボランティア研修等への参加・参画

2 「伝える」：ボランティアの魅力を発信する活動

- (1) 「東洋大学ボランティアカフェ」の企画運営
- (2) 授業等における登壇
- (3) 大学近隣の地域交流活動への参画

3 「つくる」：学生が社会問題に関わるきっかけをつくる

- (1) 学内外の団体と、ボランティアプログラムの共同企画運営
- (2) その他の、ボランティア支援室主催事業への参画

以下、3つの軸に対応した具体的な取り組みについて述べていきます。

1 「学ぶ」：ボランティアを学ぶ活動、ボランティアから学ぶ活動

- (1) ボランティア活動の本質的理解のための勉強会

○概要

ボランティアにどのように参加してもらうか、ボランティアコーディネーターとしてどのような役割があるのかなどを学ぶ勉強会を開催しました。

○年間を通じての気づき

特に印象に残っているのは、「なぜ学生はボランティアをしないのか?」というテーマの動画を見た上で行った話し合いです。SNSなどの発達で自分の興味があることにしか注目しないようになっているという指摘や、ボランティア団体のやめ方のフォーマットが整備されていないことが多いために気軽に参加できていないのではないかと考えるなど、今までサポートスタッフの活動で主題となっていなかった問題が出てきたように感じ、とても新鮮でした。

また、勉強会を通して、サポートスタッフの企画における他団体との協力の重要性やボランティアの楽しさを広める際の難しさを感じました。他団体の活動により興味を持ったり、参加のしやすさに何が必要か考えたりするなど、これまでより広い視点で活動に取り組めるようになりました。

- (2) その他、学内外のボランティア研修等への参加・参画

2023年度は実績なし。

2 「伝える」：ボランティアの魅力を発信する活動

- (1) 「東洋大学ボランティアカフェ」(ボラカフェ)の企画運営

都度サポートスタッフの中から数名が企画メンバーとなり、運営を行う形で進めました。

詳細は、本書70ページからの報告をご覧ください。

- (2) 授業等における登壇

ボランティア支援室では、ボランティアコーディネーターを授業に派遣し講義等を行う取り組みを行っていますが、そのうち一部授業において、サポートスタッフも登壇し、ボランティア支援室の活用方法を学生の視点で解説したり、自身のボランティア活動体験談を受講生に伝えたりしています。

以下、登壇した学生からのコメントです。

ボランティアは多くの学生にとって、さまざまな意味で「ハードルが高い」存在かもしれません。特に、人のために自分を犠牲にしなければならないのか、目的意識がはっきりとしていない状態で始めてもいいのかなどの、「気持ちの面でのハードル」が最も大きいハードルの1つなのではないかと思います。だからこそ同じ学生として、ボランティアは身近なものであるということを知ってもらえるよう、意識して発表しました。

まずはサポートスタッフの紹介、その後私がボランティア活動を始めたきっかけ、私が感じてい

る魅力をスライド形式で話しました。実際に私が参加した地域ガイドボランティアにおいて、「無料で好み焼きを食べることができるから参加したが、それ以上に、地域住民の方々と信頼関係が築けるいい機会となった」経験を例に挙げました。この話を通して、ボランティア活動は人それぞれの興味・関心から気軽に始めることができるもので、それがいつの間にか人のためにもなるという魅力を伝えることができたと思います。

また、登壇を通して、自分の言葉でボランティアの魅力を伝えるという良い経験ができました。それと同時に、どうすれば「楽しそうだからやってみたい」と思ってもらえるか、サポートスタッフに相談してみたいと思ってもらえるか、まだまだ伝え方に工夫が必要だと感じました。

(3) 大学近隣の地域交流活動への参画

文京区地域連携ステーション「フミコム」が呼びかける形で、毎月1回程度実施している文京区学生支援担当者連絡会（地域ニーズの会）の、大学間連携の取り組みの集大成として、毎年学生のボランティア活動や地域交流活動の報告会・交流会を実施しています。

今年度は東洋大学が会場校となり、「FUMIDAI2024」と題し、第1部として学生ボランティア・地域交流活動の活動報告会、第2部としてブース型交流企画（アクションマーケット）の構成で企画を構成しました。

サポートスタッフは、第1部の総合司会に携わったほか、第1部でのサポートスタッフの取り組みの活動報告、詳細は、67ページからの報告を参照ください。

3 「つくる」：学生が社会問題にかかわるきっかけをつくる

ボランティア支援室主催事業への参画

以下のボランティア支援室主催事業にサポートスタッフが参画することで、ボランティアプログラムの目指す社会課題の背景を学ぶとともに、サポートスタッフ以外の学生が社会課題に関わる機会を創出しました。

- ・Toyo 1day ボランティアプログラム「カンボジアフェスティバル2023運営ボランティア活動」
詳細は本書25ページからの報告を参照。
- ・「湯河原でみつける、わたしの『ローカル』なライフデザイン」（課外活動育成会支援事業）
詳細は本書83ページからの報告を参照。
- ・「ボランティアやっただけで終わらせないための『対話のシカタ』」（課外活動育成会支援事業）
詳細は本書91ページからの報告を参照。

4 その他の取り組み

今年度は、サポートスタッフ結成後初めてとなる合宿を、春休み期間中に実施しました。

- ・日程：2024年3月25日（月）～27日（水） 2泊3日
- ・合宿地：静岡県伊東市、神奈川県南足柄郡湯河原町
- ・目的：
 - 1) サポートスタッフ間の相互の関係性の強化（チームビルディング）。
 - 2) 遠隔地での非日常の空間の中で、勉強会やボランティアプログラムを集中的に行うことによる、サポートスタッフ各自の認識の深化。

・主な内容

1) 伊東散策

2) 災害ボランティア活動についての勉強会

- ・山本克彦編著「災害ボランティア入門～実践から学ぶ災害ソーシャルワーク～」(ミネルヴァ書房,2018)を使用した文献学習。
- ・能登半島ボランティア活動報告→本学が、金沢星稜大学・金沢大学・早稲田大学との共同で実施したボランティアプログラムに参加した、サポートスタッフからの活動報告。

3) 湯河原町におけるゲストハウス開設のための、リノベーション作業のボランティア活動

湯河原町において、自然体験活動を伴った滞在型施設として、ゲストハウスの開設に向け準備を進めている、伊藤雄一郎氏のゲストハウス開設準備のためのリノベーション作業を行いました。

【参加メンバーからの感想】

・私は、今回の合宿で行った災害支援に関する勉強会とゲストハウスの設営ボランティアを通して、人と直接会うことの大切さを学びました。

災害支援に関する勉強会では、実際に能登半島へ災害救援ボランティアに駆け付けた学生サポートスタッフがいたため、災害救援の現場の声を聴くことができました。勉強会で聞いた内容は、ニュースを見ているだけでは伝わらない現地の状況や、災害支援の手順でした。もともと勉強会をするために災害支援に関する資料を読み込んではいましたが、写真などの現物を見る機会が無く、文字だけで現状を推測するということを行っていました。そんな中、現地の状況などを写真とともに説明して下さったおかげで現地の状況を頭の中で想像することが出来ました。それに伴いサポスタ内での議論もより深いものになったと記憶しています。今回の合宿での勉強会は、災害支援というジャンルを深く知る一助になっていたと考えます。

また、合宿三日目に行ったゲストハウスの設営ボランティアでは、ゲストハウスを開こうとしているオーナーのユニークな人柄に触れたことに加え、「ゲストハウス」というものが出来るまでの貴重な瞬間に立ち会うことができました。そんなゲストハウスでのボランティアでは、主に内装リフォームと畑作業を行いました。内装リフォーム班では、壁の模様替えをはじめ障子の張替えや断熱材の撤去及び断熱材の設置等を行いました。ハウスダストが巻き散る空間での作業や張替えなどの繊細な作業は私たちの心身ともに疲れを与えましたが、どれも普段の生活では経験することが出来ないものばかりで、大変有意義なボランティアとなりました。また、合宿全体を通してサポスタメンバーの結束力が上がり、親睦が深められたと感じたので、今回のような合宿を今後も継続していければと思いました。

・今回のサポートスタッフ合宿を通じて、多くの発見と課題点があると感じました。今回サポートスタッフ合宿の企画メンバーを務めさせていただき、ほかのメンバーと数回ミーティングをしていくうちに、熱海や熱海周辺には「ここに行きたい」「これがやりたい」と思うものが多く、なかなか日程が決まらず苦戦しました。また、災害支援についての勉強会や二日目の天気は雨予報だったこともあり、雨の場合はどうするかなど企画していく中で難しいなと感じることもありましたが、終わってみると企画メンバーを経験することができてよかったと感じました。

私たちがこの合宿で学びになった体験をしたのは特に二日目と三日目でした。

二日目は、災害支援に関する勉強会を行いました。実際に能登半島地震で被災した地域に赴いて活

動した学生スタッフから貴重な体験を聞くことができ、能登半島の現地でどのような活動をするのか、また現場の状況などニュースでは知れないことも知ることができました。また、災害ボランティアについてサポートスタッフ間で話し合うことで、災害復旧だけでなく災害復興の大切さ、災害ボランティアの受け入れる仕組みなど改めて考えなければいけないことが多く、そのことが学びになりました。

また、合宿中に行ったゲストハウスでのボランティアでは、管理人の伊藤さんとともにゲストハウスが完成するまでの作業を手伝うことができました。そこでは、内装のリフォームや畑作業などさまざまな作業にかかわり、普段の生活では経験できないものでしたがやりがいを感じました。また、管理人の伊藤さんは何年も世界で転々としてきた活動や湯河原での活動を話してくださり、私もこれからボランティア活動をしていく中でもっと新たな経験をしていきたいと思いました。

今回の合宿の企画から実際の活動をしてみて、サポートスタッフの人々との交流が深まったとともにゲストハウスや災害ボランティア、また企画することなど普段ではできないことを経験でき、大変有意義なボランティア合宿であったと感じました。今後もこの合宿での経験を活かして、サポートスタッフとしての活動を継続していきたいと思います。

執筆：

中津 拓人（経済学部国際経済学科2年）

朝原 優真（社会学部社会福祉学科3年）

伊藤 光里（文学部哲学科3年）

都築 郁昭（福祉社会デザイン学部社会福祉学科1年）

戸室 琉斗（社会学部2部社会学科1年）

日比野 勲（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）

* 特定非営利活動法人ユースビジョン「大学ボランティアセンター情報ウェブ」(<https://www.daigaku-vc.info>) をもとに、編者の持つデータを加え算出。

2023年度 ボランティア支援室活動記録

月	日	種別	業務内容
4月	4日	★	イベント
	7日～8日	★	イベント
	11日・14日	★	イベント
	18日	◆	ガイダンス (授業協力)
	20日	●	会議 (書面会議)
	25日	◆	ガイダンス (授業協力)
	27日～28日	★	イベント
	28日	★	イベント
5月	2日	★	イベント
	3日～4日	★	イベント
	8日	◇	その他
	10日・11日 12日	★	イベント
	12日・18日	★	イベント
	12日	◆	ガイダンス (授業協力)
	13日	★	イベント
	16日	◆	ガイダンス (授業協力)
	16日	★	イベント
	19日	★	イベント
	20日	★	イベント
	23日	◆	ガイダンス (授業協力)
	28日	☆	イベント
	30日	★	イベント
	30日	◆	ガイダンス (授業協力)
	31日	◇	その他
6月	1日	★	イベント
	1日・2日 5日・7日	★	イベント

月	日	種別	業務内容
	3日	★	イベント
	3日	★	イベント
	5日	★	イベント
	9日	★	イベント
	10日～11日 17日～18日	★	イベント
	13日	★	イベント
	15日・16日 19日・20日	★	イベント
	20日	◆	ガイダンス (授業協力)
	22日	★	イベント
	25日	★	イベント
	27日	◆	ガイダンス (授業協力)
	28日・30日	★	イベント
	30日	●	会議 (書面会議)
	30日	★	イベント
	30日	◆	ガイダンス (授業協力)
7月	2日	★	イベント
	4日・7日	★	イベント
	4日	◆	ガイダンス (授業協力)
	6日・13日	★	イベント
	7日	●	会議
	11日	◆	ガイダンス (授業協力)
	11日	★	イベント
	29日・30日	★	イベント
	31日・1日	★	イベント
8月	4日	★	イベント
	21日～23日	☆	イベント
	26日～28日	☆	イベント

月	日	種別		業務内容
	31日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画「湯河原で見つける、わたしの「ローカル」なライフデザイン」①
9月	1日・2日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画「湯河原で見つける、わたしの「ローカル」なライフデザイン」②
	4日	☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画「樹海清掃ボランティア(夏)」
	6日	★	イベント	サイボウズ(株) CSRスタディツアー
	13日	★	イベント	NEC ネットズエスアイ(株) CSRスタディツアー
	30日	★	イベント	みんなの金融セミナー
	30日	★	イベント	東洋大姫路SDGsフェスティバル
	10月	6日	★	イベント
9日		★	イベント	ボランティアカフェ「夏休み後のボランティア報告」
9日		★	イベント	SDGsアンバサダー活動報告締切
14日・17日 24日		★	イベント	Toyo オンラインボランティアプログラム2023「フィリピンの若者をつくるSDGsアクション! 2023」①②③
9日～ 11月5日		★	イベント	東洋大学SDGsWEEKs 2023
28日		☆	イベント	●東洋大学学生課外活動育成会企画「里親子デイキャンプ」
30日		●	会議 (書面会議)	第4回 ボランティア支援室専門部会
31日		★	イベント	東洋大学SDGsWEEKs 公開授業「アフガニスタンにおける教育の現状と課題」(高野先生)
11月	4日・5日	★	イベント	SDGsアンバサダー大学祭出展
	4日～10日	★	イベント	「おにぎりアクション2023」
	5日	★	イベント	[AKABANEDAI FESTIBAL 2023]
	7日	★	イベント	東洋大学SDGsWEEKs 公開授業「企業と人権」(小瀬先生)
	7日	★	イベント	Toyo オンラインボランティアプログラム2023「フィリピンの若者をつくるSDGsアクション! 2023」④
	22日	★	イベント	東洋大学SDGsWEEKs 公開授業「もう始まっている多民族・多文化共生社会 まっとうな受入れ制度を 労働者を労働者として」(村上先生)
	22日	★	イベント	第2回文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会
	24日	◆	ガイダンス (授業協力)	授業「ボランティア活動入門」 [支援室紹介、サポスタ講演](林先生)
	24日・25日	★	イベント	文京博覧会2023(ぶんぱく)
	25日・26日	★	イベント	災害救援ボランティア講座
	26日	★	イベント	中野区野球教室

月	日	種別	業務内容
	27日	☆	イベント
	28日	★	イベント
	28日	★	イベント
	28日	☆	イベント
12月	1日・2日	☆	イベント
	6日～8日	★	イベント
	7日	★	イベント
	11日	★	イベント
	14日・15日	★	イベント
	15日・19日 22日	★	イベント
	21日	● (書面会議)	会議 (書面会議)
1月	15～19日	★	イベント
2月	3日	★	イベント
	6日	★	イベント
	6日	★	イベント
	6日	★	イベント
	13日	★	イベント
	14日～16日	☆	イベント
	20日	★	イベント
	27日～29日	☆	イベント
3月	4日	★	イベント
	8日～10日	☆	イベント
	14日	◇	その他
	15日	★	イベント
	15日	●	会議
	18日	★	イベント

【種別】 ● 会議 ★ イベント (ボランティア支援室企画) ☆ イベント (東洋大学学生課外活動育成会企画)
 ◆ ガイダンス (授業協力) ◇ その他

ボランティア支援室

2023年度 利用状況報告

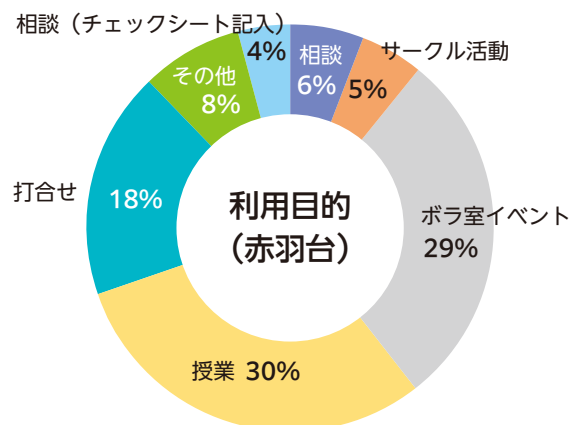
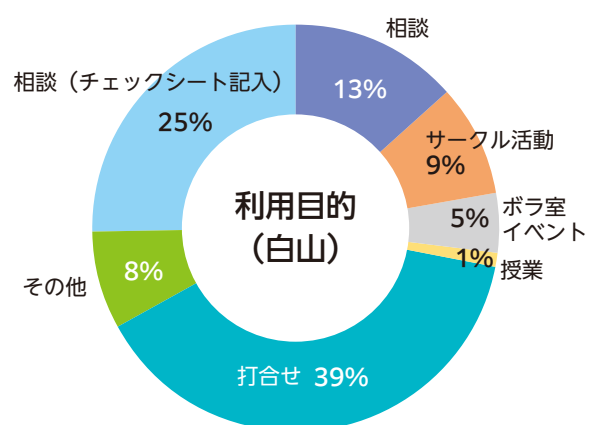
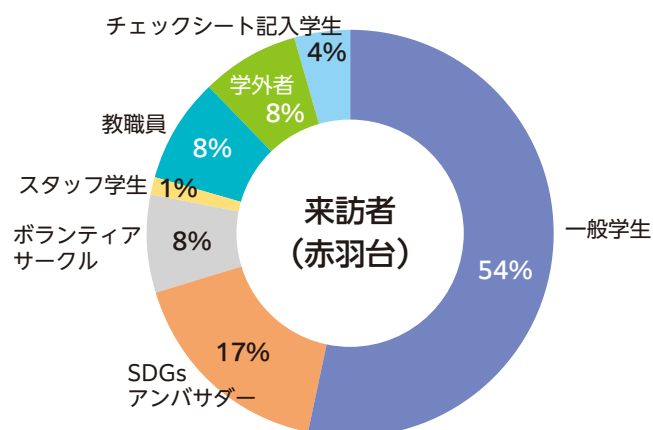
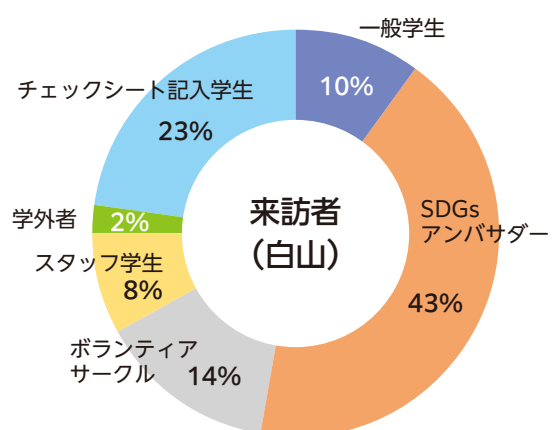
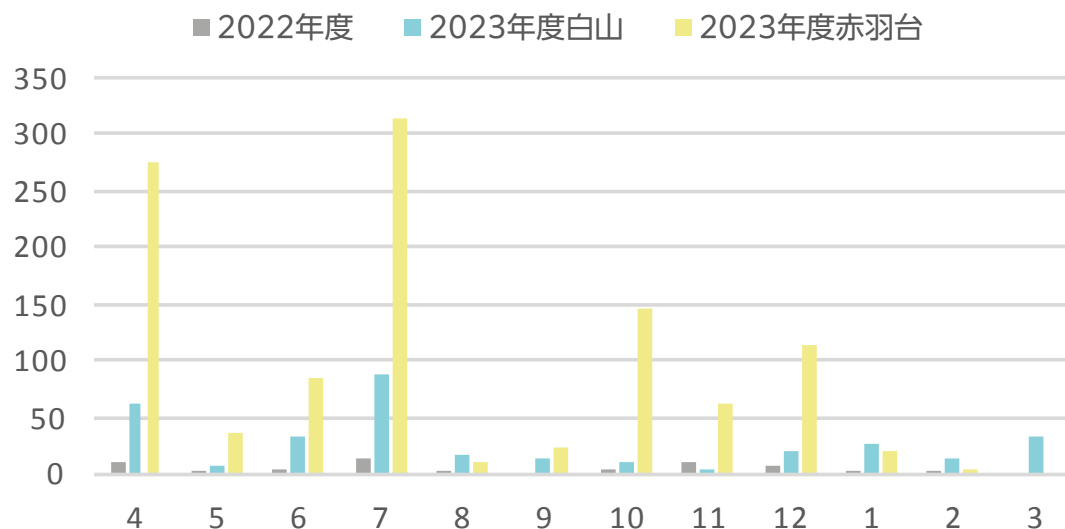
ボランティア支援室来訪者数 (白山)

キャンパス	学部	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
白山	文	7	0	4	2	1	0	1	0	0	0	0	0	15
	経済	2	3	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	10
	経営	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	10
	法	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	社会	10	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	国際	10	5	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	20
	国際観光	4	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	7
赤羽台	情報連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	福祉社会デザイン	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	健康スポーツ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
板倉	生命科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食環境科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川越	理工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合情報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	通信教育部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チェックシート未記入者		16	0	24	79	17	11	10	4	21	25	13	32	252
月計		63	8	35	87	18	13	11	6	21	27	14	32	335
2022年度 (参考)		11	1	4	15	2	0	5	11	9	3	2	0	63

ボランティア支援室来訪者数 (赤羽台)

キャンパス	学部	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
白山	文	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経済	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	国際	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国際観光	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤羽台	情報連携	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	福祉社会デザイン	7	12	0	6	3	0	0	3	0	0	0	0	31
	健康スポーツ科	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
板倉	生命科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食環境科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川越	理工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合情報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	通信教育部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大学院	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チェックシート未記入者		268	18	86	309	7	23	146	60	113	22	4	0	1056
月計		277	36	86	315	10	23	146	63	114	22	4	0	1096

ボランティア支援室来訪者数



ホームページ閲覧者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
18771	10216	18653	12647	5311	6763	3405	3951	3835	4374	2722	1979

※サイトリニューアルにつき、10月より集計方法が変更しています (ACE から学内情報ページへ移行)

① トルコ・シリア地震応援企画

開催期間・日時	販売イベント：2023年4月27日（木）、28日（金）11：00～16：00 チャリティーイベント：2023年5月19日（金）18：00～20：00
会場	販売イベント：白山キャンパス6号館1階 チャリティーイベント：白山キャンパス スカイホール
目的	・本学学生が「トルコ・シリア大地震」に対し関心を再度持つことで、長期的な支援が必要なことを意識付けしてもらう。 ・シリアの料理や商品の販売イベントを通じて、シリア内戦と地震の現状を知り、国際事情に関心を持つきっかけとする。 ・今回のイベントを、国際的なイベントにさらに参加するきっかけとしてもらう。
参加者数	【イベント】約100名 寄付金については報告本文参照
協力	シリアン・ハンズ、大塚モスク、子島 進 教授（国際学部）

■ 活動内容（概要）

2023年2月にトルコ・シリアにて発生した大地震により大きな被害が出ており、日本をはじめ多くの国と地域が支援を行っている。しかし、規模や地域が広大であることから、いまだ支援を十分に受けられない地域もある。特にシリア北部は、紛争のため自国の政府から支援を受けることができず、民間の人道支援に大きく頼っているのが現状です。

国際学部の子島教授が懇意にするSyrian Hands（シリア人のボランティア団体）ならびに大塚モスクより、本学学生と共同で、シリアに関する学習と文化交流（食事）を通じて持続的な支援を行うことができないか打診があり、社会貢献センターと共に下記のイベントに協力することにしました。

【販売会】

4月27日～28日白山キャンパスにてシリアに関する商品（アクセサリー、石鹸、お菓子など）の販売会を行い、売上の一部をシリアン・ハンズ（シリア人ボランティア団体）を通じてMolham（現地の難民・被災者支援団体）へ寄付をしました。

【チャリティーパーティー】

5月19日に白山キャンパスのスカイホールにて「チャリティーイベント」を実施しました。

100名を超す参加者がご支援いただいたレストランより提供いただいたシリア料理を食べつつ、「シリアンハンズ」の方より活動についての説明や現在の状況を現地からwebにて報告いただきました。

同時にアサド政権が民主化を求める国民に対して行っていることや支援が行き届かない現状についてもお話をいただきました。

イスラム形式のお祈りや会場でも販売会を行い、寄付と合わせて沢山の支援をいただきました。

販売に携わった学生は「この活動が少しでも復興に役立てられれば」と語りました。

トルコ・シリア大地震復興支援企画収支報告

復興支援販売 2023年4月27日・28日 白山キャンパス6号館1階

日付	収入(売上)	寄付	経費	モルハムへの寄付
2023/4/27	¥53,300	¥4,000	¥26,650	¥30,650
2023/4/28	¥37,000	¥2,700	¥18,500	¥21,200
計	¥90,300	¥6,700	¥45,150	¥51,850

チャリティーイベント 2023年5月19日 白山キャンパススカイホール

項目	収入	経費	モルハムへの寄付
参加費(シリア料理付き)	¥146,700	¥129,800	¥16,900
寄付	¥58,870		¥58,870
商品販売	¥77,500	¥48,000	¥29,500
計	¥283,070	¥177,800	¥105,270

【販売会】



【イベント】



② TOYO 1Day ボランティアプログラム 「カンボジアフェスティバル2023」 運営ボランティア活動

開催日時・会場	【事前学習会（オリエンテーション）】 ・日時：2023年4月25日（火）12：20～13：00 ・会場：東洋大学白山キャンパス雨水会館1階学習室、ならびにオンライン会場 【本番】 ・日時：2023年5月3日（水・祝）～4日（木・祝）7：30～20：00 ・会場：代々木公園イベント広場
目的	・ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創ること。 ・ボランティア活動や社会貢献活動の現場体験を通じて、次の一歩につなげること。 ・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進すること。
参加者数	50名
カウンターパート	杉山 早紀さん（カンボジアフェスティバル実行委員会 ボランティアリーダー）
プログラム運営サポート	ボランティア支援室サポートスタッフ

■ 活動内容（概要）

ボランティア支援室では、ゴールデンウィーク期間中の5月3日・4日両日に代々木公園において開催された「カンボジアフェスティバル2023」の運営ボランティア活動のコーディネートを行いました。

「カンボジアフェスティバル」は、日本とカンボジアの友好による平和の保全や経済発展、多文化共生を推進していくことを目的に、カンボジアフェスティバル実行委員会の主催により開催されています。

今年度は、新型コロナウイルスの5類感染症への移行に向けた各種制限の緩和に加え、「日カンボジア友好70周年」という節目の年であるということもあり、大きな賑わいと交流が期待される中、フェスティバルが開催されました。一方、フェスティバルにおける一日あたりのボランティア活動時間が長く、活動者の体力面での懸念や、活動参加のための日程調整の難しさなどの課題も見られたことから、今年度は半日単位で活動に参加できるような改善策を実行委員会が講じてくださったこともあり、のべ50人もの学生ボランティアを本学から送り出すことができました。

本プログラムは、フェスティバル本番の活動日のほか、事前学習会（オリエンテーション）の機会を設け、顔合わせや情報共有などを事前に行うことによる参加者の不安解消や、ボランティア活動を通じた気づきを学びにつなげるための機会を予め設定しました。

一方、企画運営に携わったサポートスタッフの学生や、本業をもちながらフェスティバルのボランティ

アリーダーとして対応に当たってくださっていた担当者の日程調整上の問題から、事後学習会を行うことができなかったことが、次年度に向けた課題として残りました。

【事前学習会（オリエンテーション）】

事前学習会は、ボランティア支援室サポートスタッフ（以下、サポートスタッフ）が進行を担い、以下の内容で実施しました。

（1）顔合わせ

会場参加者、オンライン参加者それぞれ、グループに分かれ、今回のプログラムに参加を決めた動機などについて意見交流をしました。

（2）「カンボジアフェスティバル」概要説明

日比野コーディネーターより、フェスティバルの詳細やボランティア活動の概要、当日の集合等に関する事務連絡等を行いました。

【当日】

フェスティバル当日、ボランティアは以下の活動を、時間帯で区切り交代で担当しました。

- 1) 会場や駐車場の案内・管理
- 2) ステージの補助
- 3) 出店ブースの補助
- 4) 来場者等の案内・安全・衛生管理（感染症対策も含む）
- 5) エコステーション運営
- 6) 準備・後片付け
- 7) 写真/映像撮影
- 8) その他実行委員会が必要と認める事項
- 9) カンボジアフェスティバルをより盛り上げるための施策

【所感】

私は今回、初めてカンボジアフェスティバルに参加しました。当日は、5月とは思えないほどの暑さでしたが、その暑さにも負けないくらいとても熱気にあふれたイベントでした。ボランティアに参加しながらカンボジアの文化に触れることもでき、ボランティアを通して様々なことを体感することができました。今回のボランティアへの参加で私は特に2つの気づきを得ることができたと感じています。

まず1つ目が、ボランティアは国境をも超えた人と人との交流になるという気づきです。カンボジアフェスティバルということでカンボジア人の方はもちろんのこと海外からも沢山の人がイベントに参加されていました。ボランティアでは、パンフレットの配布やごみ収集のお手伝いをしたのですが、そうした活動では海外の方とも多く関わることができました。パンフレットを渡す際に少し英語でお



話したり、ごみの廃棄方法などをお話したりする中で国境を越えた交流をすることができたと感じています。ボランティアが人と人との交流であることは以前から感じていましたが、国境をも超えてしまうのかと改めてボランティアの凄みを実感しました。

次に2つ目がカンボジア文化の素敵さへの気付きです。私は、これまでカンボジアと聞くと「東南アジアの国」というイメージしかなく、どのような文化があるのかあまり知りませんでした。今回ボランティアには食費も支給されたため、昼食はカンボジア料理を食べたり、休憩時にはカンボジアの特産品を見て回ったりとボランティアをしながら文化にも触れることができました。そこで感じたのが、カンボジア料理のおいしさと文化の魅力でした。特に現地の方が着ていた煌びやかで豪華な民族衣装には驚きました。

今回得られた気付きをもとにさらに多くの人や文化に触れ、様々な世界をのぞいてみたいです。

(文学部日本文学文化学科3年 ボランティア支援室サポートスタッフ 東晴太郎)



③ 白山キャンパス ボランティアサークル 合同新歓2023

開催期間・日時	2023年5月10日(水) 16:00~20:00 2023年5月11日(木)、12日(金) 11:00~17:00
会 場	東洋大学白山キャンパス 浦水会館301教室
目 的	・新入生を主な対象に、ボランティアサークルに加入することによるボランティア活動参加の機会を提供すること。 ・白山キャンパスで活動するボランティアサークル同士が、お互いの存在を認知し、協力し合える関係を築くこと。
参 加 団 体	・学ボラ ・東洋大学IVUSA ・国際ボランティアサークル Salamat ・ISR-ConnAction ・読み聞かせ朗読会 ・ベジプロジェクト東洋 ・東京本郷ロータリークラブ学生チーム ・SDGs アンバサダー ・東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ (以上9団体)
企 画・運 営	東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

■ 活動内容 (概要)

東洋大学には、多数のボランティアサークルが活動をしており、多くがボランティア支援室に登録しています。新型コロナウイルス感染症の拡大も一定の落ち着きを見せ、サークルがコロナ以前の活動を再開できるようになった状況ということもあり、新入生にとってもボランティアサークルでの活動に関心が集まっています。

ボランティア支援室では、学生サポートスタッフが企画し、サークルに出展参加を呼びかける形で「白山キャンパスボランティアサークル合同新歓2023」を開催しました。以下、企画に携わったサポートスタッフからの報告です。

学生サポートスタッフの中からメンバーを募り、2月中旬から企画を開始しました。当企画を進めるにあたっての目的を、「各サークルの新入生募集」と「サークル同士の交流」とし、4月にはボランティアサークル合同座談会を開催しました。計8回のミーティングと1回の合同座談会を通して、参加サークルの意見を踏まえながら企画を進めてまいりました。

今回の企画名を「#春から東洋 #ボランティア好きな人とつながりたい ~白山キャンパスボランティアサークル合同新歓2023~」と設定し、参加者に、より簡単にサークルの特徴を掴んでもらうための、#を利用したサークル紹介の資料



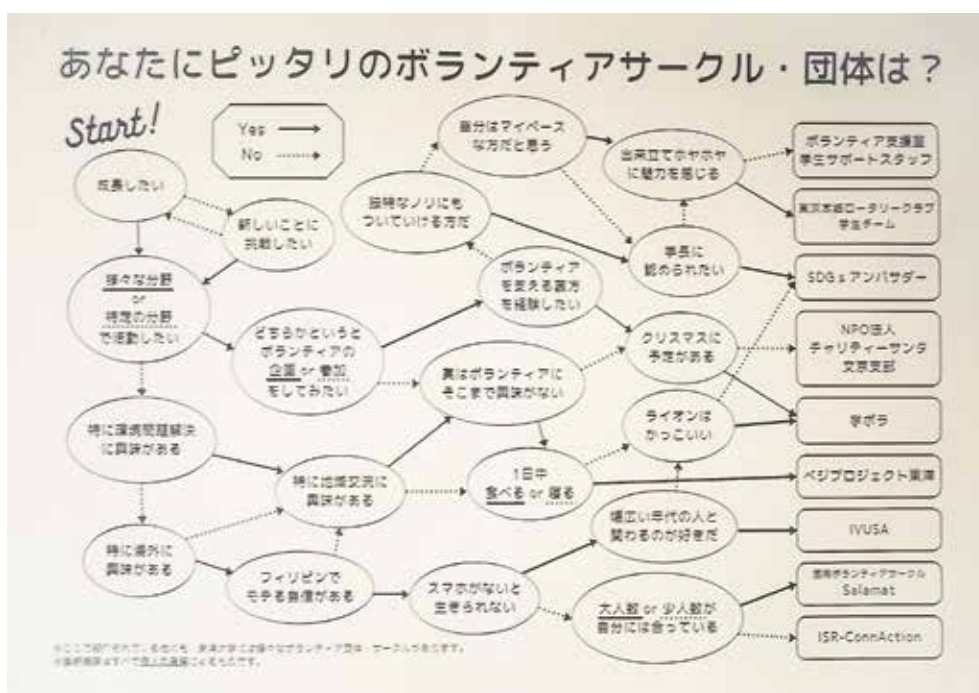
を作成しました。また、各サークルの特徴や歓迎している新入生の特徴を収集し、フローチャート形式で「あなたにピッタリのボランティアサークル・団体は?」というタイトルの資料を作成しました。この2つの資料は当日、教室で配布・掲示をし多くの参加者に見てもらうことができました。

企画当日は想像よりも多くの学生の参加がありました。特定のサークル目当てに参加する学生も多かった印象ですが、そのような人にも全体を見て回ってもらうことができたため、合同で新歓を行った意味があると考えています。また、来場者が落ち着いている時間帯にはサークル同士の交流も見られ、お互いの活動やサークルの現状について知り合うことができました。オンラインだけでなく、お互いの顔が見える関係になれたというのは、良い成果であったと評価しています。

改善点としては、全体的に日程が後ろ倒しになってしまったことが挙げられます。サークルの代替わりの関係でサークル合同座談会の開催が遅れ、新歓の開催時期・会場の決定が予定より大幅に遅れました。そのため、想定よりも参加サークルが少なくなったり、宣伝が思うようにできなかったりしましたが、そのような中でも来場者が一定数集まったのは、各参加サークルの発信力の大きさだと考えています。

以上を踏まえ、来年度の開催においては、参加団体の募集時期や企画の開催時期・時間帯などを再検討し、さらなるボランティアサークルの活動の活発化につながる企画にしていまいります。

(経済学部総合政策学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 塚原 千晴)



④ ボランティア支援室赤羽台分室 オープニングイベント 「福祉人生すごろくゲーム in 赤羽台」

開催日時・会場	- 日時：2023年6月3日（土）10：00～12：00 - 会場：東洋大学ボランティア支援室赤羽台分室
目的	2023年4月に本学赤羽台キャンパスに設置された、ボランティア支援室分室の存在を学内外にアピールすること。 - 福祉について気軽に学び、考え、話し合うことのできる場を創出すること。
参加者数	11名
ファシリテーター	福永 そらさん（東洋大学社会学部2部社会福祉学科3年、ボランティア支援室サポートスタッフ、一般社団法人福祉KtoY 学生メンバー）
企画運営	ボランティア支援室サポートスタッフ
協力	一般社団法人福祉KtoY

■ 活動内容（概要）

東洋大学は2023年4月、社会学部社会福祉学科が白山キャンパスから赤羽台キャンパスに移転し、従来赤羽台キャンパスに設置されていたライフデザイン学部と統合し、新たに福祉社会デザイン学部が誕生、その学科としての位置付けとなりました。

ボランティア支援室も、新学部の開設に伴い、新たに赤羽台キャンパスWELLB HUB-2 5階に分室が設置されることになりました。このことを記念し、オープニングイベントとして気軽に福祉について考え、語り合うことのできる「福祉人生すごろくゲーム」を、集まった参加者間で実施しました。

以下、企画に携わったボランティア支援室サポートスタッフからの報告です。

今回使用したカードゲーム「福祉人生すごろく」は、私が所属している一般社団法人福祉KtoY^{*1}が製作しました。「3K」と言われることが多い「きつい・汚い・給料が安い」の福祉のイメージを、「やりがい・やさしさ・よろこび」の「3Y」に変えるために活動しています。

ゲームは、福祉KtoYが大切にしている価値観である「やりがい・やさしさ・よろこび」に相当する3種類のポイントを貯めながら進みます。自分の大切にしたい価値観のポイントを3つの中からあらかじめ決めておき、集計時にそのポイントは2倍になります。

全てのポイントの合計を「幸せポイント」と呼び、ポイントの総量でゲームとしての勝敗を決めます。

今回は、参加者を2人組のペアに分け、チーム戦で行いました。通常のすごろくのルールと同じで、サイコロを振って出た目の数だけコマを進め、止まったカードのエピソードやクイズ（後述）を読みなが



ら進めていきます。語り合う中で、他の参加者の意見を否定せず、思いを受け止めることを大切にしながら行いました。今回は、私がファシリテーターとして進行役を担いました。

ボランティア支援室サポートスタッフを含め、さまざまな学部学科から11人の学生が参加してくださり、最初は私も含め、参加者の方々が緊張している様子もありましたが、遊んでいるうちに打ち解けました。みんなでクイズに答えたり、思いや経験を語ったりなど、カードに止まるたびに参加者同士で思いを共有し、時間が足りなくなるほど盛り上がりました。例えば、「自宅が一番転倒しやすい場所はどこでしょう?」というカードで、ペアの人と話し合って答えを出したり、「あなたの理想の終末期を語ろう」というカードで、最期はどんな生活を

をしたいか参加者みんなの思いを聞いたりしました。クイズでは、「試験勉強のときに覚えた!」と解説してくださる方や、経験をもとに、テーマに関することを教えてくださる方もいて、学び合いの場にもなりました。1つの話題でも、それぞれ全く違った経験や思いを持っており、話が広がって面白かったです。理想の終末期を語りあった際には、最期を過ごしたい場所、一緒にいたい人、やりたいことなど、さまざまな話をしました。「家で静かに過ごしたい」という方もいれば、「施設等に入居して、楽しく過ごしたい」という方もいるなど、各自の理想があり、とても素敵な思いを持っていました。

今回、ファシリテーションをさせていただくことになり緊張していましたが、参加者の皆さんの笑顔や温かさで、安心してゲームを行うことができました。私はこれまでも何度か「福祉人生すごろく」で遊んでいますが、使用するカードや参加者によって毎回違った話の内容や雰囲気になるので、何度でも楽しめます。そもそも福祉とは何かと聞かれても、よく分からない人も多いのではないのでしょうか。大変そう、責任が重そう、自分には難しいなど感じる人もいるかもしれません。「福祉人生すごろく」を通して、そうした人たちに福祉をもっと身近に感じてもらい、日常の中に溢れている福祉に向き合う機会になっていたら嬉しいです。

(社会学部2部社会福祉学科3年 ボランティア支援室サポートスタッフ 福永 そら)

*1: 福祉の仕事のイメージアップや、福祉の関係人口を増やすことを目指して活動中。学生団体として発足し、2022年に一般社団法人の法人格を取得。 <https://sites.google.com/view/fukushi-kttoy/>



⑤ トランスジェンダーから見える“世界”と“共生” 「当事者が語る、率直な思い」

講 師	勝又 栄政さん
開催期間・日時	2023年6月9日(金) 13:00~14:30
会 場	東洋大学 白山キャンパス 6101教室 およびWEB配信
目 的	トランスジェンダーの当事者の方からの体験談を聞き、「LGBTQ」に関する知識や当事者の方の心境や周りの社会がどのような状況だったことを知り、自分たちの周りで「当たり前にある」ことを認識する。
参 加 者 数	171名 ※アンケート提出者より 【内訳】授業学生143名、一般27名
協 力	社会学部 井沢泰樹教授「社会文化システム概論B／ダイバーシティ概論」

■ 活動内容 (概要)

本学の卒業生であり、現在宮城教育大学および立命館大学大学院にて教育・研究を行われている勝又 栄政氏をお迎えし、「LGBTQに関する基礎知識や当事者体験談を通して「当事者が語る、率直な思い」、「多様性を認め合う社会とは?」と題して社会学部井沢先生の授業「社会文化システム概論B／ダイバーシティ概論」にて公開授業形式で行った。

「トランスジェンダー」であるご本人自らの話を幼いころから現在男性として過ごしていくまでに体験された半生と社会や法制度に対して対峙してきたことを率直にお話いただいた。

一方で、研究者として統計データや資料を用いて客観的に「社会的マイノリティ」の方々に対する社会の状況についてもお話していただき、私たち自身が「無意識で『性』について考えている」ことを知ることができた。

実名で活動をされている方が少ない中で、勝俣氏が後輩のためにお話しいただいたことは、聴講者においても貴重な体験となった。

【受講者アンケート 抜粋】

- ・当事者の方の非常に鮮明な体験、そして感情を交えての講演を聞くことができ、大変貴重な機会となりました。ここまでご自身の経験を客観視し、様々な方面に配慮しながらわかりやすく伝えら

公開 講演会

トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”

当事者が語る、率直な思い

勝又 栄政氏
トランスジェンダー 男から性別違和
立命館大学 文学部日本文学文化研究学系
宮城教育大学 社会学部
早稲田大学 社会学部 社会文化システム研究センター 主任教授

6/9
金
3限13:00~14:30
白山6101教室

LGBTQ基礎知識
当事者体験談
多様性を認め合う社会とは?

社会学部・富田社会学部「社会文化システム概論B／ダイバーシティ概論」の授業の中で
行います。聴講は無料です。

お申し込みは以下よりお願いいたします

お申し込み期限: 6/7 水
受講方法: 対面かWebのどちらかを選択可能
Web受講の方には随時配信アドレスをメールでお送りします

東洋大学 スタディオン 03-3945-7636 enlist@toyo.jp
<https://forms.gle/2Dm9u3f8W9M7G6dG0Ud187A10W610h1ed1>

れるまでいかに長い道のりを歩んでこられたか…想像することしかできませんが、発信してくださり心より感謝しております。本当にありがとうございました。

- 自分自身、LGBTQの人に対して偏見や差別的感情を持っていたわけではないが、どこか他人事で、そういった人たちがどのような世界で生きているのか考えたこともなかったし、想像できなかった。今回の講義で誰かの言葉が、態度が知らず知らずのうちに生きづらい世界を作り上げる要因になっていたのだと気づかされた。
- 今日の講義を聞いて改めてLGBTQ、トランスジェンダーの方たちの大変さを感じました。性別違和による身体の変化に戸惑いを感じたり、周囲の価値観と自分との気持ちのズレの間では生きづらさを抱えてしまうと思うし、幼少期にそのようなことがおこることによってこれからの生活にも影響を与えてしまうと思います。またそれをカミングアウトするということもとても勇気のあることだと考えます。



【勝又氏 講演会】



【白山キャンパス講演会】



【SDGsカフェ】

⑥ 当事者が語る、ソーシャルワークへの期待 「トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”」

講 師	勝又 栄政さん
開催期間・日時	2023年6月13日(火) 14:45~16:15
会 場	東洋大学 赤羽台キャンパス WELLB HUB-2 20502教室 およびWEB配信
目 的	トランスジェンダーの当事者の方からの体験談を聞き、「LGBTQ」に関する知識や当事者の方の心境や周りの社会がどのような状況だったことを知り、自分たちは「支援をするには何をしたらよいのか」を考えるきっかけとする。
参 加 者 数	280名 ※アンケート及び受講レポート提出者より 【内訳】授業学生268名、一般12名
協 力	福祉社会デザイン学部 高山直樹教授「ソーシャルワークの基盤と専門職A/社会福祉の基礎/ソーシャルワークの基盤と専門職I」

■ 活動内容 (概要)

本学の卒業生であり、現在宮城教育大学および立命館大学大学院にて教育・研究が行われている勝又 栄政氏をお迎えし、「LGBTQに関する基礎知識や当事者体験談を通して「当事者が語る、率直な思い」、「ソーシャルワークへの期待」と題して福祉社会デザイン学部高山先生の授業「ソーシャルワークの基盤と専門職A/社会福祉の基礎/ソーシャルワークの基盤と専門職I」にて公開授業形式で行った。

「トランスジェンダー」であるご本人自らのお話を幼いころから現在男性として過ごしていくまでに体験された半生と社会や法制度に対して対峙してきたことを率直にお話いただいた。

一方で、研究者として統計データや資料を用いて客観的に「社会的マイノリティ」の方々に対する社会の状況についてもお話ししていただき、ソーシャルワーカーとして私たちが「どのような意識をもって支援をしたらよいのか」などを考えさせられる時間となった。

実名で活動をされている方が少ない中で、勝侯様が後輩のためにお話しいただいたことは、聴講者においても貴重な体験となった。

【受講者アンケート 抜粋】

- LGBTの人をどこか遠い人のような気がしていて、出会う事がないと思っていたが佐藤さんや鈴木さんよりも多いと知って自分もどこかで会っているのかと感じた。偏見や差別のない世の中にするために自分も能動的に情報を取り入れていこうと思った。
- トランスジェンダーの方からの世界の見え方というのは、自分では決して知りえないことであったので、とても貴重な経験となった。勝又さんの生きた時代はLGBTQへの理解がほぼないといっていた環境だったと思うので、今はLGBTQの方も少しは生きやすさを感じることができるのかなと思った。
- 本日の講義を聞いて、LGBTの辛さがわかりました。それは、学年が上がるにつれ男女のグループが分かれ、男または女同士での付き合いが増えてきて、LGBTの方が本当なら好きな方に行き

たいが、本来の性別の人たちとの方に行かないとオカマやおなべなどと揶揄されてしまい自分の好きな方に行けないことが多いと感じたからです。

- 私はこれまで身近にLGBTQ+の人が居たことがないので、名前や話も聞いた事あるけど漠然とし
か知らなくて初めて生の声を聞くことが出来ました。男性ホルモンを性転換のために打ち続けなけ
ればならなかったりそれに関連するお金を保険適用にして欲しいという話は、普段聞けない現実的
かつとても深刻な悩みだと感じました。1回の注射で3万円ほどかかると耳にしたことがあるのでそ
れをコンスタントに打つと考えると私も考え方や偏見を無くす努力だけでなく、保険適用内にして
積極的な援助をして欲しいと感じました。

講演会

L, G, B, T, Q

当事者が語る、
ソーシャルワークへの期待

トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”

勝又 栄政 氏

トランスジェンダー男性/性別違和
東洋大学 文学部日本文学文化学科卒業
富成教育大学 非常勤講師
京産大学大学院 一貫執業士課程

6/13

火

4限14:45~16:15

赤羽台キャンパス実施
(WELL3 HUB-2)
20502教室

LGBTQ基礎知識
当事者体験談
多様性を認め合う社会とは？

社会学部・社会福祉学科「ソーシャルワークの基礎と専門性Ⅰ／社会福祉の基礎／ソーシャルワークの基礎と専門性Ⅰ」の授業の中で行います。担当：高山信樹 教授

※5/3の公開研究会「トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”」とはほぼ同様の内容となります

お申し込みは以下QRよりお願いいたします

お申し込み期限：6/9（金） 対面受講は先着20名

受講方法：対面かWebのどちらかを選択可能

Web受講の方には後日配信アドレスをメールでお送りします

東洋大学エクステンション課 03-3945-7636 ext@toyo.jp

<https://docs.google.com/forms/d/1SAi67TH4BhT5Lyzn0a8Kq99vdeU1gkFpx3t/vu1>

TGL

活動内容・各企画概要

35

7 「ウクライナの子どもたちは今」 ～ウクライナ侵攻から1年以上が経過した ルーマニアの支援現場からの報告～

講 師	プラン・インターナショナル・ジャパン プログラム部シニアプログラムオフィサー 山形文氏
開催期間・日時	2023年6月22日(木) 10:40～12:10
会 場	東洋大学 白山キャンパス 6101教室
目 的	ロシアのウクライナからの侵攻から1年以上が経過しましたが、いまだに先が見えない状態が続いております。 そこで昨年度講演をいただきました山形氏に登壇いただき現在のウクライナ及び周辺諸国の対応の変化についてお話をいただき、私たちにできる支援を考える機会とします。
参 加 者 数	計114名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】授業受講者89名、一般25名
協 力	福祉社会デザイン学部 小野道子准教授

■ 活動内容 (概要)

ロシアのウクライナ侵攻が始まり1年以上が経過しました。

世界はポストコロナの中日常を取り戻しつつありますが、この間にも多くのウクライナ国民が日常生活を奪われ続けており、支援を必要とする人が大勢おります。昨年度、社会貢献センターでは「ウクライナの人々や子どもたちは今」と題して3回にわたり日本国内外でウクライナへの支援を行う方々より講演をしていただき、ウクライナで「今」起きていること、私たちに「何が」できるのかをお話しいただきました。

私たちの生活が「平常」になる中で、もう一度ウクライナの現状について知り、1年以上を経た現地の状況の変化、ルーマニアや近隣諸国からの支援においてどのような変化があるのか、「何かできることはないのか」を考える機会となりました。

【聴講者アンケートより】

- 今回の講義を聞いて、ウクライナの人々の大変さを改めて感じました。避難民の多くが女性と子どもであり、避難した先の多くがロシアであることにとても驚きました。また、就学前教育のオンライン授業の話を聞いて、普段当たり前のように学んでいるこの環境がとても幸せなことなんだと実感しました。
- ウクライナとロシアの戦争のニュースは始まった最初のほうは取り上げられていたが、最近ではそこまで見なくなってしまった。しかし現地の人々は支援を必要としている人が多くもっと日本でもこの戦争問題を取り上げるべきだと感じた。

- 自分が育った地とは異なる環境で子どもたちの就学前教育をするというのは、当然バックグラウンドが異なるためにとても大変なことなのだなと感じました。今後もウクライナのことにもっと関心を持って情報を取り入れていければと思いました。
- 本日の講義を通して、ニュースではあまり見れない事を知れたり子供たちの心の傷の大きさを改めて知ることができました。子供が座って居られないと聞いた時はいつ襲撃が来るのか分からない恐怖を感じていてとてもトラウマが残ってしまっているんだなと感じ少しでもその子供達の不安を取り除ける様な環境がもっと増えたらいいなと思いました。
更にはルーマニアの取り組みなどのお話を聞いてとても素晴らしいなと感じました。
50/20プログラムを提供していてとても出来そうで出来ないことなので素晴らしい活動だと思いました。



⑧ Toyo 1day ボランティアプログラム 「ビーチクリーンアップ in Yuigahama Beach ～SDGs14『海の豊かさを守ろう』～」

開催日時・会場	- 日時：2023年6月25日（日）10：00～12：00 - 会場：由比ガ浜海水浴場
目的	1) 海洋汚染の現状を知り、その対策としての行動を参加学生が自ら実行できるようになるためのきっかけとすること。 2) 参加学生が、ボランティア活動の意義や楽しさを実感できるようになること。
参加者数	18名
インタープリター	相良 菜央さん (I.C.E.R.C Japan (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター) 代表)
共催	多摩大学学生社会ボランティアコーナー
企画運営	東洋大学SDGsアンバサダー、多摩大学学生有志
協力	I.C.E.R.C Japan (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)

■ 活動内容 (概要)

「ボランティア活動を実体験することで、ボランティア活動など社会参加に一步を踏み出すきっかけに」と実施している「Toyo 1day ボランティアプログラム」を、多摩大学学生社会ボランティアコーナーが実施している「多摩大学ボランティア体験プログラム」と今回ジョイントし、両大学の共催による形で鎌倉市の由比ガ浜海岸において活動を行いました。

昨年度、本学で開講したオムニバス科目「SDGs実践講座」のゲスト講師として、相良さんに登壇いただきましたが、その際に受講していたSDGsアンバサダーの学生数名が中心となり、多摩大学からも学生が加わる形で企画チームが編成され、この度の実施に至りました。

以下、本学学生からの報告です。

今年の2月から6月にかけて約10回のミーティングを行い、開催に向けて準備を進めてきました。ミーティングでは、活動の目的や活動を通して何を大切にするのかを中心に話し合いました。また、目的などを決める前に東洋大学の企画メンバーは多摩大学の学生とパートナーシップを築き、今後もこの活動以外にも幅を広げていきたいという目標があり、お互いを知り、関係を築くために自己紹介やアイスブレイクに時



間をかけました。そして、活動の目的は東洋大生・多摩大生共に「ボランティアの良さを知ってもらい、次のアクションにつなげるきっかけにしよう」という点で一致しました。

企画当日はグループに分かれ、活動前にアイスブレイクを行ってから、ビーチクリーン活動に移りました。アイスブレイクは今回が初めましての方がほとんどだったにもかかわらず、参加者全体で楽しんでいる様子でした。アイスブレイクを行っ



てからのビーチクリーン活動は、参加者同士のコンタクトが取りやすい印象を受けました。

本題のビーチクリーン活動では大きく、目立つゴミはそこまで多く落ちていませんでしたが、拾うことが難しいマイクロプラスチックは多く落ちていました。参加者の声からは「今日拾った細かいゴミが魚の口に入って巡り巡って、いずれ私たちの人間の中にたまっていく、またはもうたまっているかもしれないと思うと怖いと感じた」というものがありました。細かいゴミ、マイクロプラスチックを実際に見て、拾ったことで参加者には、海洋汚染の現状を知ってもらえたのではないかと考えます。

ビーチクリーン後、相良さんからイルカ・クジラの暮らす海を取り巻く現状について、レクチャーいただきました。イルカやクジラたちが、私たち人間の出したゴミが海に流れ着いたことによってそれを食べてしまい、お腹の中にビニール袋などのゴミが溜まってしまっている現状などを知り、私たち人間と海とのつながりを感じたことが1番の気づきでした。

ビーチクリーン活動とレクチャーを踏まえて、参加者間でグループディスカッションを行い、どのような気づきがあったかなどグループごとに分かれて議論しました。ビーチクリーン活動だけでなく、行った上でどのような気づきがあったか、考えたことなどをお互いに共有する時間をつくったことで、参加者間で刺激があったと思います。また、現状を知り、現状への対策や私たちができることを考え、参加者が自ら実行するきっかけになったと考えます。

今回初めて、企画リーダーとしてビーチクリーンを行った所感は、反省点は多くありますが、参加者学生の当日のビーチクリーンを楽しみながら行う様子を見られたことや、多摩大学生と企画を実施できたことは達成感や嬉しい気持ちが率直にあります。反省点として、企画当日から逆算して準備を行うことができなかったため、企画を行う1ヶ月前に慌ただしく、当日の流れなどを決めることになってしまったことが挙げられます。また、当日の進行やグループディスカッションなどのワークショップなどにかかる準備も時間をかけることができなかったため、準備にかかる時間も逆算して考える必要があると思いました。また多摩大学とのコラボにおいて学んだことは、



ボランティア企画と一緒に実施することの楽しさや、他大学とどのように企画を運営して、どのように関わっていくことができるかを学びました。企画を多摩大学と実施する上で大切にすることは、どのようにビーチクリーンを行うべきか意見を出し合い、それぞれの意見を尊重したことです。

当企画は、企画運営メンバーの協力や相良さんの協力、ボランティア支援室の職員の方の協力があり、無事に開催することができました。最後に、当企画に協力していただいた相良さん、ボランティア支援室の皆様に感謝申し上げます。また今回のビーチクリーンが多摩大学との初の協働企画となりましたが、今後もこうした企画ができるようにSDGsアンバサダーとして精進してまいります。

(国際学部国際地域学科2年 東洋大学SDGsアンバサダー 佐々木 愛歌)



⑨「そなエリア東京」フィールドワーク （「防災ゲームDay2023」実施に合わせて）

開催日時・会場	- 日時：2023年7月2日（日）9：30～17：00 - 会場：東京臨海広域防災公園（そなエリア東京）
目的	(1) 首都直下型地震を念頭においた大規模災害発生時の状況をイメージでき、そのための対策として何が必要かということを理解すること。 (2) 防災ゲームを通じて気軽に防災・減災に親しみ、アンバサダー学生が自ら関心を持てるようになること。 (3) 防災ゲームDay出展団体との関係性を築き、今後の交流につなげること。
参加者数	17名
ナビゲーター	日比野 勲（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
企画運営	東洋大学SDGsアンバサダー（防災・まちづくりチーム）

■ 活動内容（概要）

東洋大学SDGsアンバサダー防災・まちづくりチーム（以下、防災・まちづくりチームと表記）は、大規模災害時における大学の学生ボランティアリーダーとしての行動計画策定と、災害時の支え合いに備えた平時からの大学近隣地域との関係性づくりのための地域ボランティア活動などを行うチームとして、2023年度は17名のメンバーが集まり活動していくことになりました。

本企画は、2023年度の防災・まちづくりチームの初めてとなる活動として実施が計画されました。今後、大学における大規模災害時の学生ボランティア行動計画を策定するにあたり、まずは防災・まちづくりチームの学生が防災・減災を楽しく学び、自ら関心を持てるようになるために、首都直下型地震発生の状況を追体験できる「そなエリア東京」の「東京直下72h Tour」への参加と、同日開催された「防災ゲームDay 2023」（主催：一般社団法人防災教育普及協会、東京臨海広域防災公園管理センター）の参加を含めたフィールドワークを実施しました。

以下、防災・まちづくりチームの学生からの報告です。



私たち、防災・まちづくりチーム17名は、7月2日に行われた「防災クイズ&ゲームDay 2023」の実施に合わせた「そなエリア東京」のフィールドワークに参加しました。

○防災クイズ&ゲーム Day 2023

国土交通省国土技術政策総合研究所や産業技術総合研究所、中央大学、法政大学など、さまざまな団体や、大学が出展した防災に関するゲームや教材の体験会が行われました。自分では想像しがたい災害や、災害に対する備えをゲームやクイズにすることで大人から子どもまでわかりやすく理解でき、覚えることができます。

午前午後と参加者それぞれにあらかじめ体験したい展示や希望時間をヒヤリングし、各自の興味のある展示を周ったり、体験した内容を共有しあったりしました。



【参加者の感想*】

- 実際を楽しみながら、避難所と、避難場所の違いなどを学ぶことができました。
- すごく作り込まれていて、座って考えるだけでなく、動いて答えを見つけにいくことがとても楽しかったです。初対面の人同士でも仲良くできる楽しいゲームだと思いました。地震と津波に関しての問題だったのですが、津波が起きた際の適切な行動を学ぶことが出来ました。
- 子供にもわかりやすく、大学生のいまの今まで知らなかったことも書かれていて、知るきっかけになりました。



○東京直下72h Tour

実際に災害後の街並みが再現されたジオラマ展示で地震災害後の正しい行動の仕方を、タブレット端末を使って学び、更に防災グッズや防災に関する備えが書かれた展示を見学し、日頃から備えたい防災の知識を学びました。

揺れで前に倒れた自動販売機や全壊した家屋、点滅した信号機など、災害後が再現された等身大のジオラマを見たことで気が引き締まり、この中で自分の身を守ることは出来るのか、周りの人々を助けることができるのかと何度も考えました。

【参加者の感想*】

- 映像だけではなく、実際に地震が起きた街の模型を歩くことで、改めて災害の怖さや、家具を固定することの大切さ、備えておくべきものなどを学ぶことができました。
- 正直、少し怖かった。しかし、実際に被災した際にはそのようなことは言っていられないので、災害に備えようと思った。

- 実際に被災したかのような状況を見て、想定していないことが普通に起きる事を学びました。いつもいけた道が、場所が急にいけなくなったりと、何が起きてもおかしくないと体系的に学びました。身の回りでも町の防災を再確認したいと感じました。

今回の体験を通し、メンバーそれぞれの防災意識が上がり、災害が起きたとき、そして起きる前に備えておくべきことを考えることができたと思います。また、今回学んだことを大学内の行事や企画を通して共有することで、大学内の災害に対する意識も上がるのではないかと考えました。メンバー内では、「体験した防災ゲームやクイズを大学祭でも行いたい」といった声や、「ゲームやクイズを作成し、今度は出展して防災の大切さを伝えたい」といった声も上がっていたことから、今回学んだことをどのように周りに共有していくかを改めて考え話し合うことも必要だと感じました。

今回の体験を今後の活動に活かし、新たな企画にも取り組んでいきたいです。

(文学部 2部 日本文学文化学科2年 東洋大学SDGsアンバサダー 大崎美空)

*参加者の感想は原文のまま。



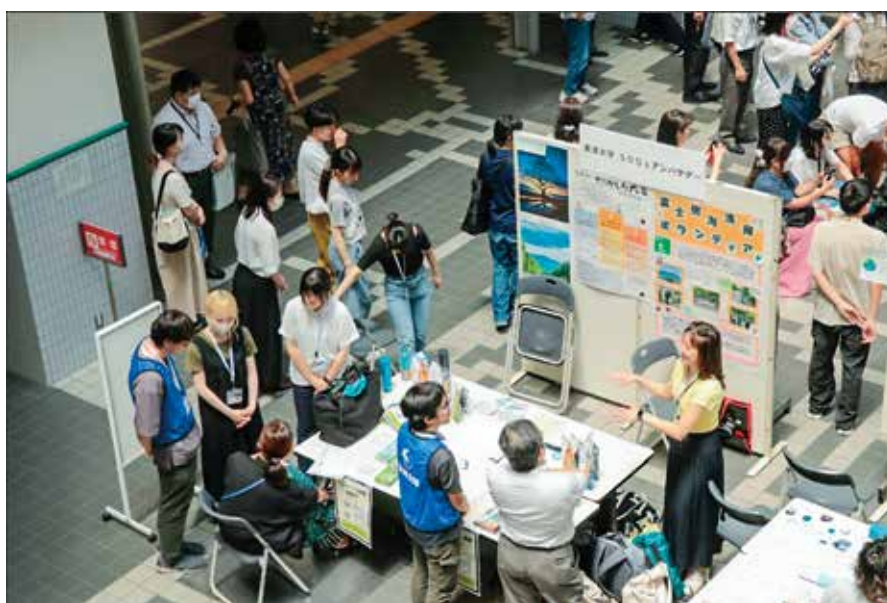
10 「クールアースフェア2023」への出展

開催期間・日時	2023年8月4日（金）13：30～15：30
会 場	文京シビックセンター 地下2階区民ひろば及び1階ギャラリーシビック
参 加 者 数	本学学生13名
主 催	文京区環境政策課

■ 活動内容（概要）

今回のクールアースフェアについて、我々東洋大学SDGsアンバサダーは身近な日常生活をテーマに、CO2排出の見直しに関する展示や、CO2削減に向けた行動について考えるカードゲームを行いました。

当日は多くの来場があり、本学の展示やゲームを楽しんで頂いた上で、CO2削減やカーボンニュートラルについて来場者、本学アンバサダーの間で活発に議論が交わされていたように思いました。



また、ベジプロ東洋との合同企画でヴィーガンに対する理解を深めてもらおうと、ヴィーガンに対応した菓子をカードゲーム参加賞として来場者に配布したところ、「興味を持った」などと好意的に受け止めていただくことができ、一層本学アンバサダーとの交流も深まっていたように思います。

このように来場者との交流を深めることができた事については、普段は学内にて活動することが多い我々アンバサダーにとって、外部の方々と触れ合う機会は珍しいため大変貴重で、良い刺激を受ける機会となりました。

さらに、来場者の方々との交流のみならず、クールアースフェアに出展していた、文京区内にてSDGsや地球温暖化対策に取り組む各企業や大学、自治体との交流も行いました。

出展団体との交流の中では、各団体の性質や得意分野を豊かに反映した様々な取り組みについて理解することができ、本学の取り組みにおいて参考となるようなカーボンニュートラルに向けた新たな知識や見解を得る機会となりました。そして、出展団体や当日の来場者との交流全体を通じて、SDGsにおける「誰一人取り残さない」という理念に関して、例えば今回の「カーボンニュートラル」のように、同じ目標について取り組む各ステークホルダーのパートナーシップを強く再確認することができました。

（国際学部国際地域学科2年 SDGsアンバサダー 松本和夫）



11 サイボウズ(株) CSRスタディーツアー

開催期間・日時	2023年9月6日(水) 13:30~15:30
会場	サイボウズ株式会社 日本橋タワー 27階
目的	社会貢献を行う企業に訪問し、社員の方にお話を聞きながら取組を学び、また社内見学をすることで、様々な角度から企業を知り、視野を広げる。
参加者数	12名
協力	サイボウズ(株) 渡辺 清美さん、林 大介先生

■ 活動内容 (概要)

近年、SDGsに代表されるように、社会課題への関心やそれに対する取り組みが世界中で高まっている。以上の展開は行政やNPO法人にとどまらず、多くの民間企業においてもCorporate Social Responsibility (CSR) を念頭に置いた活動が行われている。今回は、そういった民間企業におけるCSRの現場を知るため、文京区は日本橋タワーの「サイボウズ(株)」に訪問し、実際に活動に取り組まれている社員の方にお話を伺った。

本企画はオフィスツアーと講演会の二部構成で行われ、前半のオフィスツアーでは27階のラウンジエリアや28階のオフィスフロアを見学して回った。ラウンジエリアはテーマパークのような装飾が施されており、訪れた人が一目で社風を体感できるような空間になっていた。中央にサイボウ樹と呼ばれる樹の装飾があり、それを取り囲むようにカフェ風のテーブル席や世界中の港町をテーマにした応接室などが配置されている。また、オフィス内の自販機では無料でドリンクが提供されていたり、各応接室には授乳用のカーテンが備え付けてあったり、子連れ出勤に対応したキッズスペースがあったりした。一方、そのようなオープンな雰囲気ของオフィスにおいても機密情報やプライベートな情報を保護する必要があるため、物理的なセキュリティレベルが敷かれていた。

後半の講演会ではワークショップ用の会議



室に集まり、サイボウズ(株)の具体的なCSR活動についてソーシャルデザインラボの渡辺さんにお話を伺った。ソーシャルデザインラボはもともと社長室であり、あらゆる社会課題を解決するための「育苗実験」を行う活動主体として設立された。これまで虐待防止や防災、教育、障がい者支援、社内外のキャリア支援など、様々な活動を行ってきたとのことだが、そうした活動の背景にも企業理念が垣間見えた。サイボウズ(株)はグループウェアを通して「チームワークあふれる社会」の実現を目指しており、そのためのキーワードとして『共感』『個性の尊重』『公明正大』『自立と議論』の四つを挙げている。現に、グループウェア『kintone』がもたらす情報格差の克服もその一例である。この理念は製品やCSR活動に限定らず、オフィスの雰囲気について前述したように、従業員の働き方にもしっかりと反映されていた。例えば、サイボウズ(株)ではテレワークや育休の取得をコロナ禍以前から推奨しており、多くの従業員にとって働きやすい職場環境を提案していることが分かった。とくに印象的だったのは、社長自ら育休を3回も取得していたというお話である。一方、テレワークでチームワークが低下しないよう、定期的にオンラインで社内イベントも開催しているとのことだった。さらに、『自立と議論』という点でサイボウズ(株)は自己申告型の給与制度を採用しており、従業員は自己評価の延長として人事との交渉によって自身の給与を決定していることが分かった。

本企画を通して強く感じたのは、サイボウズ(株)の理路整然とした社風である。従業員の働き方から、企業ブランディング、オフィス、製品に至るまで企業理念が体现されており、

一貫した企業像に感銘を受けた。本企画には東洋大学SDGsアンバサダーとして参加したが、やはりSDGsアンバサダーの活動理念に重なるお話も多く、大変参考になった。また働き方についても大きく触れたように、一就活生としても非常に魅力的な企業であるという印象を受けた。

(生命科学研究科生命科学専攻博士前期課程 水関祐歩)

【参加学生の感想】一部抜粋

- サイボウズの多様な働き方やチームワークを大切にした様々な取り組みが印象に残った。



- チームやチームワークを重要視することで、新たな人との繋がりやチームが生まれ、それが社会を良くしていくことにも繋がるということを学ぶことができた。
- 個人を尊重しつつ、グループで活動する重要性を学ぶことが出来た。
- オフィスの設備が印象に残った。テレワークの人がほとんどですが、子どもを連れて行けるような部屋が用意されていたことに驚きました。また、kintoneが人と人を繋いでいるということも印象に残りました。



12 CSRスタディーツアー NEC ネットズエスアイ(株)

開催期間・日時	2023年9月13日 (水) 10:00~12:00
会場	日本橋イノベーションベース
目的	CSRスタディーツアーとして企業が実施している社会貢献活動等についての取り組みを知り、学びを得る。
参加者数	9名 (学生7名・引率2名)
協力	林 大介先生

■ 活動内容 (概要)

林大介非常勤講師のご紹介のもと、昨年度に引き続きNEC ネットズエスアイ(株)のCSRスタディーツアーを実施した。

はじめに総務部社会貢献・エリアコミュニケーショングループの鈴木様よりNEC ネットズエスアイ(株)の社会貢献活動への取り組みについて「社会貢献」とは「社員のボランティア」とは等、具体的な活動例を提示いただきながら説明をいただいた。その中で「現地」「現物」「現実」(3現則)のお話をいただき、仕事でもその他の体験についても「自分の目で見て、自分の言葉で伝える」ことの大切さをお話いただいた。

続いて林様より、「働き方改革」の取り組みについてお話をしていただき、「他社に提供をしているサービスが自社でも使いこなせるか」という視点からスタートしたこと、自社のインフラサービスを用いた業務改革についてお話いただいた。

質疑応答では、社内のテレワークに関する質問や、外国人の採用状況、その他就職活動全般に関する質問が出る等、有意義な学びの機会となった。

続いて、社内の見学を行い、「フリーアドレス化」されたオフィスや、全国の事業所がwebで繋がれているシステム、



様々なタイプの会議室や外部への配信用のZOOMスタジオを見学し、情報インフラの重要性や「テレワーク」と「対面業務」が併用されていることを間近で体験することができた。

最後に参加者全員がみんなの前で「感想」を発表し、このような経験も積極的に行ってほしい。とお言葉をいただいた。

【参加学生の感想】一部抜粋

- 企業の社会貢献は名目ばかりのイメージがあった。だが、今回そのイメージが変わった。企業のボランティア活動を通して、現場を見て知り、社会貢献に繋がっていくという大きな役割を果たしていることを知れた。オフィスの環境も、オープンで様々な個人の気持ちに合わせて場所を選べる、緑も多く明るいオフィスだった。自分の想像していた会社像と違いすぎて衝撃を受けた。
- 今回、紹介して下さったおふたりが、楽しんでお仕事をしているということ。どうしても、仕事はやりたいことではなく、出来ること、生きるためのこと、というイメージだった。このことを知れたのは、今後の自分のキャリア形成へのヒントとなった。



13 東洋大姫路SDGs フェスティバル

開催期間・日時	1日目：2023年9月30日（土） 13時30分～15時（SDGsアンバサダー参加） 2日目：2023年10月1日（日） 10時～（高山センター長のみ参加）
会場	1日目：東洋大学附属姫路高等学校 50周年記念ホール 2日目：東洋大学附属姫路高等学校食堂、近隣田んぼ
本学参加者数	本学学生3名、教員1名
主催	東洋大学附属姫路高等学校

■ 活動内容（概要）

東洋大学からはSDGsアンバサダー3名が、学生代表として1日目に参加しました。

高校に到着し、姫路高校の校長、地域活性部顧問の八木教諭と山崎教諭と共に、地域活性部で取り扱っている粕を使った粕汁をいただきながら、懇親を深めました。現在大学で学んでいることから、過去の部活動のことまで、様々な話をさせていただきました。

SDGs フェスティバルでは初めに、NPO法人フードバンクはりま理事長の辻本美波様の講演会を拝聴し、具体的な活動例から貧困家庭の実態を学びました。特に、フードバンクの支援を受けている家庭には両親の支援がない若い夫婦が多い、というお話が印象深かったです。高校生や地域の方からの鋭い質問も多く飛び交っており、生徒・学生の立場から貢献できることは何か、考える場となりました。次にこちら側から、大学で取り組んでいることを発表しました。アンバサダーでの活動として「富士樹海清掃」、「おにぎりアクション2022in東洋」、「ビーチクリーンアップin由比ヶ浜海岸」、「防災施設『そなエリア東京』への見学」、「東洋大学宿泊サバイバル」、東洋大学での活動として「Diversity Voyage」を紹介しました。その後、高校生から地域活性部の取り組みとして、姫路若菜の缶詰や甘酒の商品化についてなどの紹介がありました。高校生の部活動の取り組みとしてはとてもレベルの高いもので、非常に興味深かったです。

最後に高校生と交流会をし、大学についての話や、地域活性部に入部した理由、進路についてなど、





交流することができました。普段、あまり関わる機会のない高校生とコミュニケーションがとれ、有意義な時間を過ごすことができました。

【参加学生の感想】

姫路での取り組みを知ることができるだけでなく、東洋大学と姫路高校が共に歩む未来を考えることができました。交流したという事実だけが残ったわけではなく、コラボレーションに続くという持続性が線で繋がり、これからのコラボレーションに期待できそうでした。

(経済学部国際経済学科4年 加曽利 峻佑)

姫路高校に行ってみて、現地の高校生は地域の酒造や農家などと連携した商品を作っていて大変興味深かったです。我々SDGsアンバサダーは地域と連携した活動がまだ少ないように感じるので、今後は地域連携のやり方などを姫路高校の学生から教わりたいと感じました。また、ここで得た絆を大切に、姫路高校と新たなプロジェクトを作りたいと思いました。

(経済学部国際経済学科2年 中津 拓人)

高校生たちが自ら、地元が直面する課題に向き合い自分たちにできることを形にしていることに、感銘を受けました。東洋大学としても、都心の大学ならではの地域との関わり方を見つけていけるといいと思いました。また、高校生との交流の場面では、地域活性部に入った思いを聞くことができ、改めて自分自身がやりたいこと、目指したいものは何なのか、見つめ直すきっかけにもなりました。

(経済学部総合政策学科2年 塚原 千晴)



14 「みんなの金融セミナー」

開催期間・日時	2023年9月30日(土) 14:00~16:00
会場	KABUTO ONE 4F HALL & CONFERENCE
参加者数	3名
主催	一般社団法人東京国際金融機構 (FinCity.Tokyo)

■ 活動内容 (概要)

持続可能な都市づくりに貢献するESG投資やサステナブルファイナンスの普及、さらに本分野における東京のプレゼンスの向上等を目的とした東京・サステナブル・ファイナンス・ウィーク2023の一環として、9月30日に、時事通信社主催の「みんなの金融セミナー」が開催されました。これは、投資やSDGsに焦点を当て、サステナブルファイナンスをわかりやすく学ぶことを目的としていました。東洋大学SDGsアンバサダーはSDGsの活動を紹介する学生の団体としてオファーを頂き、登壇しました。私たちは、サステナブルファイナンスを広めることを目的としたパネルディスカッションをする上で、SDGsアンバサダーとして学生主体で行っているSDGsの活動を紹介しました。

私たちは、今年6月に実施されたビーチクリーンアップと今年8月に行われたクールアースフェアを活動事例として発表する準備をしました。その中で、見やすさ・わかりやすさを意識してスライドを作りました。当日までは時事通信社の方々と打ち合わせを重ね、方向性や流れの確認をしました。

当日は、時事通信社の担当者の方々との打ち合わせや事前準備に則り、東洋大学SDGsアンバサダーとして登壇依頼を受けた3名がKABUTO ONE ホール(中央区日本橋)にて、サステナブルな活動の実践事例の一部として、学生主体で行うアクションを紹介するというテーマのもとパネルディスカッションのパネリストとして登壇し、講演を行いました。

私たちは、東洋大学SDGsアンバサダーがどのような形態や目的で活動しているのかという団体の紹介に始まり、実際の活動例として今年6月に実施されたビーチクリーンアップin 由比ヶ浜や、同じく8月に実施されたクールアースフェア2023について紹介しました。

なお当日は、会場の他YouTubeを用いたオンラインハイブリット配信形式となっており、日本全国のみならず世界各国にも向け配信されたとのことでした。

また、講演の前後の時間を活用し、当日の登壇者、並びに関係者各位と名刺交換を実施し、サステナブルな未来実現に向け行動する「仲間」としてのパートナーシップを深めるという観点から交流を行いました。



【参加学生の感想】

<振り返り>

今回の「みんなの金融セミナー」での登壇では、私達SDGsアンバサダーの活動目標のひとつである、学外へのSDGsの周知と活動の活性化へ大きく前進した、意味のあるイベントだったと思います。実際に参加した方からのアンケートでは、「社会人の私も未来の人のために小さなことから取り組みたい」と思える講演でした。」という声があり、講演の中で話した、「他者を巻き込んでSDGsに取り組む」という、私たちの一番伝えたいメッセージを理解してもらうことができました。今後も積極的に学内だけでなく、外部の団体の講演等に参加し、ともに活動に取り組んでいきたいと思っています。

(経済学部総合政策学科4年 瀬野 晴仁)

【感想】

今回初めて社会人の方とパネルディスカッションをしたので、全てが新鮮でした。今までサステナブルファイナンスについての知識はありませんでしたが、登壇者の方々のお話を聞いてイメージを膨らませることができました。講演後はJALの方に個別にお話を伺い、「かくれナビリティ」について教えていただきました。調べたところ、私たちが飛行機に乗るときにできる一工夫が載っていたので、やってみてみたいと思いました。

この経験を通して、大勢の人の前に登壇してお話をする大変さやおもしろさを知ることができました。今後も機会があればやってみたいです。

(経済学部国際経済学科2年 奥田 千裕)

日本の金融の中心地とも言えるような日本橋の地で、各企業や学校の幹部や要職の方々と肩を並べて、パネルディスカッションを行うということがすでに新鮮であり、非常に貴重な経験となったと感じます。また、このような場においても過度な緊張をせず、しっかりと自分達の、「東洋大学SDGsアンバサダーらしさ」を発揮することができたことについても新たな発見でした。是非とも、またこのような機会があれば参加したいと切に願います。

また、個人的な感想となりますが、今まで私が国際学部国際地域学科の所属ということもあり、金融についての知識はおろか、金融の重要性をもきちんと理解していなかったのですが、サステナブルな未来実現のため、その分野にしっかりと責任持って投資している企業を選ぶということが、消費者たる我々に与えられた重要な役目なのだと気づくことができました。

また、日本航空株式会社を中心とした、サステナブルな航空燃料 (Sustainable Aviation Fuel=SAF) の使用枠組みの拡大などについてのテーマは非常に興味深かったです。今回の経験を踏まえて、

今後はより関連情報の収集を深く行っていき、日常生活からサステナブルについて意識したいと強く思います。

(国際学部国際地域学科2年 松本 和大)



パネルディスカッション
「持続可能な社会に向けた企業の活動や日常生活とのつながり」

講師・丸山サチ子氏・三浦サチ子氏・三浦サチ子氏 2023
みんなの金融セミナー

SDGs17 「パートナーシップで目標を達成しよう」

17 パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsに関する活動を活発化し、大学内だけでなく外部との※パートナーシップを確立・強化し、より幅広い視点から社会問題に取り組んでいます。

※パートナーシップ
同じ志を持つ仲間と出会い、自他共に価値観を認め合うことで関係性を深め、共に活動していくために、私たちが大切にしている共通認識です。



パネルディスカッション
「持続可能な社会に向けた企業の活動や日常生活とのつながり」

講師・丸山サチ子氏・三浦サチ子氏・三浦サチ子氏 2023
みんなの金融セミナー

クールアースフェア

今年の8月4日、SDGs-13「気候変動に具体的な対策を」に関連した活動として、文京シビックセンター（文京区）にて開催された「クールアースフェア2023」に出展しました。

本学アンバサダーは日常生活におけるCO2排出の見直しに関する展覧や、CO2削減に向けた行動について考えるゲームを行いました。

当日は多くの来場があり、本学の展示やゲームを楽しんで頂きました。また、我々アンバサダーにとっても来場者との交流を深めることができ、刺激的な機会となりました。




パネルディスカッション
「持続可能な社会に向けた企業の活動や日常生活とのつながり」

講師・丸山サチ子氏・三浦サチ子氏・三浦サチ子氏 2023
みんなの金融セミナー

ビーチクリーンアップ

今年の4月下旬に、SDGs-14「海の豊かさを守ろう」の意識の場として、いこいこJapanと東京大学と千葉大学が主催し、神奈川県の海浜13区にての海岸清掃活動「ビーチクリーンアップ」を行いました。

海岸にはたくさんの海ゴミが漂っていて、潮の満ち引きや風などで海に漂われ、海洋生物に被害を与えることを防ぐと同時に、彼らの様子を救済しました。

活動後はグループで振り返りを行い、プラスチック製品に対する認識が深まりました。




「持続可能な社会に向けた企業の活動や日常生活とのつながり」

みんなの金融セミナー

SEMINAR

パネルディスカッション
「持続可能な社会に向けた企業の活動や日常生活とのつながり」




15 都立小石川中等教育学校における防災授業講演

開催期間・日時	2023年10月6日(金)
会 場	都立小石川中等教育学校
目 的	- 防災教育や地域とのかかわりの強化を目指している都立小石川中等教育学校と関係性を構築し、今後の活動における礎を築く。 - 学生が参加した災害救援ボランティアや学内での宿泊体験について話すことにより、高校生に向けて防災意識を高めてもらい、災害救援についてより自分ごとに捉えてもらう。
参 加 者 数	SDGsアンバサダーより2名、IVUSAより3名、計5名
協 力	都立小石川中等教育学校

■ 活動内容 (概要)

SDGsアンバサダーと学内のボランティアサークル「IVUSA」は、10月6日(金)に都立小石川中等教育学校(以下「小石川中高」)にて共に防災に関する講演を行った。

これは、小石川中高が防災推進の指定校に選定され、その過程で地域との関わりを深めたり、より防災意識を高めていく必要があるため、同じ文京区内にある東洋大学と交流をしたいと申し出があったため開催されたものである。

今回は、4年生(高校1年生)の生徒に向けて、IVUSAより千葉県での災害ボランティア体験について、SDGsアンバサダーより2月に行われた「宿泊サバイバル訓練」について講演した。

高校生は災害救援や学内に宿泊した際の体験談について、時に真面目に、時に笑いながら熱心に聞いていた。

小石川中高の先生からは、今年度の宿泊サバイバル訓練への参加や、避難所運営ゲーム「HUG」の体験などの防災分野で東洋大学の学生と関わりたいほか、より地域に愛される高校を目指して防災以外の分野でもボランティア活動を行いたいという旨の連絡をいただいたので、今後の関係性の強化に期待できるイベントとなった。

以下、参加した学生からのコメントである。

発表中にクイズなどがあったことで、小石川中高



の学生さんに楽しく聞いてもらい、かつ興味も持ってもらえたと思います。また最後に、小石川中高の田代先生から宿泊サバイバルの話に絡めて、東日本大震災での田代先生自身の経験のお話があったことで、防災への関心が高まったのではないかと思います。これからも小石川中高との連携を取り合い、活動を続けていきたいです。

(経済学部総合政策学科4年 SDGs アンバサダー 高城 玲奈)



16 Toyo オンラインボランティアプログラム2023 「フィリピンの若者をつくるSDGsアクション!」

コーディネーター、 ファシリテーター	吉永 幸子さん (特定非営利活動法人 LOOB JAPAN 理事長) Ms. Ann Margaret Alelis (NGO LOOB Senior Program Officer)
開催期間・日時	Day.1 (事前研修): 10月14日 (土) 10:00-12:00 Day.2: 10月17日 (火) 18:30-20:30 Day.3: 10月24日 (火) 18:30-20:30 Day.4: 11月7日 (火) 18:30-20:30 ※時間帯は日本時間表記。
会 場	Zoomによるオンライン開催
目 的	①「小さな一歩からでも社会を変えていけるきっかけになる」というリアリティを感じ、活動への一歩を踏み出すきっかけを提供すること。 ②自分自身でさまざまな社会課題に対し、行動するための方法についてヒントを各自が持てるようになること。 ③地理的な制約を受けにくいオンライン環境を活用し、遠隔地であるフィリピンの若者と交流できる機会を創出し、広い視野をもったSDGsリーダーの育成をはかること。
参 加 者 数	12名 (本学学生のための数字) この他、LOBB フィリピンスタッフ、フィリピンユースボランティア、LOBB JAPAN インターン生およびオブザーバーの参加あり。
協 力	特定非営利活動法人 LOOB JAPAN 東洋大学国際ボランティアサークル Salamat 東洋大学ボランティアサークル ISR-ConnAction

■ 活動内容 (概要)

ボランティア支援室では、ボランティア活動へのはじめの一歩を踏み出すきっかけを提供することを目的とした「Toyo 1day ボランティアプログラム」を実施していますが、新型コロナウイルス蔓延をきっかけに、そのオンライン版として「Toyo オンラインボランティアプログラム」を実施しています。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後も、本プログラムのようなオンラインプログラムを、対面による海外渡航型プログラムとは異なる選択肢として、引き続き実施することとしました。一方、夏季休暇・春季休暇等の長期休暇時には現地渡航型のプログラムと競合することもあり、秋学期中の実施としました。

フィリピン・イロイロ市を拠点に、社会問題の解決を通じた青少年教育活動を展開している特定非営利活動法人 (NPO 法人) LOOB JAPAN の「SDGs アカデミア」*1 をベースに、本学向けの4日間のプログラムとして構成し、2年ぶりに国際ボランティアサークル Salamat のメンバーに企画段階から携わっていただき、加えて同じくフィリピン・レイテ島を拠点に活動を行う ISR-ConnAction から企画に携

わっていただく形で実施しました。

以下、企画に携わっていただいた Salamat ならびに、ISR-ConnAction のメンバーからの報告です。

【Day.1】

Day1では、SDGsについて学んだあと LOOB の紹介を聞き、各グループでアイスブレイクをしたりグループテーマを決めたりしました。

最近大学やTVなどでよく耳にするようになったSDGsですが、誰がどのように決めたのか、いくつのゴールとターゲットがあるのか改めて学び直してみると、意外と知らないことがありました。私はゴールの数は知っていましたが、ターゲットが21個もあることを初めて知りました。

LOOBが運営している「SDGs Academia」では自分の事のように考えさせる行動変移がSDGsの目標達成において重要なことだと学びました。

グループワークでは、ブレイクアウトルームで意見を出し合ってテーマを決めました。私のグループは、お互い違うトピックについて調べていたため、折衷案をテーマにしました。「How to interview」では、ざっくりとした質問にはざっくりとした答えが帰ってくることを学んだので、その後のグループワークではより具体的に話し合うよう意識しました。Day 4まで、Day 1で学んだことの知識を活かすことができて良かったです。

(国際観光学部国際観光学科2年 国際ボランティアサークル Salamat 庭野 優香)

【Day.2】

Day2では海洋汚染とフードロスについて、日本とフィリピンの現状況プレゼンテーションをしたり、話し合いをしたりしました。私たち日本人側学生とフィリピン人側学生同士でそれぞれ発表した中で、環境問題の深刻さや違い、類似点などを学ぶことができました。フィリピンと日本ならではの深刻な現状も知ることができ、新たな発見もありました。その後グループに分かれて、ゲームをしながら自己紹介をしました。初めての参加だったので少し緊張しましたが、同じ日本人側学生たちが色々ゲームを考えてくれたので楽しみながらお互いのことを知れました。それが終わった後に事前に決めたデスカッショントピックについて話し合いました。デスカッションの中ではどのくらい生活の中でフードロスをしているのか、フードロスと海洋汚染の原因、解決方法などについて意見を出し合いました。実際にフィリピンと日本人自分たちの生活の中でのフードロスを比べてみて、どのようにフードロスを防げるのかをお互い考え、「マイバックやマイボトルを持っていく」、「ペットボトルの再利用」、「食堂でご飯を少量にしてもらう」、「食べる量を適切には把握し、適切に保存する」などの意見が上がりました。解決策として、教育の重要性、地域や会社、学校とのコラボレーションの大切さなども案がありました。今回のワークショップを通して、異文化を持つ学生同士でSDGsについて話すことにより、新たなる自分が日常生活の中で挑戦できることも見付き、意識を変える重要性を改めて感じました。またオンラインでも国境を越して、話すことにより新しいフィリピン人の友達もでき今でも連絡を取り合っているのも、このワークショップにより学びだけではなく実際に世界の輪も広げられたと思います。それだけでなく日本人同士でも国際ボランティアサークルISRとSalamatとコラボレーションもできたので、今後このような機会をもっと増やしていきたいなと思います。

(国際学部グローバルイノベーション学科3年 ISR-ConnAction 金谷 梨末)

【Day.3】

Day3では、日本とフィリピンの教育、特にSNSリテラシー教育についてのディスカッションを行いました。前半のフィリピンユースによるプレゼンテーションで、最も印象的だったことは、学校に通え

ていなかった人たちへ教育の機会を与える Alternative Learning System というものです。私は、大学での学び等を通して、フィリピンには、学校に通えない子どもたちが多くいるというネガティブな側面しか知らなかったですが、今回のプレゼンテーションを通して、それらの問題に対してどのような取り組みが行われているのか、よりポジティブな側面を知ることができました。

ディスカッションの際には、日本とフィリピンそれぞれの SNS リテラシー教育について話し合いました。フィリピンには Media and Information Literacy という授業があり、SNS の使い方や正しい情報を見極める重要性について学ぶと知り、日本でいう情報の授業に似ているなと感じました。その一方で、私と同じグループの日本人メンバーが、自身の高校で、警察官による SNS の危険性に関する講義を受けた話を共有してくれました。同じグループのフィリピンメンバーは、フィリピンではないことだとすごく驚いていました。また、教育格差をなくすための解決策の話し合いの際には、フィリピンメンバーが、教育の質を維持するために、教師の給料を上げるべきだと話していました。日本では、教師の長い残業時間は問題になっているものの、給料に関しての問題提起はあまりないと思うので、新たな知見を得ることができたなと思います。

Day3 全体を通して、日本とフィリピンには教育に関して似たような教育制度や問題点がある一方、各国それぞれの違いもあるのだと再認識することができました。今後は、今回得た知識や広い視野を活かしつつ、自分にできる方法で、さまざまな社会課題の解決に寄与したいです。

(国際学部グローバルイノベーション学科3年 ISR-ConnAction 小栗 結羅)

[Day.4]

Day4 では、日本の学生とフィリピンユースが作成した、SDGs についてのアクション動画を各々が発表しました。このプログラムの総括として、環境問題や教育問題の解決への素晴らしいアイデアや、日本とフィリピンの文化の違いを加味しての素晴らしいプレゼンテーションが多くなされました。また、その後はグループに分かれてフィードバックを行い、どのプレゼンが印象に残ったかなどを話し合いました。

その後、グループに分かれて本プログラムの振り返りをおこなった。私のグループでは、フィリピンでの環境問題、そして教育についての問題が日本の状況とあまり変わらないことに驚きの声があがるなど、フィリピンユースとディスカッションしなければ生まれないような新しい角度からの意見なども多く聞かれました。その後、全員の前で各々の感想を言い合い、スタッフの方からのフィードバックを受けました。ここでも多くの方がとても興味深い感想を述べていて、参加者全員がこのプログラムを通してより SDGs への意識が高まったと感じた。日本語であっても、こうしたテーマでの議論は難しい中で、英語を通してフィリピンのユースとの SDGs について議論するのはとても困難でしたが、異なる実情の中でそれぞれの文化を比較し合い議論することはそうそうにない経験でとても有意義であった。私自身、今回このプログラムに参加して、より環境問題や教育問題に関心を持つことができ、英語学習のモチベーションが上がりました。このプログラムに関わってみてよかったです。

(国際学部国際地域学科3年 国際ボランティアサークル Salamat 林 伊吹)

*1：詳細は、<https://www.loobinc.com/sdgs-academia.html> を参照。

Population Increase Enhanced Living Standard Rural and Urban Areas Development

Why do we generate more waste?

video feed: woman with glasses

Examples of unreasonable school rules

Skirt length

Natural hair → Dye black

certificate

Color of underwear

trimming eyebrows

video feed: woman with glasses

02. Apps

Share the situations regarding garbage problems

科学技術の力で
あらゆる環境問題を克服する

Pirika

Anti-Other Social Platform (Pirika, Inc.) / Pirika Association
Pirika aims to solve environmental problems with the power of science and technology.

video feed: woman with glasses

loop

17 災害救援ボランティア講座

講 師	災害救援ボランティア推進委員会 宮崎 賢哉さん 他
開催期間・日時	2023年11月25日(土) 9:00~17:00 ~26日(日) 9:20~17:00
会 場	池袋防災館、東洋大学白山キャンパス4B13教室
目 的	1) 東洋大学の学生災害ボランティアリーダーを育成する一環として、災害ボランティア活動についての基礎的な技能・知識を習得できること。 2) 地域住民の方と共に学ぶ機会を創出し、地域防災としての課題を共有すること。 3) 講座の企画過程において、地域防災に関わるさまざまな組織・主体と連携し、平時からの関係性を構築する機会とすること。
参加者数	16名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】本学学生13名、他大学学生1名、一般2名
協 力	災害救援ボランティア推進委員会、文京区社会福祉協議会、小石川消防署、富坂警察署、文京区役所 危機管理室防災課、NPO法人国際ボランティア学生協会

■ 活動内容 (概要)

首都直下型地震は、今後30年以内に70%の以上の確率で発生するといわれている。また、近年は豪雨や台風などの風水被害もたびたび発生しており、災害への備えが急務となっている。

そこで、東洋大学の学生が、災害発生時に「学生ボランティアリーダー」として活躍できるように、本講座を開講した。本講座では、災害時に救援ボランティアとして地域に貢献したい方を対象に、様々な実践的取り組みを通して地域防災について学んだ。本学学生と社会人の方々を中心に実施をした。

初日は座学とグループワークを中心として防災に関する講演を各分野の講師の方からそれぞれの視点からのお話をいただき、2日は池袋防災館での実技を含む講座を行った。

グループワークでは、学生・一般参加者が同じグループで議論を行い、参加者の経験を聞きながら自身の学びを深めることができた。

この講座を受講すると「セーフティリーダー (SL) 認定証」が発行され、最終日に各自へ配布された。

感想 (抜粋)：

- 2日間の講座内容は濃く有意義であったが、内容の割には時間が短かいと感じた。学生とのディスカッションの時間が欲しかった。
- 防災といっても分からないことも多くあり、今回の講義から大学や区が何を行っているのかや、災害時の対応を詳しく学ぶことができたので今後起こりうる災害に対して、心構えを持つことができました。
- 実際に地震や災害が起こった時にどのようなことをすれば良いのかを知るきっかけになり、とても貴重な時間を過ごすことができた。
- 東洋大学災害救援ボランティア講座に参加して、今まで分かっていたようで、実際には分かっていない部分が多くあった。また知りたかった情報も多く知ることができた。



18 中野区・東洋大学連携事業 少年・少女野球教室

開催期間・日時	2023年11月26日(日) 9:00~15:10
会 場	中野区立哲学堂野球場 A・B面
目 的	中野区と東洋大学の連携事業として、中野区内に在住・在学する小学生を対象に、東洋大学硬式野球部員が指導者として野球教室を開催し、子どもたちに野球の楽しさを体感してもらい、野球の技術向上に取り組んでいただくとともに、一流スポーツ選手との交流を通じて心身の成長の機会とすることを目的としている。
参 加 者 数	小学4~6年生 約100名 東洋大学硬式野球部 15名 中野区スポーツ振興課、中野区少年野球連盟理事長、日本体育施設、硬式野球部長 増子先生
協 力	日本体育施設、中野区、中野区少年野球連盟

■ 活動内容 (概要)

【中野区・東洋大学連携事業 少年・少女野球教室プログラム】

1. 9:00~開会式
2. 9:15~記念撮影
3. 9:30~実技指導
4. 11:30~昼食
5. 12:20~交流試合
6. 14:20~表彰式
7. 14:30~閉会式

以上のプログラムで予定しておりましたが、小雨によりスケジュールを一部変更しております。

【開催内容】

1. 中野区小学4~6年生への東洋大学硬式野球部員による技術指導(午前)
2. 参加者を2つのチームに分け、交流・練習試合の実施(午後)

【実施状況】

小学生たちが日頃より練習しているポジションごとのグループに分かれ、練習前の柔軟・ストレッチを始め、投げ方や捕球の仕方など基本を学びながら、野球部員に指導を受けていた。午後には、練習試合を実施し、午前中に学んだ事を活かして試合に臨む姿があった。

昨年は、約90名の参加者でありましたが、今年は約100名の多くの小学生が参加しており、野球に興味がある小学生たちにとって、大学生との交流は、大きな刺激を受けた活動となった。

小雨が降ったり、止んだりという天候でしたが、子供たちは元気に大声を出し、野球を楽しんでおりました。



19 「FUMIDAI2024

～文京区大学生によるボランティア・地域活動報告会・交流会～」

開催期間・日時	2024年3月14日(木) 13:00～17:00
会 場	東洋大学 白山キャンパス 6号館6210教室、6212～6216教室
参 加 団 体	・跡見学園女子大学 赤松ゼミ ・東洋大学 学ボラ ・文京BBS会[#] ・拓殖大学 COIL ・学生団体おりがみ ・行こうよ文京浴場[☼]～学生プロジェクト～（拓殖大学・跡見学園女子大学） ・全国ボランティア活性化プロジェクト実行委員会 ・中央大学文化連盟写真研究部 ・文京BASE ・文京学院大学まちラボプロジェクト ・東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ ・東洋大学バリアフリーサークル歩み* ・東洋大学ボードゲーム地域交流団体「ぼどのわ」* ・東洋大学IVUSA* ・東洋大学SDGsアンバサダー* ・跡見学園女子大学 篠崎ゼミ* ・跡見「学芸員」in 菊坂* ・跡見学園女子大学「コミュニケーション文化学研究入門B」有志* ・NPO法人チャリティサンタ文京支部* ・文京区青少年プラザb-lab*（以上20団体） [#]: 第1部「活動発表」のみ参加 *: 第2部「アクションマーケット」のみ参加
参 加 者 数	120名程度（文京区5大学学生、教職員および地域交流活動先のみなさま）
主 催	地域ニーズの会（文京区社会福祉協議会 文京区学生支援担当者連絡会）
協 力	跡見学園女子大学、拓殖大学、中央大学、文京学院大学

■ 活動内容（概要）

文京区内の大学職員を中心に、ボランティア活動や地域交流活動の情報交換や、大学間・地域間連携を進めるためのプラットフォームとして、文京区学生支援担当者連絡会（通称「地域ニーズの会」）が、2021年度より月1回程度の会合を設けてきました。また、この枠組みにおいて、年に一度シンポジウム形式の、文京区内大学のボランティア・地域交流活動の報告会を、開催校持ち回りの形で進めてきました。

本年度は「FUMIDAI2024」と題し、本学が会場校となり活動報告会・交流会を開催しました。

「FUMIDAI2024」の愛称は、ボランティア支援室サポートスタッフが名付けました。『「文」京区の

『大』学』が集まる場であるということ、そしてこの場を文字通り「踏み台」にして、参加団体がより発展していくことを願ってのものです。

当日は、2部構成とし、第1部は各大学の学生ボランティア・地域交流活動団体による活動報告会、第2部は「アクションマーケット」と題し、19団体がブースを構えながら活動を紹介し、参加者は自由にブース間を行き来しながら交流する形で進めました。

以下、ボランティア支援室サポートスタッフからの報告です。

【第1部「活動報告」】

私たち東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフについての活動報告では、サポートスタッフについて知らない東洋大学の別のボランティア団体や、外部の活動団体の方々に自分たちの活動について知ってもらえるように意識して発表内容を作りました。

特にサポートスタッフ特有の、学生の自主性を重んじる活動内容について強くアピールをしました。サポートスタッフ自身がやりたいことを積極的に発信して、ボランティアコーディネーターの日比野さんをはじめとするさまざまな方のご助力を得て、自分のやりたい活動をしていけるといい点を皆さんに知ってほしいと考えました。

一方、他の活動団体の発表を聞きながら、どこも誰かのためになるような活動を目指しながらも、その方法は多岐にわたっていて、「ボランティア」という言葉の多様性を強く感じました。どの団体も誰かの喜びになるように頑張りながらも、何より自分たちが楽しんで活動を行っているように感じ、聞いていてとても面白く感じました。

(法学部企業法学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 大木 羽蘭)

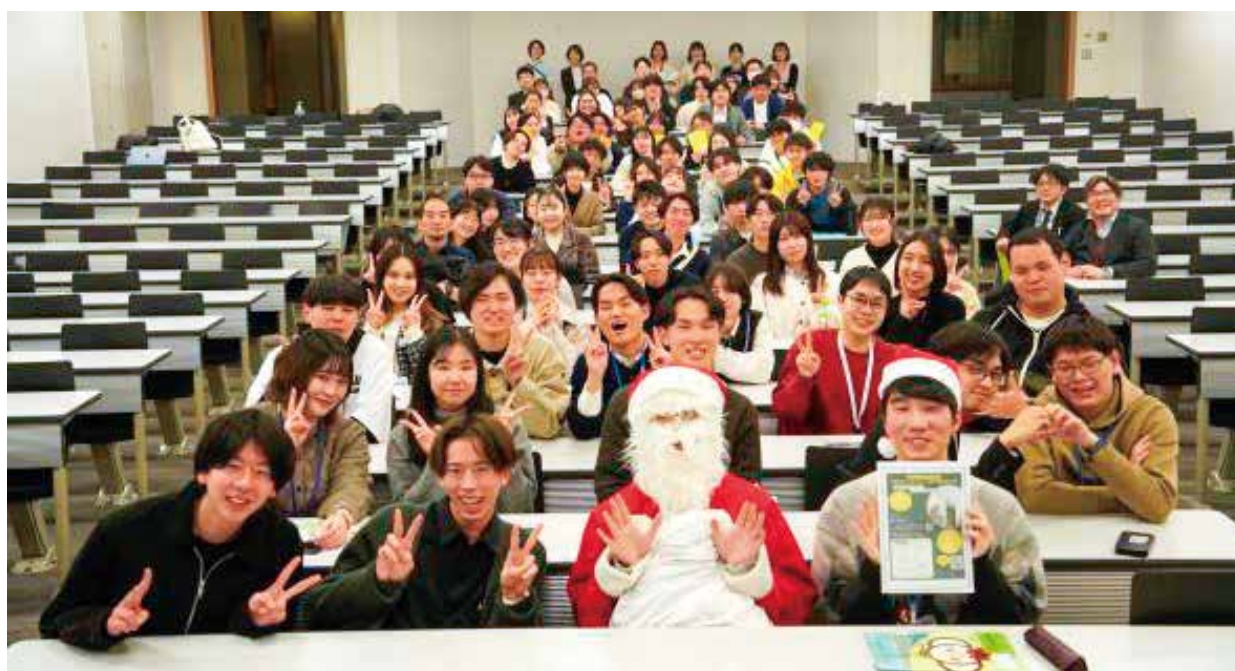
【第2部：アクションマーケット】

第2部では、5つの部屋に分かれて19団体が出展を行いました。私たちサポートスタッフの出展では、東洋大学外の方へ向けて、1部では伝えきれなかったより具体的な活動内容や実際に活動する中で感じたことを伝えました。実際にボランティアカフェ（ボラカフェ）や、1day ボランティアプログラムを企画したメンバーが、どのような企画だったのかを直接伝えました。サポートスタッフのメンバーが活動を直接伝える機会は少なく、貴重な機会となりました。文字だけでは伝わらない想いも乗せて伝えられたと感じています。実際にサポスタのブースに訪れてくださった方々との交流の中で、私たちの取り組みに興味を持ってもらったり、「いいね!」と言ってくれたりと、多くの方に私たちの想いが伝わったと感じます。また、自分たちの活動内容を伝えることを通して、今までこういった活動をしてきたのだと改めて振り返りながら説明できる機会となり、私たち1人1人にとっては振り返りの場ともなりました。

そして自ブースでの出展以外にも、他団体のブースへ訪れて交流も行いました。第2部では文京区内で活動している団体をはじめ、活動範囲が全国、海外といった大きな団体も出展しており、新しい活動を知る機会となりました。活動の内容はそれぞれ違い、自分自身が知らない分野での活動もありました。日常的にボランティアをやっていると、似た系統のボランティア、好きな分野、興味のある分野での活動に絞られがちです。ですが、今回のように幅広い団体と交流ができ、普段自分自身がかわからない活動についても知る機会となりました。各団体から活動の内容や、込めている想いを直接聞くことで、活動の内容をより深く知ることができたと実感しています。また、団体の運営方法や団体内での課題を共有し合うこともでき、有意義な時間となりました。他団体との交流を通して、どの団体も伝えたいことがたくさんあり、終始笑顔で説明、そして交流していた点がとても印象的でした。大学内を超えて自分のことを、自分が所属している団体のことを伝える場所はあまりなく、自分の活動を誰かに知ってもらう、共感してもらうことの良さや嬉しさを実感できました。

第2部アクションマーケットを通じて、説明する人も、聞く人も今後の活動への糧になる時間を過ごせたと感じます。

(経営学部会計ファイナンス学科1年 ボランティア支援室サポートスタッフ 奥村 碧斗)



20 東洋大学ボランティアカフェ 「新しいことをはじめる新学期に!」 ～世界ひろがる!仲間みつける!ボランティアのススメ～」

話題提供者	横尾 幹さん（東洋大学4年、NPO 法人ほんじょう寺子屋 代表理事） 一杉 大智さん（法政大学3年、地域づくりインターンの会 事務局長）
開催期間・日時	2023年5月16日（火）12：30～14：30
会場	東洋大学白山キャンパス 雨水会館302教室、ZOOMによるオンライン会場
目的	【Step1】 • ボランティア仲間を見つけ、新入生など初めてのボランティアへ参加するハードルを下げる • 新入生や在学生同士が交流できる場をつくり、学部や学年に縛られない横のつながりを築く 【Step2】 • なぜ自分がボランティアをやりたいと思ったのか、言葉にして他人に説明ができるようにする • ボランティアの魅力（ボランティアを通じた人とのつながり）を知ってもらう
参加者数	18名（うち、オンライン参加者3名）
企画運営	ボランティア支援室サポートスタッフ

■ 活動内容（概要）

今回のボランティアカフェ（以下「ボラカフェ」と表記）は、新学期になって初めてのボラカフェということもあり、新しいことに挑戦したいと思っている方をターゲットに開催しました。

「人とのつながり」をテーマの軸に、話題提供者を交えて主にグループごとで交流しました。

最初に行ったアイスブレイクの自己紹介では「大学あるある」「やったことのあるボランティアやボランティアのイメージ」についてグループ内で発表し、他の学生がどんなことをしているのかを知ることのできる機会になりました。

次に話題提供者のお二人から「ボランティアを始めたきっかけ」「ボランティアを今も続けている理由」「現在のボランティア活動について」などボランティアに対する自分の思いに重きを置いて発表していただきました。ボランティアのやりがいには「人の喜ぶ顔を見られること」という方もいて、人とのつながりが生まれたことが、活動のやりがいと結びついていることを実感できました。



話題提供者からの発表後は二つのグループに分かれて話題提供者のお二人に質問できる時間を作り、詳しくお話を伺いました。参加者はそれぞれのボランティア活動に興味を持ち、時間が足りないほどの質問がありました。

最後は「これから始めたいこと」というお題で、グループごとに発表しました。他の分野のボランティアをしてみたい。これからの学校生活を充実させたい。など多くの意見が出ました。

終了後も、しばらくの間会場を開放し、参加者同士自由に交流ができるようにしていましたが、話題提供者より紹介いただいた「地域づくりインターンの会」の活動に興味を示した参加者3名に向け、急遽その場で一杉さんより説明会を開いていただく場面もあり、ボラカフェでの話の充実ぶりが伺えました。

(経済学部経済学科3年 ボランティア支援室サポートスタッフ 津久井 優奈)



21 東洋大学ボランティアカフェ 「『好き』から始まるボランティア！」 ～あなたの好きを教えてください～」

企画・運営	ボランティア支援室サポートスタッフ
ナビゲーター	日比野 勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催期間・日時	2023年12月11日（月）12：30～14：00
会場	東洋大学白山キャンパスボランティア支援室 および ZOOMによるオンライン開催
目的	- 自分の好きなことに関連するボランティア活動を知り、ボランティアに参加したことがある人も、ない人も、新たな一歩を踏み出す機会をつくること。 - お互いの好きなことを語り合い、自身の興味関心の分野にとらわれずに幅広い活動を知ること。
参加者数	16名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】東洋大生13名、他大学生2名、講師1名

■ 活動内容（概要）

ボランティア活動は、どの活動に参加するか自分自身で選択することができます。分野は多岐にわたり、自分の知らない活動もたくさんあります。活動がありすぎてどのボランティアに参加してよいかわからない、すでに参加しているが、もっと知らないボランティアがあるかもしれない、このようなことを思うことがあります。

そこで今回のボランティアカフェ（以下、ボラカフェと表記）は、好きなことを互いに共有して、関連したボランティア活動はどのようなものがあるのかを、本学ボランティアコーディネーターの日比野さんを交えて語り合いました。



今回のボラカフェでは東洋大生はもちろん、東京学芸大学、東邦大学の学生の方にも参加していただきました。そこでまず、お互いを知る第一歩として自己紹介を行いました。好きなものを語り合う企画なので、自己紹介タイムではあえて嫌いなものと、そのエピソードを一人ずつ話していきました。野菜が嫌い、お化け屋敷が嫌いなど、共感しあいながらお互いを知る時間になりました。

お互いを知った後は一人ずつ好きなものを語り始める時間です。自分の好きなものをたっぷり語って、自分の趣味や好きなことを知ってもらいます。持ってこられる人は自分の好きなものに関連したグッズなどを持参し、言葉だけではなく、視覚的にも伝えることができました。

好きなことを語った後は、他の参加者からの質問や、共感したことを語り合う時間です。同じ趣味同

士で盛り上がったり、疑問に思ったことを質問したり、時には動画を見せたりと、より詳細に聞くことで相手のことをより深く知るきっかけになるとともに、新しいこと、自分の知らなかった分野を開拓するきっかけになりました。

最後には今まで語り合った好きなことに対して、ボランティアコーディネーターの日比野さんから、好きなことに関連するボランティア活動の紹介をしていただきました。これまでは知らなかった活動を知り、新たな発見をすると共に、ボランティアの楽しさを改めて感じる事ができたと思います。

また、今回のボラカフェでは支援室サポートスタッフの塚原さんがグラフィックレコーディング（グラレコ）という手法を使ってそれぞれの好きなことを記録しました。グラレコとは、話し合いの内容を絵や図形を用いて記録する手法のことです。後から見た際に、あたかもその場にいたかのような雰囲気を感じられる記録になりました。

今回開催したボラカフェは、ボランティアに参加したことがある人はもちろん、参加経験が少ない人にもボランティアの楽しさを知ってもらうことが大きな目標でした。自分の好きなことに関連したボランティアを知ること、参加経験が少ない人にとっては新たな一歩を踏み出すきっかけになり、参加したことがある人にとっては、より自分自身が楽しみながらボランティア活動ができるようになったのではないかと感じます。

(経済学部会計ファイナンス学科1年 ボランティア支援室サポートスタッフ 奥村 碧斗)



22 東洋大生がワークショップで考えるSDGs 「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」

講 師	NPO 法人開発教育協会 (DEAR) 伊藤容子さん
開催期間・日時	2023年5月20日 (土) 10:00~12:00
会 場	オンライン (Zoom)
目 的	・学生がSDGsの基礎を学ぶ機会を作ること。 ・学生自身がSDGsを自分ごととして考え、日常生活との接点を見つけ、身近なことから持続可能な開発を考え、そして次の行動に繋げるきっかけを作ること。 ・2023年度「SDGsアンバサダー」新規登録された学生への研修の一環として実施する。
参 加 者 数	16名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】東洋大学学部生12名、DEARインターン1名、ボランティア支援室職員3名

■ 活動内容 (概要)

「東洋大生がワークショップで考えるSDGs」の実施は、今年度で4年目となった。今回も主に初めてSDGsを学ぶ学生や新たに「SDGsアンバサダー」に登録された学生を対象に実施された。講師は、NPO 法人開発教育協会 (DEAR) の伊藤容子さんにお越しいただいた。また、DEARのインターンである田中沙知さんも一緒にご参加いただいた。

ワークショップは「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」とのテーマのもと、オリエンテーション、クイズ、写真から知るパーム油、ロールプレイ、グループディスカッション、まとめという流れで進められた。最初のオリエンテーションでは、講師より参加にあたって「立派なことを言わなくてOK」や「話を聞く・否定しない」、「楽しもう」といった基本ルールを確認された。また参加者の自己紹介にあたっては、ただ名前を言うだけでなく、講師の指示のもと、参加学生が各自自宅にあるお菓子等を持ってきて、それを皆さんに紹介しつつ自己紹介が行われた。そういったオンラインイベント初心者でも話しやすい雰囲気において、参加者の緊張間が少しずつとけていった。その後、講師が出された共通点クイズを通して、話の本題である「パーム油」が導入され、またクイズや写真を通して詳しく「パーム油」を参加者に学んでいただいた。

それを踏まえたうえで、アブラヤシのプランテーション開発をめぐる開発会議のロールプレイが行われた。役を与えられた6名の学生は、ロールカードに基づいて、自分の主張や意見を皆さんの前に述べた。その後、参加者全員が4グループに分かれて、自身が共感した役や共感できなかった役とその理由、プランテーションの開発について自身の立場・意見、問題解決のために自分のできることについて、グループディスカッションが行われた。参加学生からもさまざまな意見が出された。例えば、マレーシアの連邦土地開発庁勤務のアナスさんという人には一番共感できないのは、政府の立場にいる人はもっと責任をもって、慎重に持続可能な開発を考えるべきだという意見もあり、自身が消費者の立場

から一番共感できたのは奥田美穂さんという日本の消費者という役だという意見もあった。グループディスカッションで結論を出すことも難しかったが、参加学生はそれぞれ自分の意見を他者に共有しつつ、他者の意見を聞き、話し合いや考えが深められたことを見受けられた。

最後に、講師よりあらためて「持続可能な開発とは」「SDGsとは」という話をいただき、まとめていただいた。持続可能な開発のために、私たちにできることは何があるのかについて、「ダイヤモンドランキング」と呼ばれるものを講師よりご紹介いただき、参加者の皆さんに考えていただいた。時間の制約でグループに分かれて振り返りの時間はなかったが、1分間を取って、参加者各自でワークショップ全体をふりかえっていただき、学んだことや感じたことを整理していただいた。アンケートでも、参加された学生より多くの感想をいただいた。下記、一部抜粋で記載する。

- ロールプレイは特に様々な視点から一つのテーマについて見ることでとても視野が広がるきっかけになりました。
- 日常ですごく使っていることすら知らなかったパーム油について、現状から今後の対策まで自分で考える機会になりました。今、私にできることはこういった知識を増やし、自分がどういう支援をできるか行動に変えていくことだと思いました。
- 世界的な問題や他の国で起きている問題は関係ないのではなく、私たちの生活の延長線上にあるということ。
- 今後SDGsに目を向けていくことがこんなにも学びに変わるとわかったため、積極的に触れていきたいと思いましたし、行動したいと思いました。
- 直接SDGsに関わることでできる団体を調べて参加してみたいと思いました。



23 東洋大生がワークショップで考えるSDGs 「日本の貧困問題とSDGs—相談事例から貧困を考える—」

講 師	NPO 法人ほっとプラス理事 藤田孝典さん
開催期間・日時	2024年2月13日 (火) 10:00~12:00
会 場	東洋大学 白山キャンパス 甫水会館301室
目 的	- 東洋大生がSDGsゴール1番目の「貧困をなくそう」を学び、日本における貧困問題の現状への理解を深める機会をつくる。 - 貧困問題に対して、大学生としてどのように関わっていけば良いのか、ボランティア活動など、行動につなげるきっかけをつくる。
参 加 者 数	7名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生4名、職員2名、関係者（講師アシスタント）1名

■ 活動内容 (概要)

今回は、SDGs 1番目の目標である「貧困をなくそう」について、日本の貧困問題の現状やその支援を学ぶワークショップを企画して実施した。講師としては、長年首都圏を中心に生活困窮者の支援を行うソーシャルワーカー、NPO 法人ほっとプラス理事の藤田孝典さんをお招きした。

「日本の貧困とSDGs—相談事例から貧困問題を考える—」との題でワークショップが開催された。ワークショップの前半、講師より



データや事例に基づいたSDGsと貧困問題の説明がなされた。日本の貧困の現状としては、相対的貧困率が15.4%であり、OECDに加盟している34カ国では4番目に高い数値である。また、子どもの貧困率も11.5%という高水準で、ひとり親世帯の子どもの貧困率はさらに44.5%にのぼる。これらの数値を通して、日本における貧困問題の深刻さについて指摘と共有がなされた。その上、現在日本では多くの企業がSDGs推進を掲げていることに対して、「SDGsウォッシュ」の存在を問題提起した。SDGsウォッシュとは、実態が乏しい、あるいは伴わないにもかかわらず、SDGsに取り組んでいるように見せかけていることである。具体的には、コンビニエンスストアや通信販売大手IT企業が賃金の低さ、労働環境の厳しさなどの問題を放置する一方、社会に向けてSDGsを推進していると掲げる事例が取り上げられた。低賃金に関する相談に対して、労働組合と連携して抗議活動等を行い、非正規労働者に対する大幅な賃上げと処遇改善の結果が得られたとの話も紹介された。

ワークショップの後半では、具体的な相談事例を通して、生活困窮家庭に対する支援について、ディスカッションが行われた。参加学生は講師に、事例の情報や詳細を確認しながら、それぞれ自分が気

づいた点や気になった点について発言した。特に、参加者では貧困問題に関する学びや活動をしてきた学生が多く、活動の経験や授業で学んだことなどを話し、互いに視点と知恵を共有した。講師からは、相談支援現場でそのように相談者の状況をアセスメントするのか、相談者や貧困状態に陥った人々に共通に見られる特徴や課題について、話がなされた。最後に、講師が事例に対して行った支援を解説し、ほっとプラスが行っている支援活動を紹介した。

ワークショップ全体を通して、講師が貧困問題は努力が足りないから、働かないからなど、個人の問題として誤解され見過ごされることが多いが、そうではなく、貧困は社会的構造による問題であることを指摘した。また、貧困問題に対する取り組みとしては、個々の相談者や家庭に対してミクロレベルでの支援はもちろん、マクロレベルで政策や制度への働きかけも重要であることが強調された。

参加学生は、ワークショップ終了後、早速ほっとプラスが行っている相談会の学生ボランティアに登録をし、互いにも活動を紹介し合った。少人数のワークショップであったが、参加した学生同士や学生と講師とつながることができ、相互に学びと刺激があったと思われる。

(東洋大学ボランティア支援室)

以下は、参加学生による感想である。

- 貧困の現状を知って、実際の事例を使って、グループワークで一緒に解決策を探すことで、支援の難しさ、配慮するべきところも勉強になりました。
- 相談事例に対して、ほっとプラスさんがどのような対応をしたのかが印象に残りました。その際、弱者として貧困者を「救済」するのではなく、当事者の主体性を最大限に活かしたサポートを行っている点が非常に重要な視点だと思いました。
- 実際のケースをもとに、グループで解決策を考える時間が印象に残った。人それぞれのバックグラウンドによって解決策の見出し方に違いがあるし、他者の意見を聞いて新しい視点を得ることができた。
- SDGsという理念だけを唱えたり、具体的な数値目標とかけ離れた対応しかないのではなく、社会を構造的に捉えなおし、転換させていく必要があると思います。
- ただ話すだけではなく、行動することが一番重要である。今後も、もっと行動して、周りの人々を連れて一緒に行動することが重要です。
- 表面的な活動ではなく、根本的な解決を目指していけるような活動を行っていきたいと考えた。



24 東洋大学学生課外活動育成会 「樹海清掃ボランティア(春)」

開催期間・日時	2023年5月28日(日) 13:00~15:30
会 場	国道139号沿い 青木ヶ原樹海
目 的	富士山麓の青木ヶ原樹海清掃を行い、自然の中にどれだけゴミが捨てられているかを知り、またそのゴミが環境にどのように影響しているかを活動を通して学ぶ。環境問題・保全活動を考えるきっかけとなることを目的とする。
参 加 者 数	50名
協 力	認定特定非営利活動法人 富士山クラブ

■ 活動内容 (概要)

2023年5月28日(日)「認定特定非営利活動法人富士山クラブ」の皆様にご協力をいただき、国道139号沿い青木ヶ原樹海にて清掃ボランティアを実施しました。

当日は企画者であるSDGs アンバサダー4名と一般参加学生46名の学生が清掃活動に参加をしました。現地に到着後は3チームに分かれて活動を開始し、国道139号沿い青木ヶ原樹海周辺をゴミの分別を行いながら清掃活動を実施しました。

【運営学生からの声】

- 今回は総勢170名の申し込みがあり、富士樹海の環境保全や、ゴミ問題に多くの学生から関心を寄せていただきました。実際にゴミ拾い活動をしてみると、土の中に埋もれるほど昔から放置されたポイ捨てゴミを見受けることも多く、参加学生にとっては改めて日常のゴミ分別の大切さに気づく機会となったと思います。
- 私含め清掃ボランティアに初めて参加した方が多く、ゴミの量や内容に衝撃を受けていました。しかし、清掃完了後のエリアは見違えるほど綺麗になり、ボランティアの実効性の高さを確認できた回になったと思います。
- 私は昨年も清掃ボランティアに参加しましたが、やはり想像以上にゴミが多く、新たな発見もありました。また、今回は運営として参加したため、昨年とは違う達成感があり、貴重な経験ができたと感じています。
- 今回の清掃活動を通じて、参加学生たちの意欲的な姿勢が特に印象的だったと思います。清掃活動時には、熱心にゴミを集めようと尽力し、ゴミの計測の際にも積極的に手伝いを申し出たりと度々熱意を感じる場面があり、今回の活動の意義が達せられていることを確認できました。
また、川越の学生主体で行った今回の活動ですが、初対面の人同士が多いなか、清掃活動を通じて一体感が生まれたと思います。こうした、良い影響を後の活動にも繋げていきたいです。

【参加学生の感想】

- 誰かの捨てたゴミがこのようにして清掃されているなど考えたことがなかったですが、清掃する側

になると大変です。ゴミのあるところにゴミは集中するので、一人一人の意識が大切だと思います。

- こういうボランティアって参加している人みんな良い人なので、不安に思わずドンドン参加していいんだと気づきました。
- 今回のボランティアは抽選になるほど多くの人が参加を希望しており、こんなにも頑張りたい人がいるんだと思い、いい刺激になりました。
- 1人では中々集められない量も、多くの人と協力してゴミ拾いをする事で、短時間でも100kg近いゴミを集められることが分かり、人と協力することの大切さを学びました。
- ゴミを捨てるのは簡単だけどそれを拾うのはとても大変だということを知りました。
- 自分が思っていた以上にゴミが多く捨てられていて驚いたし悲しかった。環境や自然を守るためにはボランティアの方々があつてこそなのだと自分が実際に清掃してみて分かった。自分が使うトイレやいつも通る道など誰かが綺麗にしてくれているかもしれない。もちろん汚さない、ポイ捨てしないことが一番大事だが、綺麗を保つためには誰かが綺麗にしているという意識を持ち続けようと思うし、みんなが持つべきだと思った。私はできることから始めてより良い環境づくりに貢献していきたい。ポイ捨て防止を呼びかける看板などがあれば少しでも改善に繋がるのかなと思いました。



25 東洋大学学生課外活動育成会企画 2023年度 合宿型ボランティアプログラム 「ワークキャンププログラム(掛川グループ)」

開催期間・日時	2023年8月26日(土) 11:00~8月28日(月) 14:00 (2泊3日) ※事前学習会を8月7日(月) 12:00~13:00に、オンラインにより実施。
場 所	静岡県掛川市 時ノ寿の森クラブ
目 的	地域の時代背景と森林の重要性を学ぶ。 地域の人と交流しながら、森林保全活動を行う。
参 加 者 数	8名
共 催	東洋大学ボランティア支援室 特定非営利活動法人NICE (日本国際ワークキャンプセンター) 認定特定非営利活動法人 時ノ寿の森クラブ
企画・運営	東洋大学SDGs アンバサダー
現地コーディネーター	太田 静香さん(認定特定非営利活動法人 時ノ寿の森クラブ)

■ 活動内容 (概要)

特定非営利活動法人NICEとの共催により実施したグループワークキャンププログラムは、夏季休暇期間中に福島県いわき市田人でのプログラムと、本稿で報告する静岡県掛川市でのプログラムの2つが実施されました。

以下、掛川プログラムの企画運営に関わった学生からの報告です。

私たちが活動を行った時ノ寿の森は、静岡県掛川市大沢集落に位置しています。この集落では、森の恵みを受けて人々が暮らしていました。しかし、高度経済成長期の大量生産・大量消費の波が村を廃村へと追い詰め、森が荒れ、川は涸れてしまいました。そこで廃村となってから21年後の1996年、「ふるさとの森」を再生しようと「時ノ寿の森クラブ」が発足しました。現在の時ノ寿の森は、地域の方々の長年の努力により、森が少しずつ再生し、廃村になってからは見られなかった虫が見られるようになったり、水位が低かった川が2倍にまで上がってきたりしています。里山の環境資源を活用し、子どもから大人まで自然の中で遊んで学ぶ普及啓発も行っています。森林を守り、森の豊かさや価値を楽しみ、森を共生する暮らし方を多くの人々に広めることを目標として掲げ、27年間活動し続けています。

参加者同士、お互いの顔を知らない人が多い中、1日目はまず掛川駅からマイクロバスで30分ほどの時ノ寿の森の中にある、B&Bゲストハウス森の駅に行きました。目的地までの道のりではだんだんと道が狭くなっていくことが感じられ、緑が増えていくと同時に店が減っていくのが見えました。着いた場所は「時ノ寿の森」の名の通り、森の中に位置していて川が近くに流れていました。虫がたくさん

飛んでいたり、ヤギや鹿がいたりと生命を感じる自然豊かな所でした。到着後は活動背景や森林問題についてのオリエンテーションがあり、現在までの時ノ寿の森の変遷や、森林が及ぼす環境への影響を学びました。ワークは徒歩10分ほど歩いた先のしいのき平にて、鎌を使って下草刈りを行いました。しいのき平では植樹をしており、植えた植物の成長を妨げる草木を除去するため、生えている雑草を抜き取る作業を行いました。抜いた草は雑草が生えにくくなるようにするため、植えた植物のそばに置くと良いことを学びました。集中して3時間ほど行い、時間を共有するごとに仲間の絆が芽生え、初日のワークが終わりました。



活動後はチームに分かれて夕食と五右衛門風呂の準備をしました。どちらも時ノ寿の森クラブの方々に手伝っていただきながら、非日常の体験ができました。夕食のお米は炊飯器ではなく、羽釜という新潟県や福島県で有名な伝統のある調理器具を使って羽釜ご飯を作りました。羽釜はとて大きくてずっしりとした重さがあり、宿泊先のは一度に3升炊くことができる大きさでした。お米を炊く際に必要な薪を割り、「薪は寝かせて真ん中よりもやや右側をめがけて打つと良い」ということを教えていただきました。途中から雨が降ってきましたが、地域の方々と交えてテントを張って外で夕食をとりました。ここでの交流が、より地域との繋がりを実感する瞬間になりました。お風呂はかまどを使って、薪を焚いて五右衛門風呂に入りました。普段とは異なる方法の夕食とお風呂は、このワークキャンプの記憶が色濃く残る瞬間となりました。



1日の最後には、レクリエーションを行いました。ここでは参加学生が自分の今までの人生の歴史を発表するというアクティビティを行い、ワークキャンプに参加するまでは知りえなかった相手のことを深く知ることができました。これが残りのワークや共同生活において、意見の出しやすさや相手を受け止めることなどの面で良い方向に働き、1日を無事に終えることができました。

2日目は起床後、朝食を作って身支度を整えた後、しいのき平に行って散策路整備のボランティア作業をしました。鹿が入ってこないようにすることと、訪れた人々が安全に遊べるようにするための柵立と、樹のベンチづくりを行いました。柵立では長方形の鉄の網同士を針金で括り付け、安定させるために鉄の棒で固定する作業を繰り返し行いました。作業前は機能していなかった柵が、合計約5時間の作業を経て完成しました。樹のベンチは、しいのき平から少し離れた多目的広場でチェーンソーを使って作りました。完成したベンチはしいのき平の広場に設置し、誰でも座れるようになりました。2日目のワークで、時ノ寿の森の遊び場に来た人が楽しめるような工夫を凝らした場所が完成しました。ワーク後に夕食を作り、キャンプファイヤー、花火、夜の探検をしました。キャン





プファイヤーでは薪割り体験で割った薪を使いました。どのアクティビティもここまで過ごしてきた仲間たちとより一層絆を深めることができました。

3日目は、時ノ寿の森らしいことを体験しようという現地スタッフ太田さんのご提案により、3日目メイン活動の沢登りをしました。昨日まで作業を行っていたしいの木平から、B&Bゲストハウス森の駅までの道沿いに流れる川を上りました。川の中は大きな石が多くその上がとても滑りやすかったため、歩くのが大変でしりもちをついた学生が多数いました。進んで行く途中で、サワガニやメダカ、オタマジャクシ、大きなカエルと出会い、都会では経験できない貴重な体験をすることができました。沢登り終了後は昼食をとり、学生のみで3日間の振り返りをしました。そこでは、3日間の活動を終えて今思っていることについて一人ひとり発表しました。参加学生からは、「重いものを持って体を使う動きから細かい手作業のものなど多くの経験ができて楽し

かった。勉強になった」という感想や、「自力で火を起こし、お釜でご飯を炊いたことが印象に残り、炊飯器で炊くのとお釜を使うのとでは味が違うことに気づけた。」などという声が上がりました。学生それぞれがいろんな期待をもって参加したワークキャンプでしたが、森林保全活動についてさらなる興味関心を得たり、リーダーとしての振る舞い方を知れたりといった様々な意義をみんな見いだせたようでした。私は、森林の環境を保護していくことは森に住む虫や動物が住みやすくなるだけでなく、地域の活性化や森に流れる川につながる海にまでも良い影響を与えることを知りました。今回のワークキャンプでは、ひとりだけで環境保護活動をするのではなく、人と人との繋がりがあからこそ新しい事業を生み出したり、活動ができたりするのだと感じました。今後はここで得た学びを糧にして、森林清掃ボランティアや、植樹ボランティアなどに積極的に参加したり、興味を引くようなおもしろい形で森林保護の発信をしたりしたいです。

最後に、自然とB&Bゲストハウス森の駅と現地の皆さんに感謝を告げ、別れを惜しみつつ時ノ寿の森を後にしました。バスで掛川駅まで移動し、駅での解散となりました。

【参加学生からの声】

- これまで体験したことのない貴重な体験ができた。豊かな自然を守るために、あれだけの苦勞があるのだと身をもって知ることができた。
- 宿泊地につくまでの坂道が多く歩くのが大変だったが、その分テラスや窓からのとても美しい景色を見ることができた。



26 東洋大学学生課外活動育成会支援事業 「湯河原でみつける、わたしの『ローカル』な ライフデザイン」

開催期間・日時	2023年8月31日(木) 10:30~9月2日(土) 12:30 (2泊3日)
会場	【1日目】 ゆがわらっとつくる多世代の居場所(神奈川県下足柄郡湯河原町中央3-2-11) ※本稿においては、1日目の会場となった「ゆがわらっとつくる多世代の居場所」を、かぎ括弧付きの「居場所」と表記することとします。 【2日目・3日目】 駅前居場所 ※本来、「駅前居場所」として設置されている場所が工事中だったため、仮設の施設においてプログラムを実施しました。
目的	1) 地方創生・地域創生やまちづくりのための取り組みについて学び、理解を深めること。 2) 在学中はもとより、卒業後の暮らしにおいて、都会と地方との多拠点生活などをはじめとする多様な暮らし方・働き方を、自らの興味関心に基づきながらデザインし、豊かなライフスタイルを築いていけるようになるためのヒントを参加者に対し提供すること。
参加者数	10名
現地コーディネーター	- 北村 廉さん(一般社団法人ユガラボ、東洋大学卒業生) - 瀬野 晴仁さん(一般社団法人ユガラボ 学生インターン、東洋大学経済学部総合政策学科休学中)
企画・運営	ボランティア支援室サポートスタッフ

■ 活動内容(概要)

ボランティア支援室では、学生課外活動育成会の支援を受ける形で、神奈川県湯河原町において「湯河原でみつける、わたしの『ローカル』なライフデザイン」を、一般社団法人ユガラボの協力のもと実施しました。

本学卒業生の北村 廉さんがスタッフとして関わる一般社団法人ユガラボの協力のもと、昨年に続き2年連続で湯河原町におけるプログラムを実施しましたが、「誰もが安心していただける『居場所』」とはなにか?について考える昨年度とテーマを大きく変え、湯河原町を舞台に「ローカルな暮らし」を実践しているさまざまな方からお話を伺いながら、参加者がそれぞれ自身の状況と対照化させながら考え、最後に各自の湯河原町への「かかわり方」をプランにまとめ、発表いただきました。

大きく分けて、1日目の「ゆがわらっとつくる多世代の居場所」での子どもたちとの交流、2日目・3日目の「駅前居場所を拠点とした『ローカルなライフデザイン』についてのワークショップ」の二つの

軸でプログラムが構成されました。

【1日目：8月31日（木）】

1日目は、「ゆがわらっことつくる多世代の居場所」（以下「居場所」と表記）を拠点に活動を行いました。

到着後すぐに、当地ラジオ局エフエム熱海湯河原の生放送の収録が現地で行われ、レポーターの佐竹純一さんのナビゲートのもと、参加学生複数名が番組に出演。本プログラムへの参加の動機やプログラムを通じて学びたいことなどを話しました。プログラム期間中にお目にかかった現地の方の中には、この日の生



放送をリスナーとして聴取されていた人もいたそうで、早速「相手の顔が見える『ローカル』な関係」を実感できる場面となりました。

生放送の収録後は、現地コーディネーターの北村さん（ユガラボ）が聞き手となり、佐竹さんにインタビューを敢行しました。ここでのインタビューは、翌日のプログラムで参加学生が地域の方にインタビューをする際の見本としての性格がありましたが、佐竹さんはラジオ局で番組制作に関わりながら「tomorrow's stand YUGAWARA」というカフェを経営するなど、「ローカルな暮らし方」のロールモデルとして、参加学生に紹介するという意図もありました。

午後、子どもたちが徐々に「居場所」に集まってくると、自然と参加学生と交流がはじまり、室内遊び・野外遊びともに参加学生、そしてユガラボのボランティアスタッフの方も一緒に楽しみながら、多世代交流を体験しました。

夜になり、宿泊場所に移動となりましたが、参加学生の宿泊地も湯河原町の移住サポーターが運営するゲストハウス。北村さんが大学卒業後、湯河原で育んできた人的交流が、今回のプログラムの宿泊地決定にも影響し、人と人の違いの顔の見える「ローカル」な関係性がもたらすものの大きさを、ここでも感じました。

【2日目：9月1日（金）～3日目：9月2日（土）】

2日目は活動場所を「駅前の居場所」に移し、プログラムを実施しました。

まず、北村さんより湯河原町について概括的に話しいただきました。湯河原町は人口約24,000人の町ですが、町内に小学校が3校、中学校が1校で高校がないため、高校進学時に湯河原町を離れていってしまうことが地域課題となっています。大学生も町内にはほとんどいないため、「そもそも大学に進学する」という選択肢がない子どもたちも少なくないのだそうです。そういったことから、



大学生がボランティアとして湯河原を訪ね、子どもたちと交流することは、子どもたちが自ら考えキャリアを選び取るという意味においても、小さくない意義があるとのことでした。

レクチャー後はまちあるきと、ユガラボでボランティアをしている湯河原町への移住者にインタビューを行うというアクティビティを実施し、これらのアクティビティを通じて聴き取ったことをもとに、参加者それぞれにとっての「湯河原町への『かわり方』プラン」を最終日に発表するという流れで、プログラムは進行しました。

まちあるきでは、前日インタビューを行った佐竹さんが経営する「tommorow's stand YUGAWARA」、みかん農家の方、昼食場所として「ためきの寄り処」（坦々麺を中心とした麺料理店）、「どら焼き和菓」と訪れました。「tommorow's stand YUGAWARA」では、たまたまお店に来られていたみかん農家の方からもお話を伺うことになり、予定外の展開から関係性が膨らんでいくという「ローカル」な感覚を体感することになりました。またカフェの中には、湯河原・真鶴地域で活動する作家の方の作品展示・販売のためのスペースなども設けられていました。こうした表現・交流の場が設けられ活用されているのも、佐竹さん自身のラジオ局での活動や、カフェ来店者との交流の中から生まれていっているのだろうと推測できますが、こうした「地域資源」の発見が最終日の発表のヒントにもなっています。

まちあるき後は、「駅前の居場所」に戻り、ユガラボにボランティアとして関わりながら湯河原町で暮らす移住者の方に、学生がインタビューをする形でお話を伺いました。宮城県生まれ、川崎から1年前に湯河原町に移住した佐々木さんは、湯河原町には「(人との) ほどほどの距離感に、海も山もたくさんの自然に囲まれている」ことを町の魅力として話してくださいました。長年武蔵野市で暮らしてきた田崎さんは、議会の傍聴にも日頃出かけていて、そこで見聞きした地域課題の一つとして、町のバス路線が近く3系統もなくなり、自身の住まいの近くの路線もその対象に含まれていることをお話しされていました。都心からほど近い神奈川県にあっても、公共交通の持続可能性の課題は顕著になり、人口減少に伴う日本全体の課題として、近い将来議論されることになるのだろうと感じました。



最終日、これまでの2日間の湯河原町での体験や、インタビューによる聴き取りをもとに、参加者それぞれの湯河原町「かわり方」プランの発表を行いました。

これまでの2日間の湯河原町での滞在を通じて見聞きしてきたことをもとに、自身がこの町に関わっていく上であったら良いと思うもの、町の課題として捉えその解決を目指すものとさまざま挙げられましたが、アイデア自体の質以上に、アイデアに至るまでの過程における地域を見つめる眼や、まちあるきを通じた地域資源の発掘の仕方、いく先々でお会いした方のところに「また会いに行こう」と思うに至る心の動きなど、このプログラムを通じてそれまで縁のなかった地域が、「私にとっての『ふるさと』」の一つとなっていく。その過程に大きな意義があり、過程を描いたものがこのプログラムであったことを、参加学生の発表から確認することができました。

(ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野 勲)

●参加者の感想（原文ママ）

- 本プログラムが成立した背景には、様々な人との繋がりや奇跡の積み重ねがあることを知り、物事一つ一つに意味があると感じました。そのため、一つ一つの出会いや出来事を大切に過ごしていきたいと思いました。

また、「今ある資源を有効活用したい」という佐竹さんの想いを聞き、素敵な考え方だと感じました。私は新たなものを作り出すことばかり考えていましたが、道に落ちて使われないみかんをジュースにしたり、ラジオを通してお互いにニーズを持った人を繋ぐなど佐竹さんの活動を聞いて、世の中には上手く活用されていないだけで、素晴らしいものがたくさんあることに気づくことができました。さらに、「居場所」やゲストハウスなどでの生活を通して、人と関わることの楽しさや大切さを再認識しました。年齢も生き立ちも異なる人々と関わることで自分とは異なる世界に触れることができたり、人の温かさを感じることができ、とても有意義な時間でした。

- 一般社団法人ユガラボがどのような多世代の居場所づくりをしているのか、インタビューやまち歩きを通して、一部分ではあるが知ることができた。私は12年ほど都会で育ち、地域や居場所ということを感じることはなかった。しかし、高校時代に様々なことで悩んで落ち着かないなと感じた経験から、いかに居場所やこの町に住んでいたいと思う気持ちが安心感を持つために大事かを知ったため、多世代が集まれる場所はいいなと思った。湯河原に住んでいる人が、「住みやすい」という声が多くて、それが地域をより住みやすくしていると思うため、大事な要素だなと気づくことができた。都会に住んでいても様々な地域と関わられるような仕組みは旅行やふるさと納税、ボランティアなどあるので、盛り上げていけるといいなと思う。



27 東洋大学学生課外活動育成会 「樹海清掃ボランティア(夏)」

開催期間・日時	2023年9月4日(月) 13:00~15:30
会 場	国道139号沿い 青木ヶ原樹海
目 的	富士山麓の青木ヶ原樹海清掃を行い、自然の中にどれだけゴミが捨てられているかを知り、今後の環境問題について一人一人が意識することを目的とする。そして清掃ボランティアに対する魅力を知る機会にする。 また、他のボランティアやSDGsの企画に参加する意欲を高める。
参 加 者 数	49名
協 力	認定特定非営利活動法人 富士山クラブ

■ 活動内容 (概要)

2023年9月4日(月)「認定特定非営利活動法人富士山クラブ」の皆様にご協力をいただき、国道139号沿い青木ヶ原樹海で清掃ボランティアを実施しました。

当日は企画者であるSDGsアンバサダー4名と一般参加学生45名の学生が清掃活動に参加をしました。現地に到着後は運営側も含め、3チームに分かれて活動を開始し、国道139号沿い青木ヶ原樹海周辺をゴミの分別を行いながら清掃活動を実施しました。

【運営学生からの声】

- 今回は総勢70名を超える申し込みがあり、板倉の学生を中心に参加を募りました。事前の説明会で富士樹海の環境保全や、ゴミ問題等について富士山クラブの方から講話をいただき、多くの学生がより意識を高めることにつながりました。実際にゴミ拾い活動をしてみると、中には岩と一体化するほど昔から放置されたゴミを見受けることもあり、私を含め多くの学生の興味を引いていました。土に埋もれているゴミは取りにくく、それを掘り起こして回収することで改めてゴミを放置してはいけない理由がより理解できたと思います。
- 私含め清掃ボランティアに初めて参加した方も多く、ゴミの量や内容に衝撃を受けていました。またバスレクでアンバサダーが考えた富士山・樹海のクイズは正解している方も多く、そのことから環境問題や自然に関心がある方々が参加したのだと思いました。それでさらに関心やモチベーションを高め、交流を深めることができたと思います。
- 今回の清掃活動では参加学生たちの意欲的な姿勢が特に印象的でした。清掃活動時には、分別したゴミは袋を分けて回収したため、参加者同士で自然と協力することができました。ゴミの計測の際にも参加者が中心となっていく等、熱意を感じる場面があり、今回の活動の目的が達せられていることを確認できました。また、板倉の学生主体で行った今回の活動ですが、学年や学部が異なる人が多い中、清掃活動を通じて一体感が生まれたと思います。
- SDGsアンバサダーとして初めての運営でした。リーダーを中心にミーティングを重ね、工夫しな

から企画を練ることができ良い経験となりました。

【参加学生の感想】

- 自分が思っているよりも、自然の中にはゴミが多く、汚れているということだ。少量のゴミであっても、それが積もってゴミの山と化す。一人一人が自然のことを考え、環境志向をもつことが重要であると思う。
- プラスチックや缶などのゴミは、どんなに時間が経っても土に還ることはないとわかった。これからもゴミは捨てないように徹底しようと思った。
- 私たちの日常生活での行動を、意識一つ変えるだけでも環境保全や持続可能な社会へつながっていくことを今回の活動を通して感じました。
- 大量のゴミがただ捨ててあるだけでなく、それらが近くのコケや植物と絡み合って取れなくなっていたのを見て、少しのゴミが森林に及ぼす影響を直に学ぶことができた。
- 塵も積もれば山となるという言葉を実際に感じる事が出来た。仲間と声を掛け合い、協力することの大切さを学んだ。
- 行きのバスで行なったレクリエーションが楽しかった。氷穴も初めての体験で良かった。樹海でのゴミ拾いは耳で聞くより自分でゴミ拾いすることで環境問題を再確認することが出来た。



28 東洋大学学生課外活動育成会 「里親子デイキャンプ」

講 師	小野道子先生（東洋大学社会学部社会福祉学科小野ゼミ）
開催期間・日時	2023年10月28日（土）8：00～16：00
会 場	千葉県ふなばし三番瀬海浜公園
目 的	里親は都道府県知事など（指定都市や児童相談所設置自治体含む）が委託する事業であり、里親子への支援は基礎自治体ではほとんど行われておらず、地域支援を受ける機会はありません。東洋大学社会学部社会福祉学科では、千葉県里親会と連携して、千葉県の里親家庭の子どもたちと1日外遊びをし、里親の方々には里親同士の交流やレスパイト（休息）をとってもらう活動をこれまでも育成会の支援を受けて実施してきた。今年度も、公園でのデイキャンプを通して千葉県の里親子がリラックスできる空間づくりを行った。子どもたちには様々なレクリエーションなどの遊びを、里親の方々には子育てに関する座談会やお茶会による交流の場を提供した。
参 加 者 数	94名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 ゼミ生33名、ボランティア学生23名、里親子35名（里子20名、里親15名）、TA（大学院生）3名
協 力	特定非営利活動法人乳幼児家庭養育の会、千葉県里親会

■ 活動内容（概要）

- 7：55 赤羽台キャンパス、白山キャンパスに集合。バスに乗車。
- 8：15 各キャンパスを出発
- 9：00 ふなばし三番瀬海浜公園着。受付準備や昼食受け取りに向かった。
- 10：00 里親子が到着次第順次受付をし、大学生と子どもの引き合わせを行った。
- 10：30 開会式
- 10：40 レクリエーション（ピンポン玉リレー、ジェスチャーゲーム、しっぽとり）
当日は10月後半にも関わらず汗ばむ気温だったため、各レクの間に水分休憩を取った。
里親の方々とは一部の学生で座談会を行った。
- 12：00 昼食
おにぎり7種類、サンドイッチ5種類、フルーツポンチを用意し、参加者がそれぞれのブースを巡って好きな種類のごはんを選ぶ方式を取った。
- 13：00 自由遊び、お茶会
子どもたちは大学生と噴水での水遊びや、用意したシャボン玉やボールなどのおもちゃで遊んだ。里親の方々にはお茶会を開催し、里親同士が交流する場を設けた。
- 14：30 閉会式、片付け

15:00 ふなばし三番瀬海浜公園出発、16:00各キャンパス到着、解散

〈学生の感想〉

- 里親子デイキャンプは育成会、里親会の方々のお力添えをいただき当日を迎えることができた。今年度はゼミ生代表者だけでなくボランティア学生からも当日の運営担当者を配置する、昼食でフルーツポンチを提供する、里親の方々に座談会にご参加いただくなど新たなチャレンジをした。当日の運営は予定通りに進めることが難しい部分もあった。しかし、臨機応変に対応して時間調整を行い、無事に里親子デイキャンプを終えることができた。里親子の皆様にはお楽しみいただき、学生には楽しみつつ里親子について学ぶ貴重な体験ができた企画となったと感じている。来年度も皆様のご支援をいただいて今年度以上に盛り上がる里親子デイキャンプが実施できたらと思う。
- 子どもたちの笑顔を見ることができて嬉しかった。
- お子さんと遊ぶことも、里親さんのお話をお聞きすることも、学生同士が仲良くなることもできたため大変満足している。
- 子どもは最初は人が多かったり森があったりで緊張していたが、話していくうちに打ち解けることが出来て楽しかった。
- 里親さんとお話をさせていただき、里親さんが望んでることを知ることができた。子どもたちはいわゆる里子であるけど、実親と暮らしている子と何も変わらない、遊び盛りの子どもたちでレク中はただ楽しむことができた。
- 最初はどうやって信頼関係を築けるか心配があったが、相手の気持ちを考えて行動することで、少しずつ歩み寄ってくれるのだと感じた。
- 年少の小さいお子さんと関わる機会はなかなかないので、どの程度お話ができて、コミュニケーションがとれるのか、など発見だらけだった。
お子さんの気持ちを尊重しながら、危ないことやダメなことは止めるという、線引きの難しさを感じた。
- 子どもの目線で話すことの大切さや、興味を引き出す話題などを提供する必要性を再認識した。

〈里親さんの感想〉

- 進行がスムーズでとても良かった。
- 親子ともにとても楽しい1日を過ごすことができて感謝している。
- 子ども達が毎年楽しみにしているので年2回になるととても嬉しい。

〈お子さんの感想〉

- とても楽しかった。また行きたい。
- 特にレクのしっぽ取りゲームが面白かった。
- デイキャンプは楽しいので、1年に2回やってほしい。
- 次はいつなのか待ち遠しい。



29 東洋大学学生課外活動育成会 「ボランティアやっただけで終わらせない ための『対話のシカタ』」

主 催	東洋大学ボランティア支援室
企画・運営	任意団体 full bloom、東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ
ファシリテーター	大内田 絢加さん、辻 正登さん（任意団体 full bloom）
開催期間・日時	白山キャンパス、赤羽台キャンパスの2会場で実施しました。 【白山】2023年11月27日（月）17:00～20:00 【赤羽台】2023年11月28日（火）13:10～16:10
会 場	【白山】2号館スカイホール 【赤羽台】WELLB HUB-2 5階 ボランティア支援室分室
目 的	①学内外でボランティアなどの課外活動を通じて得た知識、経験をその場限りで終わらせることなく、自分の今後のキャリアの糧へと昇華するための、自分自身のふりかえり方、他者や仲間との対話の仕方を学び、自発的に活動を「創造」できるようになること。 ②学生自身が「自分の考えを発信する力」、「自分の考えを他者へ伝える表現力」、「自分が考える活動を行う力」を身につけ、授業や課外活動への積極的な参加や、就職活動に向けて自身をふりかえるきっかけとすること。
参加者数	【白山】12名 【赤羽台】14名

■ 活動内容（概要）

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、コロナ禍において制限のあったボランティア活動が通常期の形で実施できるようになり、本学の学生ボランティアによる活動も活発さと充実さをとり戻しつつある中、活動の「ふりかえり（reflection）」を行う場面もしばしばあります。

しかし、「ふりかえり」を体系的に学ぶ機会というのはほとんど聞かれないため、いわゆる「反省会」のように改善点を列挙し、次回の活動に活かすという点に終始しがちです。もちろんこうした観点で活動をふりかえることも必要ではありますが、自発性をベースとするボランティア活動においては、活動者がどのような感情をもって活動に関わっているのか、活動を通じてどのような「願い」を実現したいかという面を個々人で内省し、それを集団でわかちあうことも大切なプロセスです。

今回、full bloomとの協働によって実施したワークショップは、昨年度に続き2度目の開催となりますが、今年度は特にボランティアサークルを主たるターゲットに設定し、サークル内で体系的に位置付けられることの少ない「ふりかえり」の機会を、ボランティア支援室サポートスタッフとともにつくる試



みとしました。

ワークショップは、NVC*の要素を取り入れながら、個々の参加者が活動に関わる中で感じた感情やニーズを、「自分軸」「他者軸」「社会軸」の3つの軸に沿いながら、内省化とわかちあいを進めました。

以下、ボランティア支援室サポートスタッフからの報告です。

私は今回、こちらのプログラムを初めて参加させていただきました。参加の決め手となったのが、今までボランティアのふりかえりを行ったことがなく、ふりかえりをする事で何が得られるのかと興味を持ったからです。実際に参加したことで、想像より振り返りをする事、そして気持ちを伝えあうことの大切さが分かりました。

はじめに、ワークシートで「自分軸」「他人軸」「社会軸」という観点から、なぜボランティアを行うのか、行いたいのか、といったことを考えました。これは、人によって書きやすいものと書きにくいものが異なりました。その後、それぞれがワークシートを元に、他者に伝え合う場面で、当たり前かもしれませんが、同じ内容の人はいませんでした。

私たちが成長し大人になるにつれ、全てを自分の意見だけで話す機会は少なくなっていると思います。今回のプログラムでの約束ごとで、「他者の意見を否定しない」というものがあったためか、普段と比べてすんなりと自分の思いを伝えることができました。自分でふりかえるだけでなく、仲間とお互いに伝え合うことで、知らなかった自分の思いも知るきっかけとなりました。また、自分だけではなく、仲間が何を思って行動しているのかを知ることができたり、逆にあなたはこう思っているんじゃない?と仲間の思いの発見もしたりすることができたと思います。こうした、仲間と共にふりかえりを行うという機会は、なかなかないかもしれませんが、とても有意義な時間を過ごせたと感じるので、ボランティアに関わらず、今後も行いたいと思いました。

今回、企画を進めてくださったうっちーさん(大内田さん)とつーじーさん(辻さん)には、このような機会をいただけて、大変感謝しております。お二人が優しい雰囲気場で場をつくり上げてくださり、とても良い経験をすることができました。今回、参加をした決め手で、「1年越しにお二人に会いたかったから」という意見もありました。私も、この意見に賛同して、来年も参加したいです。

(法学部企業法学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 林 優希)

* NVC (Nonviolent Communication=非暴力コミュニケーション) とは、1970年代に、アメリカの臨床心理学者マーシャル・B・ローゼンバーグ博士によって体系化され、提唱された、平和的な関係性を構築するための対話手法。

具体的には、観察 (Observation)、感情 (Feeling)、ニーズ (Need)、リクエスト (Request) の4要素に注目しながら、自身の内なる対話や、相手の言葉の奥の意図の推測、相手との対話を行っていくものとされている。(参考:NVC Japan: <https://nvc-japan.net/nvc/>)



30 東洋大学学生課外活動育成会支援事業 「感染症まん延期に大地震！ あなたはどう、生き延びる？」 ～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～

企画・運営	東洋大学IVUSA、東洋大学SDGsアンバサダー（防災・まちづくりチーム）
講師 (インストラクター)	宮崎 賢哉さん (防災教育・災害救援コーディネーター、社会福祉士)
開催期間・日時	2023年12月1日(金) 18:30～12月2日(土) 12:30 (1泊2日)
会場	1日目：東洋大学白山キャンパス4号館1404教室 2日目：東洋大学白山キャンパス4号館1406教室 ※その他、同館4B11教室、4B12教室をサテライト会場ならびに控室として使用。
目的	1.参加者の防災・減災のための備えの意識の向上を図ること。 2.防災・減災のために自発的に行動できる学生リーダーの育成。 3.参加者が、東洋大学の災害時対策についての理解を深めること。 4.東洋大学白山キャンパスにおける、大規模地震時の行動についての動きを、実際の場面においてスムーズに行えるようになること。 5.感染症対策に配慮しながらの滞留生活の方法を実践的に学び、自分と周囲を守るための行動について理解すること。
参加者数	19名

■ 活動内容 (概要)

ボランティア支援室では、学生課外活動育成会の支援を受ける形で、首都直下型地震対策の一環として、大学に学生が滞留する必要性が生じた際、どのようなことに留意し対策を行う必要があるのか、そのことのシミュレーションとして、本企画を実施しました。

2023は、関東大震災からちょうど100年を経過する節目の年ということもあり、関東大震災当時の被災についての解説をインストラクターから受けた後、実際に大学内で一泊を過ごすことになった際の就寝スペースづくり、簡易トイレの設置（実際には使用せず）、アレルギー等に配慮した食事の準備などを参加者間で話し合いながら進めていきました。

以下、企画運営に携わった学生からの報告です。

【1日目】

1日目は宮崎さんより、今年で発生から100年になる関東大震災の解説や、今後起こると予想されて



いる首都直下型地震の被害想定など説明や、災害が起こった時には帰宅せずにその場に留まること、交通機関は1週間以上動かないおそれがあること、群衆雪崩などの二次被害を起こさない、巻き込まれないために親に迎えに来させないことなどの基本的な防災知識を学んだ。

その後、実際に学内で地震が起こった想定で、チームに分かれ各々のチームリーダーが中心となり、簡易トイレ（実際には使用せず）やベッドの設営・食料品の確保及び配布を行った。段ボールやビニール袋などを使って二手に分かれてトイレとベッドを設営したが、ベッドでは緊急時の通路の確保や頭上のプロジェクターなどの位置を考慮して、限られたスペースで男女の性別間のゾーニングの設定に手間取ったり、臭いや衛生面・プライバシーの観点からトイレの構造や設置場所の議論に時間を要したり、ベッドとトイレのセットに集中していてご飯の用意がなかなか出来なかったりなどで、就寝時間が遅くなってしまったのが印象的だった。これが今回のような数十人規模の設営ならまだしも、数百人いる中でこのように悩んでいては避難者の健康やストレスにも影響が出てしまい、より大ごとになってしまうのではないかと感じた。

さらに「21:30から計画停電をする」という情報を受けて、停電することを見越してその時間までにやるべきことをやることはできたものの、結局停電は起きなかった。この時のように、災害時には情報が錯綜しやすいので、その情報が本当に正しいかをファクトチェックするなど、今回の場合は「もし停電が起きなかったら?」というifを考えて行動すべきだと感じた。

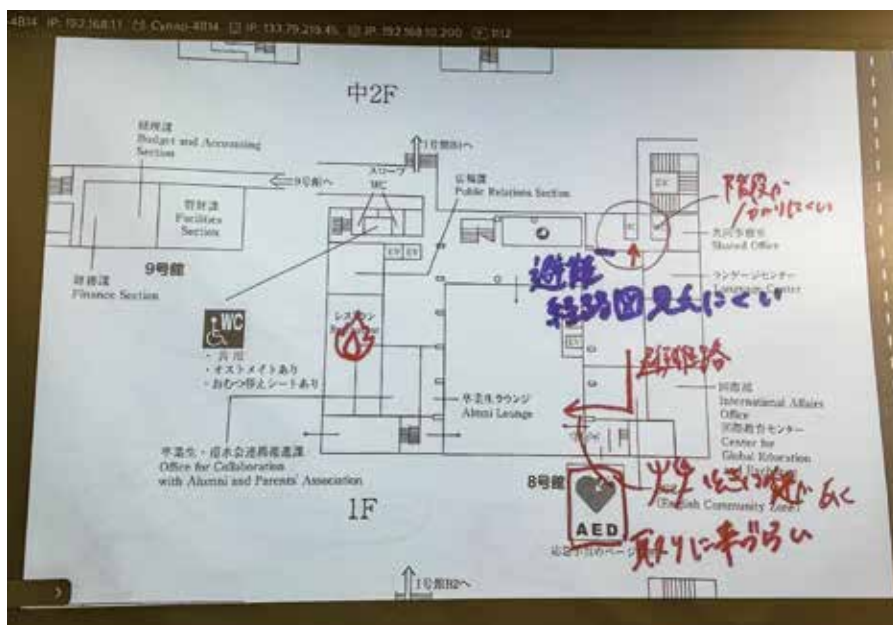
災害時は物品や情報が制限され、かつその精度や正確さがより不確実なものになるので、平時より一層ものごとを深く考える必要があると感じた一夜だった。

（経済学部国際経済学科2年 SDGs アンバサダー 中津 拓人）

【2日目】

2日目は地震から一夜明けたという想定の下ではじまりました。皆慣れない食事、寝床で疲弊していましたが、実際の被災地はそれ以上であることが容易に想像でき、とても実践的な経験が出来ました。

企画としてIVUSAの学生を中心に校内ハザードマップの作成を行いました。各班分かれて校内を周り、災害時に危険な場所を地図におこしたり、目の不自由な



人の視覚を疑似体験できる道具を使い、視覚障害者の方に迫る危険についても考えたりしました。実際に疑似体験できるゴーグルをつけてみると白杖を使ってもまっすぐ歩くだけでとても難しく災害時には健常者より多くの危険があることが分かりました。普段使っている校舎のはずが、視点を変えて見るとたくさんの危険が見えてくることに驚きました。

ハザードマップ作成を終えて、日常に潜む危険を沢山知ることができました。普段何も考えずにまたいでいる段差も、停電時などでは大きな脅威になりえます。今後は今回の経験を生かして見落とし

がちな脅威に目を向けることが大事だと思った。

2日目の最後に2日間の経験を通して感じたことを、各自今後の行動宣言として皆で共有しました。各自得た知識と経験を今後の学生生活に生かしていきたいと思います。

(法学部企業法学科2年 東洋大学IVUSA 宮入 遥彦)



31 アフガニスタンにおける教育の現状と課題 ー初等中等教育制度及び障害児教育を中心にー

講 師	Mr. Mohammad Idrees Naeemy (筑波大学大学院人間総合科学研究科障害科学博士課程)
開催期間・日時	2023年10月31日 (火) 16:30~18:00
会 場	東洋大学 白山キャンパス 6210教室
目 的	• SDGsの「4. 質の高い教育をみんなに」該当する • 海外の教育の現状と課題について知り、教育の諸課題について学生自らが考える
参 加 者 数	教育学科の授業履修生84名 他学部他学科7名 (事後アンケートより算出)

■ 活動内容 (概要)

講師のイドリス氏から①アフガニスタンの紹介 (地理、人口、生活)、②アフガニスタンの教育の歴史、③アフガニスタンにおける教育の現状 (教育システム、児童生徒数、学年・暦、学校の一日のスケジュール、成績評価の付与の仕方、指導方法)、④アフガニスタンにおける障害児教育 (児童生徒数、インクルーシブ、特別支援学校)、⑤アフガニスタンの教育制度の課題について、写真を豊富に盛り込んだパワーポイントを用いながら講義がなされた。



義務教育段階では課程主義の制度がとられており、日本の教育制度とは異なることが多かったが、講師が受講学生向けに事前資料を配布していたため、事前学習を踏まえて内容を理解することができた。またNGOによるインクルーシブ教育を促すための入学前プログラムが設けられている点など、欧米とは違ったインクルーシブ教育の実施についても知ることができた。

講義の最後には質疑応答の時間を設けたが、時間が足りないほど学生から質問がなされた。そして講義終了後には学生が数名列を作って講師に質問する場面も見られ、学生の関心の高さがうかがえた。



32 2023年度白山祭 SDGsアンバサダー出展

開催期間・日時	2023年11月4日(土)、11月5日(日) 10:00~18:00
会場	東洋大学 白山キャンパス 6318教室
目的	・アンバサダーの活動報告をすること。 ・来場者へSDGsに対する学生の想いを伝えること。
参加者数	出展者: 15名、来場者数: 延べ303名
協力	ボランティア支援室

■ 活動内容 (概要)

第59回白山祭にてSDGsアンバサダーの出展を行いました。1日目141名、2日目162名と多くの方々に来場していただき、活動を知ってもらうことができました。学生や教職員、地域の方々や東洋大学を志願する高校生の方にも来場していただきました。今回の出展では、ポスターによる活動紹介のみならず、来場者にSDGsを自分事として捉えてもらうきっかけを作るためのゲームやブースを設けました。また、学生目線での取り組みや自分自身のSDGsに対する想いを直接伝えることを念頭に、企画、運営を行いました。以下、それぞれの展示の報告です。



○ポスター展示

各5チームの紹介と、これまでアンバサダーがかかわってきた活動をポスターにまとめて展示を行いました。来場者には、ただポスターをみて内容を知ってもらうだけではなく、実際に活動に参加したメンバーがその場でエピソードや参加したきっかけ、感じたことなどを直接説明しました。ポスターを見ているだけでは伝わらない学生の想いや熱意を伝えることで、来場者からは「SDGs面白い!」「もっと詳しく聞かせてほしい!」といった感想をいただきました。自分が行ってきた活動を伝えることは、アンバサダー自身にとっても、貴重な経験になったと感じています。



○防災ベッドの展示

実際に防災ベッドを組み立てて展示を行いました。実際に寝ることができるという体験型のブースであり、来場者にとっても貴重な体験ができたと思います。「実際に寝るのは初めて。」「珍しい!」といった声をいただき、来場者アンケートでは印象に残った展示として防災ベッドを挙げた方が一番多かったです。防災ベッドの仕組みや構造も説明し、より詳細に伝えることができました。

○SDGsの木

出口付近に大きな木が印刷された模造紙を用意しました。来場者が展示を見たり、アンバサダーから聞いたたりしたことを振り返り、花びら型の付箋紙に今の想いを記入してもらいました。ただ展示を見てもらうだけではその場限りとなってしまうため、何かアウトプットできるものはないかという考えのもと、企画しました。来場者の方からは、「SDGsに興味を持った!」「自身の生活スタイルを見直したい。」「アクションを起こしていきたい。」といった想いが寄せられました。展示を通して、自分事としてSDGsをとらえるきっかけになったと感じています。また、付箋を書いてもらった人には、東洋大学がフードロス削減のため受け入れている「ハリボー」を配布しました。企画を通してフードロス削減にも貢献できた展示となりました。



○ゴミ分別ゲーム

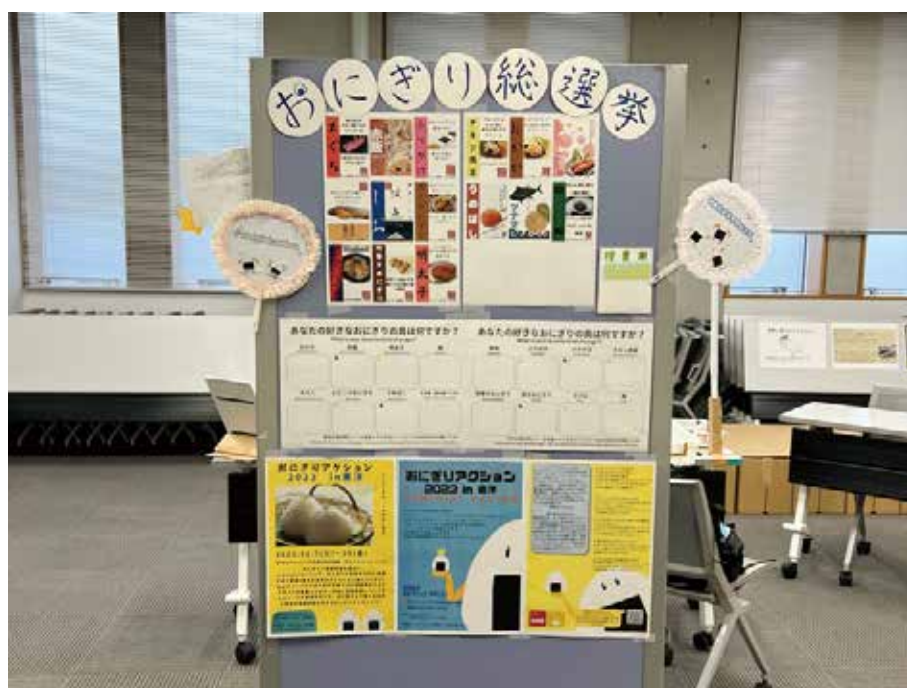
この企画も、来場者にSDGsに関心を持ってもらうという考えのもとSDGsを自分事として捉えてもらうために実施しました。白山キャンパスが位置する文京区のごみ分別に従って、カードに書かれたごみを瞬時に分別していくといったゲームです。ゴミの分別方法は地域によって違うため、このゲームを通して分別の大事さ、面白さを体感してもらうことが目的でした。子どもや学生、大人まで幅広い年代の方に楽しんでもらい、分別について理解を深めてもらいました。



以上のほかにも、おにぎりアクションの展示、プロジェクターでのサインージュを用いたアンバサダーの紹介も行いました。学生発のSDGsを伝えることを念頭に、数々の工夫を行いながら出展ができたと感じています。それぞれが参加した活動を来場者へ直接伝えることで、やりがいにもつながりました。来場者アンケートからは、「今の学生の想いが伝わった」「学生がやっているなら、私たち大人も。」「雰囲気もよく、とても楽しい展示でした。」といった意見が寄せられました。

今年度の白山祭を通して、来場者に楽しんでもらうこと以外にも、アンバサダー自身が楽しみながら企画、運営ができました。今まで活動に参加できていなかったメンバーも含めて準備を行い、もっと活動に参加したくなったという人もいました。来年度以降は、SDGsアンバサダーとほかの団体と連携を行った展示や、さらに来場者にSDGsに対して興味を持ってもらえるような企画を立案していきたいと考えています。「学生目線でSDGsを伝える」ことを念頭に来年度も出展を行っていきます。

(経営学部会計ファイナンス学科1年 SDGsアンバサダー 奥村 碧斗)



33 「AKABANEDAI FESTIVAL 2023」へのSDGs アンバサダーによる出展

講 師	株式会社ユニクロ、株式会社ファーストリテイリングの社員4名
開催期間・日時	2023年11月4、5日（土、日）10：00～18：00
会 場	東洋大学 赤羽台キャンパス WELLB HUB-2 20208教室
目 的	学園祭でのユニクロの衣類回収活動の回収及び企業の活動の周知 我々アンバサダーの活動周知 一般の来場者のSDGsに対する意識向上
参 加 者 数	延べ786名 【内訳】学生（アンバサダー）10名、職員3名、一般773名
協 力	株式会社ユニクロ、株式会社ファーストリテイリング、 東洋大学エクステンション課スタッフ

■ 活動内容（概要）

「AKABANEDAI FESTIVAL 2023」とは、東洋大学赤羽台キャンパスの学園祭である。SDGs アンバサダー赤羽台キャンパスチームとしては初の学園祭出展であった。今回の学園祭当日の出展に当たり、以下の作業を行った。

1. ユニクロの講師による事前講座
2. 学内事前回収
3. 資料準備
4. 当日の感想と振り返り

1. ユニクロの講師による事前講座について

2023年10月4日（水）に東洋大学赤羽台キャンパスWELLB HUB-2 ボランティア支援室にて株式会社ユニクロの方を本キャンパスにお招きし、活動にあたっての事前講座を行いました。具体的な活動内容だけでなく、物流プロセスや需要と供給の兼ね合いなどの背景事情などを知ることができ、多面的に学ぶことができました。ファッション産業が環境に与える影響を減らし、社会的な貢献をする方法についての理解が深まりました。また、講師の方が情熱的で、質問や疑問に対して親身に答えてくれたことも大きな充実感を感じさせてくれました。

2. 学内事前回収について

衣類回収は白山、赤羽両キャンパスで行いました。赤羽台ではINIAD（情報連携学部）のサイネージに掲載し、WELLB HUB-2には廊下の壁にチラシを掲載することで周知を促しました。また、社会学部の林非常勤講師の講義のお時間をいただき、学生に衣類回収活動の宣伝や各アンバサダーが所属するゼミやクラブなどで宣伝活動を行いました。

周辺地域の住民や小学校、高校、商業団体にもエクステンション課の職員を通じて宣伝を行いました。加えてInstagram,X (Twitter) や東洋大学ボランティア支援室のウェブサイトなどの告知も行いました。

4. 当日回収について

当日は自分たちが想定しているより多くの方に来場していただきました。少ない人数で対応しましたがスタッフの協力のもと各々アンバサダーが頑張ってくれました。自分たちで製作した展示物の発表や、ユニクロの活動概要の説明など初めてで不慣れなことが多かったのですが、大成功だったと思います。

今後の改善点としては、活動の規模が小規模であったこと、運営の人員数、イベントの進行がスムーズではなかったことだと感じました。一般の来場者からのアンケートにもそのようなご意見は一定数いただきましたので来年度以降に活かしていきたいです。

(情報連携学部情報連携学科3年 SDGs アンバサダー 岩堀 優也)

【会場の様子】



【後日整理と店舗への古着運搬】



【同時開催「おにぎりアクション」】



【クイズ大会の様子】



【授業での衣類回収プロジェクト説明】



34 CSR論 公開講座 「企業と人権」

講 師	秋山映美さん（株式会社クレアン）
開催期間・日時	2023年11月7日（火）9：00～10：30
会 場	東洋大学 川越キャンパス 522教室
目 的	SDGsの基本に位置づけられており、企業等の組織の社会的責任における原則や中核主題もなっている人権への取組について、基礎と取組事例を学ぶこと。
参 加 者 数	49名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】対面47名 Web 2名（一般学生2名）

■ 活動内容（概要）

最初にクイズ3問の出題と回答、解説から始まり、人口問題、労働問題、地球環境問題など様々な問題が人権問題につながっていることが説かれた。次に、日本における人権の認識のズレがあること、また、人権が常に進化していることが説明された。

「ビジネスと人権」として企業の影響力が拡大していること、企業による人権侵害に対する批判があること、国連における指導原則が存在し、その内容について説明があった。

人権課題に関係するものは、①女性・障がい者、外国人、セクシャルマイノリティ等の差別、②被差別部落（同和）問題、③セクハラ・パワハラ等ハラスメント、④公正かつ良好な労働条件、⑤児童労働、⑥有害化学物質の管理・流出、⑦プライバシー・個人情報の保護、⑧建物の安全性、⑨気候変動、⑩租税回避など多岐にわたり、ハラスメントは、相手の人格や尊厳を侵害する人権問題であること、日本では特に女性差別（管理職の女性割合や議員数）、セクシャルマイノリティ差別、外国人差別が存在している。

差別に当たるものや差別を引き起こす行為について学生にクイズ形式で問いかけた上で、気づかずにやっている差別の存在、事業を行う上で起こる人権侵害（児童労働、強制労働、奴隷労働）、広告・表現などによる人権侵害、差別表現などの説明があった。

最後に、企業活動はさまざまな人権に影響を与え、自社の社員の権利だけでなく生産パートナー、取引先、消費者、地域住民などサプライチェーンの権利も考える必要があることが説かれた。



35 誰もが尊重され、すこやかに生きることができる社会とは ～LGBTQ+ について学ぶ～

講 師	前田 邦博さん (プライドハウス東京 理事・社会福祉士)
開催期間・日時	2023年11月28日 (火) 16:30～18:00
会 場	web方式
目 的	LGBTQ+について学び、「誰もが尊重され、すこやかに生きることができる社会」に必要な課題について考える。
参 加 者 数	190名 ※アンケートベース 【内訳】対面168名(授業履修者) Web22名(授業履修者11名、一般学生11名)
協 力	社会福祉学科

■ 活動内容 (概要)

社会福祉学基礎演習Ⅱの合同授業として実施した。

前田邦博さんご自身の体験をお話しいただき、これまでの人生の中で前田さんが直接感じた差別やどのように過ごされてきたのか分かりやすい資料を基にお話をいただいた。

また、文京区議として文京区のLGBTへの取り組みについてお話しいただき、文京区がどのように、LGBTQ+の方々に対して政策を行った来たのか、また周辺の自治体についても分かりやすくお話しいただいた。

その中で、パートナーの方との別れや病院や相続など法的な問題で「家族」として当たり前の権利を受けることができない現実についてもお話しいただいた。

当事者として活動をする難しさや地元の方たちの反応などリアルなお話をいただいた。

さらに、普段私たちが会話をしている中での「無意識な差別」をしているということについてお話しいただき、私たちが悪気はなくても当事者の方が傷ついていることもあることを知った。

最後に理事を務められている「プライドハウス東京」についてもご紹介いただき、LGBTQ+の方へどのような支援を行っているのかお話があった。



36 子どもの貧困問題と学習支援教室が果たす役割

講 師	NPO 法人 さいたまユースサポートネット 学習支援事業統括 山本香苗さん
開催期間・日時	2023年11月28日(火) 16:30~18:00
会 場	東洋大学 赤羽台キャンパス 20406教室
目 的	学習支援教室に通う生活困窮者世帯の子どもたちの実状から見えてくる家庭・学校・地域社会の抱える課題を理解し、これからの学校や地域社会の果たすべき役割を考える。
参 加 者 数	73名(すべて対面、授業履修者)

■ 活動内容 (概要)

NPO 法人さいたまユースサポートネットの学習支援事業統括をされている山本香苗さんより、子どもの貧困―身近に潜む経済格差と子どもの教育格差―という題目で、学習支援教室に通う生活困窮者世帯の子どもたちの実状、家庭・学校・地域社会の抱える課題、学習支援教室が果たしてきた役割についてご講演いただいた。

以下、聴講学生の感想より。

- 本日の講義では、貧困問題について深く理解できた。貧困には見える課題と見えない課題があり、困っている子どもがいたら目を向けて、気づくことが大事であると感じた。何に悩んでいて、何を考えているかなどを子どもからコミュニケーションを通じて感じる必要があるだろう。これは教師にも通じるだろう。生徒の変化や様子がおかしかったら、何か声を掛けて、少しでも早く気づくことが大事である。いじめがあるのか、個人の悩みなのか、家族的な悩みなのかなど教師には早期にできることが多くある。そのため子どもの変化に気づくことはとても大事なことであると考える。
- 世帯所得と子供の学力は比例関係にあり、受けられる教育、教育の質に格差があることを学んだ。貧困家庭の生活課題として学ぶ環境が整わない、学ぶモチベーションがない、才能を見いだしてくれる人との出会いがないといったものがある中で学習支援というサポートがあるのはとても良いものだと考えた。このサポートを受けることで教えた側と生徒側に信頼関係が生まれ、どちらも達成感が味わえるものだと考えた。エピソードを聞いてこのような繋がりがあるのはとても良い事だと感じた。
- 学校以外で学校での生活が辛い学びたいという子供の通える機関があり、そこで何かしら問題のある子供たちが活き活きと活動する姿を見て、学校で子供と関わるだけが教育、学習指導というわけではないのだなと思いました。また、授業で関わるだけでなく日常会話を生徒とすることでその生徒の抱えている問題を知るきっかけになるということを学べて、良かったです。

- 貧困には見える課題と見えない課題があり、困っている子どもがいたら目を向けて、気づくことが大事であると感じた。何に悩んでいて、何を考えているかなどを子どもからコミュニケーションを通じて感じる必要があるだろう。これは教師にも通じるだろう。生徒の変化や様子がおかしかったら、何か声を掛けて、少しでも早く気づくことが大事である。いじめがあるのか、個人の悩みなのか、家族的な悩みなのかなど教師には早期にできることが多くある。そのため子どもの変化に気づくことはとても大事なことでありと考える。



37 「SDGs Week EXPO(エコプロ2023)」への出展

企画・運営	SDGsアンバサダー
開催期間・日時	2023年12月6日(水)～8(金)
会場	東京ビッグサイト
ブース来訪者数	約176人

■ 活動内容 (概要)

東洋大学SDGsアンバサダーは、12/6、12/7、12/8の3日間に渡り東京ビッグサイト・国際展示場(江東区)にて開催された「エコプロ2023」に出展しました。本学アンバサダーのSDGsへの取り組みについて広く紹介すること、同じくSDGsや環境保全に取り組む他団体との交流や今後の連携に関するきっかけを作ることを目的とした出展であり、ブースにおいてはアンバサダーについての紹介、由比ヶ浜のビーチクリーンや白山・赤羽台・川越・板倉の各キャンパスにおける活動事例紹介を行いました。また、他団体ブース巡りツアーを敢行、主に他大学ブースに赴き、SDGsや環境保全に取り組む上で、様々な活動事例に触れる事や、同じ大学生として活動を行う上でのマインドの共有ができました。

なお、ブースへの来訪者は1日目で推定40名ほど、2日目で60名、3日目で76名を数え、ブース外にてアンバサダー各々が行った交流等含めると、全体を通じては少なくとも200名以上と交流を行った事になります。例としては株式会社中村屋、琉球大学、公立鳥取環境大学、法政大学、関西大学とは将来的な連携を見据えた交流を行ったほか、日本工業大学に関しては本学アンバサダーのキャラクター「おにぎりくん」を3Dプリンターにて学生の方に立体化していただくなど、普段の活動では経験できないような深い交流を行う事ができました。エコプロを通じては来年度以降のアンバサダー活動を見据える上ではとても貴重な経験だったと思います。大学はもちろんですが、企業、行政、各種団体における、いわば我が国における最先端のSDGsや環境保全に関する取り組みの事例を知ることができ、我々の活動の方向性を考える上でのヒントになり、SDGsアンバサダーとして自分がどのようなアクションを起こしていきたいかということを考える指針になったことは間違いないかと思います。

また、我々の活動事例の紹介の上でいただいた反応は、普段の活動を客観的に振り返るという意味では重要なものであったと感じます。応援してもらう、ということはもちろんですが、例えば活動事例に関しての質問、意見(例えば今後こういうことを行ってみると面白そうだね、というようなもの)をいただく過程では、我々が考えていなかったような、新たな視点でアンバサダー活動を捉えるきっかけになったと言えるかと思います。

(国際学部国際地域学科2年 SDGsアンバサダー 松本 和大)





38 4大学合同 能登半島地震復興ボランティア

開催日時・会場	日 時：2024年3月11日（月）～4月2日（火） 活動場所：志賀町周辺
目 的	能登半島地震における被災地の復興支援
参 加 者 数	学生12名 引率4名
企 画 運 営	ボランティア支援室

■ 活動内容（概要）

令和6年1月1日に発生した「能登半島地震」では、能登半島各地で甚大な被害をもたらしました。

ボランティア支援室では、3月11日（月）～4月2日（火）の期間で、2日間の活動を4クール（各クール3名の学生が参加）で行いました。この活動では、「能登ボラ」として以前よりボランティアをされてきた国際学部の藪長教授から志賀町での活動をご紹介いただき、金沢大学、金沢星稜大学、早稲田大学、東洋大学の4大学が合同で活動を行いました。

志賀町災害ボランティアセンターを拠点としてボランティアニーズのあるご家庭に伺い、がれき撤去作業や、海岸に残ってしまった災害ゴミなどの撤去作業を行いました。今後も、ゴールデンウィーク期間に輪島市でのボランティアを予定しており、夏季休暇期間においても志賀町、輪島、珠洲地域にて活動を行う予定です。一日でも早い能登半島の復興の一助となるよう、これからも継続した支援を行っていきます。

【参加学生の感想】

●私自身、震災は記憶でなく記録でしかないものでしたが、今回のボランティアを通してメディアだけでは伝わらない情報にたくさん触れさせていただき、自分にとって震災というものが記憶に深く刻まれることとなりました。特に強く感じたのは人手の必要性です。重機を使っただけの作業はあるとはいえ、まだまだ地震の被害で入れない場所や機械を使用する優先順位は低いものの復元しなければならない状態などを目の当たりにし、人手がまだまだ必要だと強く感じました。

●門前の方まで行ったことにより、被害状況がより深刻なエリアを見ることになり、現状を思い知った。地震発生から3ヶ月が経つが、地震直後そのままのもの、手をつけたくてもつけられない状況になっている家屋が数多くあった。今回は蔵の掃除や瓦の撤去など被災地への貢献度は低かったかもしれないが、少しでも被災した方が普段の生活に戻れるような再建へのお手伝いができればとの思いで活動に取り組んだ。

●実際に被災地を訪れてみたことで、ニュースなどで報じられているような悲惨な被害状況ばかりではないのだなと感じました。その一方で、比較的被害の大きくなかった志賀町周辺でも蔵が半壊もしくは全壊になったりなどしており、ボランティアのニーズが至るところにあるということも感じました。



2023年度 ボランティア支援室 各企画資料

2023年度 東洋大学SDGsアンバサダー 新規登録募集

「おにぎり
アクション」
in TOYO



SDGsアクション仲間大募集!

東洋大学では、SDGs活動の一層の活性化、充実および発展を図るために、学生個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を与える制度を2021年度よりスタートしました。

SDGsアンバサダーは、主体的にSDGsを学び、SDGs17個の目標に関連した問題提起や企画立案をするともに、学内外を巻き込んで、学生ならではのSDGsアクションを起こしています。2023年度では、「カーボニュートラル」「ヒューマン支援」「防災・まちづくり」「ダイバーシティ」といった4テーマを中心に活動していくほか、「広報班」がアンバサダー活動の情報発信とPRをしています。

※2022年度のSDGsアンバサダー認定については、
大学HP (<https://www.toyo.ac.jp/news/social-partnership/csc/20220613/>) より参照できます。

2023年度東洋大学SDGsアンバサダー新規登録申込

【申込期限】4月22日(土)

【申込方法】Googleフォーム (<https://forms.gle/8jhBaRViEdurqJL7>)

お問い合わせ: 東洋大学ボランティア支援室

☎03-3945-7927

✉mlvolsup@toyo.jp



登録申込フォーム

2023年度東洋大学SDGsアンバサダー新規募集説明会

【日時】1回目: 4月11日(火) 12:15~12:55

2回目: 4月14日(金) 12:15~12:55

【場所】東洋大学ボランティア支援室(白山キャンパス・雨水会館1階)

東洋大学ボランティア支援室分室(赤羽台キャンパス・HUB-2 5階)

オンライン (zoom) ミーティングID: 996 0502 7750 パスワード: 2pJ28h

※個別相談は、4/3~4/21の平日、随時受付!

説明会への参加は
申し込み不要!
入退室自由!

2023年度 東洋大学SDGsアンバサダー 新規登録募集<川越キャンパス>

「おにぎり
アクション」
in TOYO



SDGs
アンバサダー
@2022
白山寮

東洋大学では、SDGs活動の一層の活性化、充実および発展を図るために、学生個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を与える制度を2021年度よりスタートしました。

SDGsアンバサダーは、主体的にSDGsを学び、SDGs17個の目標に関連した問題提起や企画立案をするともに、学内外を巻き込んで、学生ならではのSDGsアクションを起こしています。2023年度では、「カーボニュートラル」「ヒューマン支援」「防災・まちづくり」「ダイバーシティ」といった4テーマを中心に活動していくほか、「広報班」がアンバサダー活動の情報発信とPRをしています。

※2022年度のSDGsアンバサダー認定については、
大学HP (<https://www.toyo.ac.jp/news/social-partnership/csc/20220613/>) より参照できます。

2023年度東洋大学SDGsアンバサダー新規登録申込

【申込期限】4月22日(土)

【申込方法】Googleフォーム (<https://forms.gle/8jhBaRViEdurqJL7>)

お問い合わせ: 東洋大学ボランティア支援室

☎03-3945-7927

✉mlvolsup@toyo.jp



登録申込フォーム

2023年度東洋大学SDGsアンバサダー新規募集説明会 (川越会場)

【日時】1回目: 4月11日(火) 12:15~12:55

2回目: 4月14日(金) 12:15~12:55

【場所】川越図書館1階 グループ学習室(図書館・メディアセンター1階)

※川越図書館からお入りください。

オンライン (zoom) ミーティングID: 096 0502 7750 パスワード: 2pJ28h

※個別相談は、4/3~4/21の平日、随時受付!

説明会への参加は
申し込み不要!
入退室自由!

知って、買って、食べて 応援!

トルコ・シリア地震 復興支援イベント

販売会

4/27(木)
28(金)
11:00~16:00

販売会は運営ボランティアを募集しております。
興味のある方は社会貢献センターまでご連絡ください。
(mlvolsup@toyo.jp) ボランティア申し込み締切 4/23(火)

チャリティーイベント

5/19(金)
18:00~20:00

参加費
学生 1000円
教職員 2000円

シリア
料理
食事付



参加申し込み締切 5/9(火)

Mohamteam Facebookより画像引用



販売会

日時 4/27・28 11:00~16:00

場所 白山キャンパス6号館1階学生部前の廊下

内容 シリアに関する商品の販売

販売 シリアン・ハンズ(シリア人のボランティア団体のメンバーと学

生ボランティアが担当

※売り上げの一部をシリアン・ハンズを通し

Moham(現地の難民・被災者支援団体)へ寄付し、後日活動報告を公開します

トルコ・シリアにて発生した大地震により甚大な被害を受けたシリア北部は、紛争のため自国の政府から支援を受けることができません。民間の人道支援に大きく頼っています。「シリア内戦とは?」「私たちの手でなにができる?」—シリアについて知り、文化に触れることで、支援の手を差し伸べませんか?

チャリティーイベント

日時 5/19 18:00~20:00

場所 白山キャンパススカイホール

内容 ・シリアに関するレクチャーと質疑応答やアラブの

春(2011)以降の状況についての説明

・現地からオンライン報告 ・販売会

・シリア料理(デリバリー)を囲んでの交流

定員 70名

参加費 【学生】1,000円 【教職員】2,000円

※徴収した参加費から諸経費を差し引いた金額をシリアン・ハンズ

を通しMoham(現地の難民・被災者支援団体)へ寄付し、後日活動

報告を公開します

【申し込み方法】googleフォームより必要事項入力

https://docs.google.com/forms/d/1uFR3mqY0d0NkRk_SwZnqQ8t7YceVtL5mm0_CkxVn0a

※詳細は本文の添付文、キャンセルは5/10(水) (厳守)までとします。

主催: シリアン・ハンズ 協力: 東洋大学子島ゼミ、社会貢献センター (mlvolsup@toyo.jp)

b-lab 見学ツアー

無料
5/2
開催



中高生
の
居場所

グループワーク
館内見学

b-lab
とは?

2015年4月にオープンした教育センター(複合施設)の中にある区内初の中高生向け施設です。b-labは、いつでも、なんでも挑戦できる中高生の秘密基地です。リビングのようにくつろげたり、みんなでわいわい勉強したり、新しい友だちと出会ったり、バンド活動やダンス、バスケができた、やりたいことに思いっきり打ち込みだり・・・そんな施設を見学しながら

スケジュール

- 館内見学
- 質疑応答
- b-labやユースワークに関すること
- ディスカッション
- フミコム見学
- ※希望者のみ
- ※昼食後13時~見学開始
- ※現地集合、現地解散
- ※交通費は自己負担

募集要項

- 日時 5/2(火) 10:00~11:30
- 募集期間 4/6(木)~4/21(金)
- 定員 20名 (応募者多数の場合抽選)
- 同行 エクステンション課職員
- 場所 文京区湯島 文京区青少年プラザ b-lab (ビーラボ)
- 応募方法 QRコードから申込

中高生の居場所について
皆さんで考えてみませんか?

【お問い合わせ】
東洋大学ボランティア支援室
mlvolsup@toyo.jp



ボランティア支援室
各企画資料

Toyo 1dayボランティアプログラム2023



ពិធីរៀនសូត្រ ២០២៣
カンボジアフェスティバル
CAMBODIA FESTIVAL

フェスティバル運営ボランティア活動

2023年 5月3日(水)・4日(木) ថ្ងៃទី ៣-៤ ខែ ឧសភា ឆ្នាំ ២០២៣ Wed 3-Thur 4, May 2023
 代々木公園イベント広場 (東京都渋谷区) អូឡាំពិក ហ្វឺល្យ៉ូក Yoyogi Park, Tokyo

8:00-15:00, 14:00-20:00 8:00-15:00, 14:00-20:00 8:00-15:00, 14:00-20:00

事前学習会の日程・会場は決まり次第、e-mailでお知らせします。
 日程・詳しくはこちら / More informations

活動したい方は
 こちらから！

【お問い合わせ】東洋大学ボランティア支援室
 TEL:03-3945-7927 e-mail: mlvolsup@toyo.jp



まだ間に合う！
 ボランティアサークルで
 過ごすキャンパスライフ
ありかも！

#春から東洋 #ボランティア好きな人とつながりたい
白山キャンパスボランティアサークル合同新歓2023

【日時】
 2023年5月10日(水)
 16:00~20:00
 2023年5月11,12日
 (木、金) 11:00~17:00

【会場】
 東洋大学白山キャンパス
 雨水会館3階301,302教室

【参加の方法】
 直接、会場にお越しください。

【参加団体】
 ※募集の予定なく、変更となる場合がありますので、
 あしからずご了承ください。

- ・学ボラ ・IVUSA
- ・ISR-ConnAction ・国際ボランティアサークルSalamat
- ・本郷ロータリークラブ 学生チーム
- ・NPO法人チャリティーサタ文京支部
- ・東洋大学SDGsアンバサダー
- ・ボランティア支援室学生サポートスタッフ

※雨水会館1階には、社会貢献センター/ボランティア支援室があります！
 たくさんのボランティア・NPO等の活動情報を揃えています！
 ボランティア活動に興味のある方は、ぜひこちらにもお立ち寄りください！

お問い合わせ先：東洋大学ボランティア支援室 (担当：日比野)
 (TEL) 03-3945-7927 (e-mail) mlvolsup@toyo.jp

第2弾

東京都からの寄附食料品配布会

コロナ禍において、自宅療養者に対し飲食料品等の支援を行ってきた東京都ですが、5月8日より厚生労働省による新たな方針が示され、これらの支援を終了することとなりました。

そこで東京都が確保していた飲食料品等について、「食品ロスを減らす」というSDGsの観点からも、本学が物資を受け入れ、学生の皆さんにご協力をいただきながら、社会貢献に繋げられればと考えます。ぜひ、ご協力ををお願いします。

・日程 5月18日(木) 12:10~13:00
 ・配布場所 井上円了ホール
 ・申し込み 不要

※寄附食料品がなくなり次第終了します。
 ※エコバックなどを必ず持参してください。
 ※開始時間は前後する場合があります。

↓配布物の一例



ボランティア募集！

同時に、当日配布ボランティアを募集しています。
 ボランティアの参加を希望する方は、下記のフォームよりお申込みください。

申込フォーム: <https://forms.gle/x5fmVsgJzqjCKnXk6>
 お問い合わせ先 (ボランティア支援室) mlvolsup@toyo.jp / 03-3945-7927

臨時開催！

東京都からの寄附食料品配布会

コロナ禍において、自宅療養者に対し飲食料品等の支援を行ってきた東京都ですが、5月8日より厚生労働省による新たな方針が示され、これらの支援を終了することとなりました。

そこで東京都が確保していた飲食料品等について、「食品ロスを減らす」というSDGsの観点からも、本学が物資を受け入れ、学生の皆さんにご協力をいただきながら、社会貢献に繋げられればと考えます。賞味期限の近い食料品があることから、急遽下記の日程で臨時開催として配布会を行います。

・日程 **5月12日(金) 12:10~**
無くなり次第終了となります。
 ・配布場所 井上円了ホール
 ・申し込み 不要

※寄附食料品がなくなり次第終了します。
 ※エコバックなどを必ず持参してください。
 ※開始時間は前後する場合があります。
 ※第一弾は5月18日を予定しております。

↓配布物の一例



ボランティア募集！

仕方・配布のボランティアを募集しています。
 仕分け実施日時: 5月12・15・16・17日 9:30~18:00まで会場開室 (出入り自由)
 興味のある方はグクチカサプリよりお申込みください。
 申し込み先: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_2060059_news_5002761
 お問い合わせ先 (ボランティア支援室) mlvolsup@toyo.jp / 03-3945-7927

2部生対象!

東京都からの寄附食料品配布会

コロナ禍において、自宅療養者に対し食料品等の支援を行ってきた東京都ですが、5月8日より厚生労働省による新たな方針が示され、これらの支援を終了することとなりました。

そこで東京都が確保していた食料品等について、「食品ロスを減らす」というSDGsの観点からも、本学が物資を受け入れ、学生の皆さんにご協力をいただきながら、社会貢献に繋げられればと考えます。賞味期限の近い食料品があることから、急速下記の日程で臨時開催として配布会を行います。

- ・ 日程 **5月12日(金) 17:00~**
無くなり次第終了となります。
- ・ 配布場所 井上円了ホール
- ・ 申し込み 不要

※寄附食料品が無くなり次第終了します。
※エコバックなどを必ず持参してください。
※開始時間は前後する場合があります。
※次回は5月18日を予定しております。



↓ 配布物の一例



ボランティア募集!

仕分・配布のボランティアを募集しています。
仕分け実施日時: 5月15・16・17日 9:30~18:00まで会場開室(出入り自由)
興味のある方はガクチカサプリよりお申込みください。
ガクチカサプリ: https://www.ace.toyo.ac.jp/c/c/course_2060059_news_5002761

お問合せ先(ボランティア支援室) mlvolup@toyo.jp / 03-3945-7927



Presented by 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

東洋大学ボランティアカフェ

「新しいことに挑戦する新学期に！」

～世界ひろがる！仲間みつかる！ボランティアのススメ～

2023年5月16日(火) 12:30-14:30

東洋大学白山キャンパス 雨水会館1階

および オンライン開催(ZOOM)

ボランティアカフェ(ボラカフェ)は、お茶やお菓子を片手に、気楽な気持ちでボランティアのことや、地域・まちづくりの話などが聞ける交流型トークセッションです。普段の授業では出会えないような、人や世界との出会いがあるかも??



申し込みは
コチラ!

お問い合せ: 東洋大学ボランティア支援室
(東洋大学白山キャンパス 雨水会館1階)

TEL: 03-3945-7927 / e-mail: mlvolup@toyo.jp
URL: <https://www.toyo.ac.jp>

東洋大生がワークショップで考えるSDGs

「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」

5月20日(土) 10:00~12:00
オンライン開催

- 申込方法: Googleフォーム (<https://forms.gle/83u96GUegQRaGHB66>)
- 申込期限: 5月14日(日)まで
- 募集人数: 20名ほど(お申し込み多数の場合は抽選)
- お問い合せ: 東洋大学ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927 / e-mail: mlvolup@toyo.jp

SDGs初心者から
上級者までお楽し
みいただける!



●ファシリテーター:

認定NPO法人開発教育協会(DEAR) 伊藤 容子 氏

大学卒業後、英国のセカンドスクールや横浜市の中学校教員として勤務の後、英国の大学院にて教育学を学ぶ。帰国後は、中間支援NPOでの勤務を経て、2016年2月より開発教育協会勤務。教材の開発やワークショップの実施、地域での開発教育推進のための事業に携わっている。



SDGs(持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。SDGsは私たちの生活とどのようにかかわっているのか、そして私たちは日常生活の中でどのような行動をしたら、SDGsの達成につながるのかを一緒に学んで、考えて、話し合ってみましょう!



ボランティア入門講座 IN 赤羽台

ボランティアについて、参加者同士交流しつつクイズを交えながら
楽しく学ぶオンラインセミナーです。
ボランティアが「何かちょっと気になっている」というくらいの感覚で
参加していただいても構いません。気軽な気持ちで参加してみてくださいね。

講師紹介



日比野 勲
(Hibino Isao)

ボランティアコーディネーター
(東洋大学ボランティア支援室、多摩大学
学生社会ボランティアコーディネーター)
東京工科大学 非常勤講師
八王子市市民活動支援センター広報統
「SUPPORT802」 編集部



永瀬 広大
(Nagase Kodai)

東洋大学 社会学部社会学福祉学科3年
バリアフリーサークル歩み代表
東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ



福永 そら
(Fukunaga Sora)

東洋大学 社会学部社会学福祉学科3年
東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ
一般社団法人福祉Xbox

日時: 2023年5月30日(火) 14:45-16:15

※終了後、参加者間の交流を目的に、自由参加の交流会を実施予定です。

会場: 東洋大学ボランティア支援室赤羽台分室(WELLB HUB2 5F)、オンライン

参加申込: 下のQRコードより、申し込みフォームに必要事項をご記入ください。



お問合せ先: 東洋大学エクスチェンション課
03-3945-7927 mlvolup@toyo.jp
〒113-0021 東京都文京区本郷1-10-2雨水会館1階

富士樹海 清掃ボランティア

日本一の高さを誇る富士山。2013年に世界文化遺産に登録されました。しかし、富士山周辺への不法投棄は後を絶たず、ゴミは増え続け、人の手によって美しさを失いつつあります。2023年5月、あなたも富士山を守る活動へと参加してみませんか？

開催日時: 5/28(日) 13:00～
申込期間: 4/5(水)～4/21(金)
参加対象: 学部生 募集定員: 50名
参加費: 無料 ※申込者多数の場合は抽選となる場合があります。
事前説明会: 5/10(水) 18:00～(オンライン開催)
申込フォームURL: <https://forms.gle/VuGri9sTXvYtF5gS6>

集合・出発地を選択できます！
 (集合: 7時45分 大宮駅発)
 (集合: 8時30分 川越駅発)
 (集合: 8時45分 白山キャンパス発)
 ※申込状況によって、出発地を減らす場合があります。

＜スケジュール＞ 予定
 8:00 大宮駅出発
 8:30 川越駅出発
 9:00 白山キャンパス出発
 10:30 昼食(飯倉坂サービスエリア)
 12:00 天然記念物「噴沢水穴」の観光
 13:00～15:30 富士樹海到着 / 清掃活動
 19:00 白山キャンパス到着・川越駅到着
 19:30 大宮駅到着
 (気象状況により前後する可能性があります。)

◆企画者 SDGs アンバサダー
 ◆協力者 東京大学学生ボランティア支援室 東洋大学学生ボランティア支援室 東洋大学学生ボランティア支援室 東洋大学学生ボランティア支援室

天然記念物「噴沢水穴」

東京都 京北中学・高等学校 地域連携ステーション フミコムからの寄附食料品配布会

前回の東京都からの支援に続き、「京北中学・高等学校」「フミコム」より物資の提供がありました。「食品ロスを減らす」というSDGsの観点から、本学が物資を受け入れ、学生の皆さんに配布することで、社会貢献に繋がればと考えます。

・配布日 6月1日(木)・2(金)・5(月)・7(水)
・配布時刻 AM (9:30～12:45) PM (14:00～17:00)
・配布場所 社会貢献センター (雨水会館1階)
・申し込み 下記のQRコードより申し込んでください。
・配布数 先着60名
 ※配布日・配布時間は申込時に選択できます。
 ※エコバッグなどを必ず持参してください。

↓配布物の一例

申し込みはこちらから

お問合せ先 (ボランティア支援室) mlvolsup@toyo.jp / 03-3945-7927

ボランティア入門講座 IN 白山

ボランティアについて、参加者同士交流しつつクイズを交えながら楽しく学ぶオンラインセミナーです。ボランティアが「何かちょっと気になってる」というくらいの感覚で参加していただいて構いません。気軽な気持ちで参加してみてくださいね。

講師紹介



日比野 勲
(Hibino Isao)
ボランティアコーディネーター
(東洋大学ボランティア支援室、多摩大学学生社会ボランティアコーディネーター)
東京エスエス大学非常勤講師
八王子市市民活動支援センター広報紙「SUPPORT802」編集者



瀬野 晴仁
(Seno Haruto)
東洋大学経済学部4年(休学中)
一般社団法人ユラボ 学生インテラン
東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ



亀山 ゆうあ
(Kameyama Yua)
東洋大学国際学部4年
東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

日時: 2023年6月5日(月) 10:45-12:15
 ※終了後、参加者間の交流を目的に、自由参加の交流会を実施予定です。
会場: 東洋大学白山キャンパス 雨水会館301教室、オンライン
参加申込: 下のQRコードより、申し込みフォームに必要事項をご記入ください。

お問合せ先: 東洋大学エクステンション課
 03-3945-7927 mlvolsup@toyo.jp
 〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階

ボランティア支援室赤羽台分室 オープニングイベント ～福祉人生すごろくゲームin赤羽台キャンパス～

福祉を遊ぶと
誰かに優しくしたくなる

2023年6月3日(土) 10:00～12:00
東洋大学赤羽台キャンパス
WELL-B HUB2 5F

ふくろく ～福祉人生すごろく～

遊ぶうちに福祉がちょっとだけ身近になるカードゲーム

▶生活のなかにある身近な福祉について知りたいあなたへ
 ▶他人の生き方や価値観について関心があるあなたへ
 ▶福祉の心と行動力を身に付けたいあなたへ

申し込み



Presented by 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

東洋大学ボランティアカフェ そこに「ふくし」はあるのか？

～ふくしをみんなで考えよう！～

2023年6月3日(土) 13:00～15:00
東洋大学赤羽台キャンパス ボランティア支援室
および オンライン開催 (ZOOM)

ボランティアカフェ (ボラカフェ) は、お茶やお菓子を片手に、気楽な気持ちでボランティアのことや、地域・まちづくりの話などが聞ける交流型トークセッションです。普段の授業では出会えないような、人や世界との出会いがあるかも？



お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
(東洋大学赤羽台キャンパス 南校舎1階)

TEL: 03-3945-7937 e-mail: mlvol@toyo.jp
URL: <https://www.toyo.ac.jp>

あじさい祭り

ボランティアスタッフ募集！

白山キャンパス隣にある「白山神社」にて、下記の日程で「あじさい祭り」が開かれます。
コロナ制限明けでのお祭りであり、多くの来場者を予想しており、実行委員会よりボランティアの募集がありました。
近隣にお住いの実行委員及び来場者皆さんとお話ができるイベントです。
多くの皆さんの申込をお待ちしております。

会場：白山神社 (白山キャンパス 4 号館裏)
日時：2023 年 6 月
10 日(土) 10:00～16:30 (ボランティア活動時間 8:00～17:00)
11 日(日) 10:00～16:00 (ボランティア活動時間 9:00～17:00)
17 日(土) 10:00～16:30 (ボランティア活動時間 8:00～17:00)
18 日(日) 10:00～15:30 (ボランティア活動時間 9:00～17:00)
ボランティアができる日を申込フォームで選んでください。
募集人数：各日 10 名程度 ★応募者多数の場合は抽選です
募集対象：ボランティアに興味・関心のある学生
事前説明会：6 月 8 日(木) 昼休み 12:20～12:50 (ハイフレックス)
※参加必須 (都合が悪い方はオンデマンドで受講してもらいます)
申込締切：6 月 1 日 (木) まで
申込方法：下記 URL (google form) または QR コードより申込みください。
<https://docs.google.com/forms/d/18ARZFHuPw0BQUL4Kj0Hwz6G1NolAwCaZ4Dbsqgk/edit>



公開
講演会

トランスジェンダー から見える“世界”と“共生”

当事者が語る、率直な思い



勝又 栄政 氏

トランスジェンダー 男性/性別違和
東洋大学 文学部日本文学文化学科卒業
宮城教育大学 非常勤講師
立命館大学大学院 一貫制博士課程

私は、生まれた時の性別は女性、性自認は男性寄りで生まれました。幼少期は、身体の変化に戸惑いと、周囲の価値観と自分の気持ちのズレの間 (はざま) で生きづらさを感じていましたが、ある転機により、「自分にとって必要な生き方」を選択するきっかけに出逢えました。

LGBTQ基礎知識

当事者体験談

多様性を認め合う社会とは？

社会学部・国際社会学科「社会文化システム概論B / ダイバーシティ概論」の授業の中で
行います。担当：井沢泰樹 教授

お申し込みは以下QRよりお願いいたします



お申し込み期限：6/7 (水)
受講方法：対面かWebのどちらかを選択可能
Web受講の方は後日配信アドレスをメールでお送りします
東洋大学エクステンション課 ☎03-3945-7636 ✉mltext@toyo.jp
<https://docs.google.com/forms/d/19yohnhjor3FR08MFGWb0xmU7UjUjdsDR7bUj5ORnTDds/edit>

6/9
金

3限13:00～14:30
白山6101教室

東京都および京北中学・高等学校 地域連携ステーション フミコムからの寄附食料品配布会

前回の東京都からの支援に続き、「京北中学・高等学校」「フミコム」より物資の提供がありました。「食品ロスを減らす」というSDGsの観点から、本学が物資を受け入れ、学生の皆さんに配布することで、社会貢献に繋がらねばと考えます。食料品の受け取りをご希望の方は、下記のグループフォームよりお申込みください。

- ・配布日 6月15日(木)・16(金)・19(月)・20(火)
- ・配布時刻 AM (9:30～12:45)
PM (14:00～17:00)
- ・配布場所 社会貢献センター (雨水会館1階)
- ・申し込み 下記のQRコードより申込ください。
- ・配布数 先着80名

※配布日・配布時間は申込時に選択できます。
※エコバッグなどを必ず持参してください。

配布物の一例→



申し込みはこちらから



お問合せ先 (ボランティア支援室) mlvol@toyo.jp / 03-3945-7927

公開
講演会

当事者が語る、 ソーシャルワークへの期待

トランスジェンダーから見る“世界”と“共生”



勝又 栄政 氏

トランスジェンダー 男性/性別違和
東洋大学 文学部日本文学文化学科卒業
宮城教育大学 非常勤講師
立命館大学大学院 一貫制博士課程



6/13
火

4限14:45～16:15

赤羽台キャンパス実施
(WELLB HUB-2)
20502教室

私は、生まれた時の性別は女性、性自認は男性寄りで生まれました。幼少期は、身体の変化に戸惑いと、周囲の価値観と自分との気持ちのズレの間（はざま）で生きづらさを抱えていましたが、ある転機により、「自分にとって必要な生き方」を選択するきっかけに出逢えました。

LGBTQ基礎知識

当事者体験談

多様性を認め合う社会とは？

社会学部・社会福祉学科「ソーシャルワークの基礎と専門職A／社会福祉の基礎／ソーシャルワークの基礎と専門職I」の授業の中で行います。担当：高山直樹 教授
※6/9の公開講演会「トランスジェンダーから見る“世界”と“共生”」とは異なる内容となります

お申し込みは以下QRよりお願いいたします



お申し込み期限：6/9（金） 対面受講は先着20名
受講方法：対面かWebのどちらかを選択可能
Web受講の方には後日配信アドレスをメールでお送りします
東洋大学エクステンション課 ☎03-3945-7636 ✉mlext@toyo.jp

<https://docs.google.com/forms/d/15A1ATTf1ADihTjy3y2ef0w8g9XhdmrLFqkEpnX9E/edit>



特別講演

ウクライナの子どもたちは今

～ウクライナ侵攻から1年以上が経過したルーマニアの支援現場からの報告～

2023年6月22日（木） 10:40～12:10

講師：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
プログラム部 シニアプログラムオフィサー



山形 文 氏

大学卒業後、一般企業勤務を経てプラン・インターナショナル・ジャパンに入局。日本国内、アジア、アフリカ、中南米の活動国で地域開発、緊急人道支援事業に従事。2022年5月からウクライナ避難民支援に従事、現在はルーマニアで避難民の子どもの保護事業を担当。
(コーディネーター 福祉社会デザイン学部社会福祉学科 小野 道子 准教授)

会場：教室（6317）およびWebex 配信

視聴URLは講演前日までに登録メールへお知らせします

申込：事前申し込み制

以下のアドレスまたは右のQRコードより申込をしてください
<https://forms.gle/gjN5VTPVCMXaefS8>

※「児童福祉論A・児童・家庭福祉（白山）」履修者は申込不要です。
担当教員の指示に従ってください。

対象：全学部生・大学院生・教職員

※この講演を視聴し、感想・アンケートに回答しますと、TGポイントが付与されます。また、当日ご参加できない皆様に向けて、後日動画を期間限定で公開する予定です。詳細が決まりましたら、お知らせいたします。



Peace And Love



For Ukraine

主催：東洋大学社会貢献センター (mlext@toyo.jp)

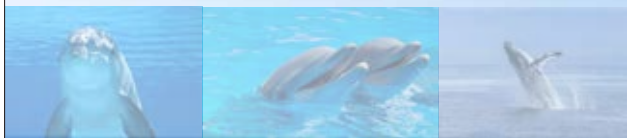


海でくらすイルカ・クジラといった生きものたち・・・
海がキレイだと、私たちも、生きものたちもハッピーになれる！

Toyo 1day ボランティアプログラム
多摩大学ボランティア体験プログラム

ビーチクリーンアップ in Yuigahama Beach

～SDGs 14「海の豊かさを守ろう」～



- ・実施日時：2023年6月25日（日）10:00～12:00
- ・場所：由比ガ浜海岸（由比ガ浜海水浴場開場100年碑付近）
- ・集合場所：9:30に江ノ島電鉄（江ノ電）由比ヶ浜駅改札口集合、または9:45に由比ガ浜海水浴場開場100年碑付近集合
- ※遅れる場合や場所がわからない場合は、080-2050-9742（日比野）までご連絡ください。
- ・参加の方法：このチラシの右下にあるQRコードを読み取って、申し込みフォームに記入してください。

- ・服装および持ち物：動きやすい服装、歩きやすい靴（サンダル不可）、飲み物、帽子
※海岸には水がけられる場所がないため、各自熱中症対策に留意をお願いします。
- ・天候について：小雨決行（雨具の用意をお願いします）、荒天中止
※中止の場合、当日朝7時までに、申し込み時に入力いただいたメールにご連絡します。
その他、当日までにメールで案内が届くことがありますので、メールをなるべくこまめに確認いただくよう、お願いします。

【お問い合わせ先】

東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課 社会貢献センター内）
(e-mail) mlvolup@toyo.jp (TEL) 03-3945-7297
多摩大学学生社会ボランティアコーナー（多摩大学経営学連携センター事務課）
(e-mail) tcolla-jm@gr.tama.ac.jp (TEL) 042-337-7583
主催：東洋大学ボランティア支援室、多摩大学学生社会ボランティアコーナー
協力：I.C.E.R.C Japan（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）
企画運営：東洋大学SDGsアンバサダー、多摩大学学生会



東京都および京北中学・高等学校 地域連携ステーション フミコムからの寄附食料品配布会

前回の東京都からの支援に続き、「京北中学・高等学校」「フミコム」より物資の提供がありました。「食品ロスを減らす」というSDGsの観点から、本学が物資を受け入れ、学生の皆さんに配布することで、社会貢献に繋がらればと考えます。事前の申し込みは不要です。食品を入れる袋をご持参のうえ直接お越しください。

第1回

配布日：6月28日(水)
配布場所：1号館 1階エレベーターホール前
配布時刻：(12:10～13:00)

第2回

配布日：6月30日(金)
配布場所：6号館 学生部前
配布時刻：(12:10～13:00)

配布食品：HARIBO(グミ)

水(2L)・パックご飯など



※エコバッグなどを必ず持参してください。
※HARIBO(グミ)は1人3個までとさせていただきます。
※パックご飯などの食品は少量の配布となります。
※無くなり次第終了となります。



お問合せ先（ボランティア支援室） mlvolup@toyo.jp / 03-3945-7927



地域連携ステーション フミコムからの寄附食料品配布会

「地域連携ステーションフミコム」より本学に「HARIBO（グミ）」を寄附していただきました。

パッケージの一部にテープが付着していたり、欠損している等の理由により、市場では販売できない商品を、東洋大学が寄附として受けました。中身の品質は全く問題がないものになりますのでご安心ください。

「食品ロスを減らす」というSDGsの観点から、本学が物資を受け入れ、学生の皆さんに配布することで、社会貢献に繋がればと考えます。

事前の申込みは不要です。食品を入れる袋をご持参のうえ直接お越しください。

配布場所：赤羽台キャンパス WELLB HUB-2
5F ボランティア支援室 分室
配布日：6月30日(金)・7月4日(火)・7日(金)
配布時刻：(12:10~13:00)
配布食品：HARIBO(グミ)

※エコバッグなどを必ず持参してください。
※HARIBO（グミ）は1人3個までとさせていただきます。
※無くなり次第終了となります。



お問合せ先（ボランティア支援室） mlvolsup@toyo.jp / 03-3945-7927

赤羽台 団地まつり

ボランティアスタッフ募集

7/29
16:00
21:00

7/30
12:00
20:00

地域のお祭りの成功に向けて
楽しみながらボランティアしませんか？

SDGs + ECZ = SDGs Zone

気軽にSDGsについておしゃべりしよう！
東洋大学で私たちができることって何だろう？

2015年に国連サミットにおいて採択された
17の「持続可能な開発目標」について気軽におしゃべりしませんか。
もちろん聞いているだけでもOK！

7月6日(木)（英語デー）
7月13日(木)（日本語デー）
12:15 - 13:30（出入り自由）
白山キャンパス 8号館 1階
ECZスペースにて

Smile F LAOS

「おいしい」を支援に！

SDGsアンバサダー団体

7/11 TUE 18:00-18:00

menu

深煎り/中煎り

100g/200g

700yen/1000yen

白山キャンパス
6号館 1階 学生部前

<https://x.gd/oNWyj>

**夏休み！
中学生のための宿題サポート
ボランティア**

7/31 ①9:00～12:00 ②13:00～16:00
8/1 ③9:00～12:00 ④13:00～16:00

飯能市内の中学生を対象にした学習サポートボランティアです。子供支援に興味のある方、ぜひご参加ください。

募集対象 中学校レベルの勉強を教えられる方
募集人数 各時間2名 1日4名募集
複数回申し込んで構いませんが、申込者多数の場合は抽選となります。
活動場所 埼玉県飯能市 子育て総合センター
申込方法 右記のQRコードまたは、URLから申込。7/2(日)まで
<https://forms.gle/CsRM5W6cf5wDsR39>

交通アクセス【飯能駅】
・西武池袋線「飯能駅」北口から徒歩20分
・西武池袋線「飯能駅」北口から国際興業バス8分(徒歩の時間を含む)
「埼玉医大」行、「埼玉医大国際医療センター」行、「こま蔵台ニュータウン循環」行のいずれかに乗車
バス停「天覧山入口」で下車後、徒歩3分
「西武飯能日高」行に乗車 バス停「OH!!!・天覧山下」で下車後、徒歩4分

お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927 ※MAIL：mlvolsup@toyo.jp

東洋大学学生課外活動育成会企画

プログラム参加費 ※
無料

ワークキャンプ プログラム

豊かな自然の中で 地域とのかかわる 旅 に出ませんか？

田人コース / 福島県いわき市
掛川コース / 静岡県掛川市

主催 東洋大学ボランティア支援室

**富士樹海
清掃ボランティア(夏)**

日本一の高さを誇る富士山。2013年に世界文化遺産に登録されました。しかし、富士山周辺の不法投棄は後を絶たず、ゴミは増え続け、人の手によって美しさを失いつつあります。2023年9月、あなたも富士山を守る活動へと参加してみませんか？

開催日時：9/4(月)13:00～
申込期間：7/7(金)～7/14(金)
参加対象：学部生 募集定員：50名
参加費：無料
事前説明会：8/1(火) 18:00～(オンライン開催)
申込フォームURL <https://forms.gle/dG6qenyTSvQ2QAf6A>

＜スケジュール＞ 予定
8:30 大宮ソニックシティ前出発
9:00 白山キャンパス出発
10:30 昼食(飯能サービスエリア)
12:00 天然記念物「噴沢氷穴」の観光
13:00～15:30 富士樹海到着 / 清掃活動
19:00 白山キャンパス到着
19:30 大宮ソニックシティ到着
(交通状況により前後する可能性があります。)

天然記念物「噴沢氷穴」

**サイボウズ(株)
CSRスタディーツアー**

社員の方との意見交換を通じ、企業が取り組む社会貢献活動を学びませんか？

9/6(水)

サイボウズ株ってどんな会社？

チームワークを支援するグループウェアを開発・販売する会社として、1997年に創業。現在、kintone、サイボウズOffice、Garoon、メールワイズの4製品を主に提供しています。

＜社会課題への取組＞

- ・社会人・学生を対象にした「チームワークを教える活動」
- ・災害対策のIT化支援
- ・kintone導入による児童虐待防止策など

開催日程 9月6日(水) 13:30～15:30
場 所 サイボウズ株式会社
※詳細は参加者確定後に連絡します。
申し込み QRコードからお申込みください。
8月16日(水) まで
募集定員 30名 ※申込者多数の場合抽選となります。

お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

9/13
(水)

NECネットエスアイ(株) CSRスタディツアー

～ドラマ『半沢直樹』ロケ地の働き方改革最前線とSDGs～

NECってどんな会社？

多くの方は、パソコンメーカーの会社だと思われるかもしれませんが、セキュリティ関連事業や、ネットワーク関連、AIロボット技術の関与と、幅広く事業展開されています。また社会貢献の分野では、「地球にやさしい事業活動」に取り組んでおり、顧客に対し、環境を配慮した製品・サービスを提供することで持続可能な社会の実現を目指しています。

事例) 2030年までに2019年比で5.5%のCO2削減。2050年までに排出量ゼロに。IT・NWを活用した、生物多様性に関する事業の「見える化」や、「予防」、「再生・回復」に繋がるソリューションを提供する。など

募集対象 ボランティアや社会貢献に興味・関心のある学生

募集人数 20名 (応募者多数の場合は抽選します。)

活動日時 9月13日(水) 10:00～12:00
場所 日本橋三井室町タワー

※ 集合場所などの詳細は後日メールにて連絡します。

申込方法 QRコードまたは、
URLから申込。9/4(月)まで



<https://forms.gle/DoFAw4483hYLTzC7>
お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927
MAIL：mlvolup@toyo.jp



THE GLOBAL GOALS



海外にも気軽に
行けるようになった
今だからこそ
せっけに！

TOYO オンラインボランティアプログラム2023

フィリピンの若者をつくる SDGsアクション！



▲申し込みフォーム
(締切：9/30 (土))

- ・DAY1：10月14日(土) 10:00-12:00
オリエンテーション (日本人のみ)
- ・DAY2：10月17日(火) 18:30-20:30
ディスカッション (ごみ・環境問題)
- ・DAY3：10月24日(火) 18:30-20:30
ディスカッション (教育)
- ・DAY4：11月7日(火) 18:30-20:30
動画によるアクションプラン発表

**参加費無料、英語力不問
先着30名限定!!**

主催・お問い合わせ先：東洋大学ボランティア支援室
(TEL) 03-3945-7927 (e-mail) mlvolup@toyo.jp
協力：特定非営利活動法人 LOOB JAPAN
東洋大学国際ボランティアサークル ISR-Salamat
東洋大学ボランティアサークル ISR-ConnAction



様々な事情があって里親家庭で暮らしている子どもたちがいます。
里親家庭で暮らす子どもたちと一緒に、公園でレクリエーションや
外遊びをしませんか？

日時	2023年10月28日(土) 10時～16時 小雨決行
場所	千葉県ふなばし三番瀬海浜公園 (千葉県船橋市潮見町40番)
集合場所	東洋大学 赤羽台キャンパス 白山キャンパス (人親によって調整あり) バスで現地まで行きます。
集合時間	7時40分
参加費	無料 昼食もご用意いたします。
参加者	千葉県里親会の会員と関係者、東洋大学社会学部 社会福祉学科小野ゼミの学生3・4年生、その他本学学生
申し込み	ポスター2枚目のQRコードよりお申し込みください。
締め切り	10月4日(水)
定員	学部学生 約40名 (定員を超過した場合、選考あり)

この活動は子ども福祉を学んでいる学生達を中心に10年余り
続けられてきたものです。2018年度より育成会の支援を得て、
一般学生も参加が可能となりました。ただし、参加を希望する一
般学生には、里親がおかれている状況を理解するための**事前
学習を必ず受講いただきます。**
事前学習会に関しては、ポスター2枚目をご参照ください。

東洋大学 SDGs Weeks 2023

教育学演習ⅡB・ⅢB／教育学卒論演習B 公開講座

アフガニスタンにおける教育の現状と課題 ～初等中等教育制度及び障害児教育を中心に～

アフガニスタンの子どもはどこで学び、アフガニスタンではどのような教育システ
ムが構築されているのでしょうか。本公開講座では、アフガニスタンで医師、そして
JICAや国際NGOで活躍されたMohammad Idrees Naeemy氏を講師にお招
きし、アフガニスタンの教育について、とくに初等中等教育の制度や障害のある子
どもの教育を中心にお話いただきます。

本学学生であれば特別にどなたでもご参加いただけます。是非ご応募ください。

日時：10月31日(火)5限 16:30～18:00

講師：Mohammad Idrees Naeemy 様

(筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
障害科学学位プログラム 博士後期課程2年次)



ご略歴
2014年 シャイフ・ザイード大学(アフガニスタン)MD学位取得
アル・ハヤト総合病院(アフガニスタン)で医師として約1年勤務
2015年2月～2017年4月 JICAプロジェクト(アフガニスタン)教師教育に
おける特殊教育強化プロジェクト・フェーズ2 Project Officer
2017年5月～2019年3月 国際NGO Humanity & Inclusion との協同
プロジェクト TIQRA(アフガニスタン) Senior Project Officer
2022年3月 筑波大学大学院人間総合科学研究科障害科学専攻
修士課程修了

担当教員：高野聡子(代表)、緒方登士雄、長谷川勝久、大江啓賢、堀本麻由子

参加方法：対面形式(教室調整中)

事前申込制：以下のGoogleFormsから申込

<https://forms.gle/ChKyYiU3m1hjWHbi8>

申込締切：10月25日

※使用言語日本語



お問い合わせ先
東洋大学 ボランティア支援室
TEL 03-3945-7927
MAIL mlvolup@toyo.jp





bonbonfesta akabanedai

ボランティアスタッフ募集

11/5
11:00
17:00



赤羽台 開催のイベント成功に向けて
お手伝いしませんか？

ボランティア支援室

おにぎりアクション 2023 in東洋

おにぎりを持って生協脇に集合！



2023.11.7(火)～10(金)

📍 白山キャンパス4号館生協店舗脇 各日とも12:00～14:00

おにぎりで貧困問題を解決!?

#OnigiriActionで、おにぎりの写真をSNSに投稿すると給食5食分が世界の子どもたちに届けられます。白山キャンパスでは上記の日程でSNS投稿用のフォトスポットが設置されます。ぜひ皆さんで楽しみながら世界の貧困問題を考えるきっかけにしましょう！

企画：SDGsアンバサダー
東洋大学ボランティア支援室

お問合せ：ボランティア支援室
(mlvolsup@toyo.jp)



おにぎりアクション 2023 in東洋

おにぎりを持ってセブンに集合！



2023.11.7(火)～10(金)

赤羽台キャンパス 12:20～12:50
📍 HELSPO HUB-3 1階セブンイレブン入り口
WELLB HUB-2 5階ボランティア支援室(分室) ※7日、10日のみ

おにぎりで貧困問題を解決!?

#OnigiriActionで、おにぎりの写真をSNSに投稿すると給食5食分が世界の子どもたちに届けられます。赤羽台キャンパスでは上記の日程でSNS投稿用のフォトスポットが設置されます。ぜひ皆さんで楽しみながら世界の貧困問題を考えるきっかけにしましょう！

企画：SDGsアンバサダー
東洋大学ボランティア支援室

お問合せ：ボランティア支援室
(mlvolsup@toyo.jp)



おにぎりアクション 2023 in東洋

おにぎりを持って学生ホールに集合！



2023.11.7(火)～10(金)

📍 川越キャンパス学生ホール・食堂棟2階 11:00～14:30

おにぎりで貧困問題を解決!?

#OnigiriActionで、おにぎりの写真をSNSに投稿すると給食5食分が世界の子どもたちに届けられます。川越キャンパスでは上記の日程でSNS投稿用のフォトスポットが設置されます。同時に貧困問題について考えるワークを開催予定です。ぜひ皆さんで楽しみながら世界の貧困問題を考えるきっかけにしましょう！

企画：SDGsアンバサダー
東洋大学ボランティア支援室

お問合せ：ボランティア支援室
(mlvolsup@toyo.jp)



おにぎりアクション 2023 in 東洋

おにぎりを持って学食に集合！



2023.11.7(火)～10(金)

📍 板倉キャンパス2号館学食、ヤマザキストア 11:30～13:30

おにぎりで貧困問題を解決!!

#OnigiriActionで、おにぎりの写真をSNSに投稿すると給食5食分が世界の子どもたちに届けられます。白山キャンパスでは上記の日程でSNS投稿用のフォトスポットが設置されます。同時に貧困問題について考えるワークを開催予定です。ぜひ皆さんで楽しみながら世界の貧困問題を考えるきっかけにしましょう！

企画：SDGsアンバサダー
東洋大学ボランティア支援室

お問合せ：ボランティア支援室
(mlvolsup@toyo.jp)



赤羽台×衣類=世界へ

11/4(土) 11/5(日)

衣類回収で持続可能な社会と一緒に作ろう
着なくなった服を難民の方々にプレゼントしよう

場所 東洋大学赤羽台キャンパス WELLS HUB-2 2階20208教室
開催時間 午前10時～午後6時

ユニクロ

衣類回収します

先着100名 ご協力いただいた方に
ハリボー(グミ)をプレゼント！

パッケージが欠損している等の理由により、市場では販売できない商品をフミコムから寄付いただきました

STEP 1 ユニクロ・ジーユーの衣類回収

赤羽台キャンパス内で衣類※を回収します。是非ご不要になった衣類をお持ちください。
SDGsアンバサダーは、ユニクロ・ジーユーの「不要になった服を難民・国内避難民へ寄贈する」取り組みに共感し、集めた衣類をユニクロ・ジーユーへ受け渡します。

※ユニクロ・ジーユーの商品

STEP 2 難民・国内避難民へ寄贈

ユニクロ・ジーユーのもとで、皆様から集めた衣類を難民・国内避難民へ寄贈します。

キズ、汚れが目立たないもの
修理せずに使えるもの

ユニクロ・ジーユー以外の商品
バッグ・靴 下着

第7回赤羽台祭

企画・運営 東洋大学SDGsアンバサダー



文京の産業・食・逸品・伝統工芸をまるごと体験!!

文京博覧会2023 ぶんぱく2023

日時 2023 11/24(金)・25(土) 会場 文京シビックセンター
●1 階：ギャラリーシビック/アートサロン
●地下2階：区民ひろば

入場無料



ホームページ＆Fbをチェックしてね! 公式HP



東洋大学 SDGs Weeks 2023



CSR論 公開講義 企業と人権

企業活動の発展は社会全体の発展が前提である、という考えから、社会全体への責任として、CSR（企業の社会的責任）の適切な実施が求められています。

森林伐採や化学物質流出などによる汚染、児童労働や劣悪な労働環境、ダイバーシティ（多様性）推進の阻害となる無意識の偏見による人権侵害の発生、外国人技能実習生制度の構造的な人権侵害、広告による人権侵害など、企業活動がさまざまな人権に影響を与えているなか、企業はどのようにその責任を担うべきなのでしょうか。

近年では2015年9月の国連サミットで採択された国際目標としてのSDGs（持続可能な開発目標）を取り込む動きもあるなか、本講義では多くの企業のCSR実務に取り組まれている秋山講師に講演をお願いします。ぜひご参加ください。

日時：11月7日(火) 1限 9:00～10:30

講師：秋山 映美氏（株式会社クレアン）

担当：総合情報学部 総合情報学科 小瀬 博之 教授

参加方法：川越キャンパス教室にお集まりいただき、オンラインで講師に講義いただきます。Webexにて参加も可能です。

事前申込制：以下のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント前日までに当日の参加URLをお送り致します

<https://forms.gle/KLznjbWYfnXVxy7QA>

申込締切：11月1日



お問い合わせ先
東洋大学 ボランティア支援室
☎03-3945-7927
✉mlvolsup@toyo.jp



東洋大学 SDGs Weeks 2023



公開講義 国際社会プロジェクト演習Ⅰ/ⅡB

「もう始まっている多民族・多文化共生社会
まっとうな受入れ制度を労働者を労働者として」

日本において外国籍住民が増加するなか、どのように外国人労働者を日本社会で受け入れていくのか、そしてそのために市民ができることを考える。

日本において在留外国人はますます増加し、2023年6月時点で320万人を超えた。その一方で、外国人受け入れにあたっては技能実習制度や入管収容施設などをめぐってさまざまな問題が生じている。そこで本講演では、長年にわたって外国人労働者の支援を行い、2013年にはアメリカ国務省から「人身売買と闘うヒーロー」として表彰された島井一平さん（移住者と連帯する全国ネットワーク・共同代表理事）をお招きし、日本の労働者受け入れ制度の問題や多民族・多文化共生社会を作っていくための条件などについて、1990年代から行ってきた活動を振り返りながらご講演いただく。

日時：11月22日(水) 2限 10:40～12:10



講師：島井一平氏（NPO移住者と連帯するネットワーク・共同代表理事）
NPO移住者と連帯するネットワーク共同代表理事 外国人技能実習生権利ネットワーク運営委員 全統一労働組合特別執行委員 JNATP（人身売買禁止全国ネットワーク）共同代表 中小労組政策ネットワーク事務局長 自主生産ネットワーク代表 1990年以來外国人労働者の権利支援活動に携わる。1993年「外国人春闘」を組織化。社会的に「外国人労働者問題」を認知させる。2005年、外国人技能実習生が時給300円で働かされている実態を告発し、技能実習生支援活動を本格化。「現代の奴隷制」と批判される外国人技能実習制度の問題を追及してきた活動と永年にわたる外国人労働者支援が認められ、アメリカ国務省から2013年の「Trafficking in Persons Report Heroes（人身売買と闘うヒーロー）」に選ばれた。2019年、NHK『プロフェッショナル』で活動が紹介される。著書『国家と移民』（集英社新書）

担当：社会学部 国際社会学科 村上 一基 准教授
社会学部 国際社会学科 高橋 典史 教授

参加方法：白山キャンパス教室にお集まりいただき、オンラインで講師に講義いただきます。Webexにて参加も可能です。
事前申込制：以下のGoogleFormsから参加申し込みしていただいた方へイベント前日までに当日の参加URLをお送り致します。
<https://forms.gle/kcUs8BsD2P36d4q26>
申込締切：11月16日

お問い合わせ先
東洋大学 ボランティア支援室
☎03-3945-7927
✉mlvolsup@toyo.jp



無料

もしもの備えに 2023

災害救援 ボランティア講座

11/25 ± 26日 2日連続開催
両日参加必須となります

セーフティリーダー(SL)認定証が
災害救援ボランティア推進委員会より交付されます

災害発生時に

学生ボランティア
リーダーとして
大学や地域との救援活動に協力しよう！

首都直下型地震は、今後30年以内に70%の以上の確率で発生するといわれています。また、近年は豪雨や台風などの風水被害もたびたび発生しており、災害への備えが急務となっています。そこで、東洋大学の学生が災害発生時に「学生ボランティアリーダー」として活躍できるよう、災害救援ボランティア講座を開講します。本講座では、2日間にわたり、災害時に救援ボランティアとして地域に貢献したい方を対象に、様々な実践的取り組みを通して地域防災について学びます。

災害時に何が起る？

自分にはなにができる？

行政が間に合わない...どうする？

大切な人と生き残りたい！

是非お申し込みください！

主催：東洋大学エクステンション課(社会貢献センター・ボランティア支援室)
お問い合わせ：mlvolsup@toyo.jp 03-3945-7927

参加費

一般15,000円 学生10,000円
のところ、すべての講座を受講した本学
学生に限り0円にて受講いただけます
(東洋大学助成による)

場所

東洋大学白山キャンパス(雨水会
館3F)および池袋防災館(11/26)

定員

30名
※一般の参加者とともにいきます

日時

11/25 9:00～17:00
11/26 9:20～17:00 予定

申し込み

以下URLよりお申込みください
<https://forms.gle/FEqCknpi6pW3KieU6>
※お申し込み多数の場合は選考を行います
締切 11/18(土)



2023
もしもの備えに

「初めて防災について学ぶ方」対象

災害救援 ボランティア講座

11/25 ± 26日 2日連続開催
両日参加必須となります

セーフティリーダー(SL)認定証が
災害救援ボランティア推進委員会より交付されます

災害発生時に

ボランティア
リーダーとして
大学や地域との救援活動に協力しよう！

首都直下型地震は、今後30年以内に70%の以上の確率で発生するといわれています。また、近年は豪雨や台風などの風水被害もたびたび発生しており、災害への備えが急務となっています。そこで、学生や地域の方が災害発生時に「ボランティアリーダー」として活躍できるよう、災害救援ボランティア講座を開講します。本講座では、2日間にわたり、災害時に救援ボランティアとして地域に貢献したい方を対象に、様々な実践的取り組みを通して地域防災について学びます。

災害時に何が起る？

自分にはなにができる？

行政が間に合わない...どうする？

大切な人と生き残りたい！

是非お申し込みください！

主催：東洋大学エクステンション課(社会貢献センター・ボランティア支援室)
後援：公益財団法人 文京アカデミー
お問い合わせ：mlvolsup@toyo.jp 03-3945-7927

参加費
一般15,000円 学生10,000円 ※東洋大学学生に限り助成金あり
場所
東洋大学白山キャンパス(雨水会館3F)および池袋防災館(11/26)
定員
30名 ※学生(本学学生含)・一般の参加者とともにいきます
日時
11/25 9:00～17:00 11/26 9:20～17:00 予定
申し込み

以下URL(東洋大学公開講座HP)よりお申込みください
<https://www.toyo.ac.jp/social-partnership/csc/kyozai/kyozai/>
※お申し込み多数の場合は選考を行います
締切 11/15日(水)



東洋大学 学生課外活動育成会 支援事業

あなたはなぜそのボランティアをはじめましたか？
なぜそのボランティアを続けていますか？

ボランティアやっただけ で終わらせないための 「対話のシカタ」

「自分」×「他者」×「社会」の関わりを、
ボランティア活動のふりかえりを通じて考える時間をつくります。

○ 日時・会場
白山：2023年11月27日(月) 17:00～20:00
2号館16階スカイホール
赤羽台：2023年11月28日(火) 13:10～16:10
WELLB HUB-2 5階 ボランティア支援室分室

- 参加費：無料
- 参加の方法：右のQRコードより、申し込みフォームにアクセスし、必要事項を記入してください。(先着順、定員に達し次第締切)
- 主催：東洋大学ボランティア支援室
- 運営：東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ
- 協力：full bloom (辻、大内田)



大学生活でボランティアしたいけど、
その後じっくり振り返りって
そもそもしたことがない...





公開講義 社会福祉学基礎演習Ⅱ

誰もが尊重され、すこやかに生きることができる社会とは
～LGBTQ+について学ぶ～

実施目的：LGBTQ+について学び、「誰もが尊重され、すこやかに生きることができる社会」に求められる改善すべき課題について考える。

講演内容（概要）：LGBTQ+の人びとを含む様々なマイノリティに属する人々は日本社会において様々な生きづらさを感じています。前田さんご自身の経験から、LGBTQ+の方々に共通する生きづらさや直面している社会課題について学びます。また、元文京区議として文京区のLGBTへの取り組みがいかに進んできたか、マイノリティの人びとの権利侵害を防ぐための取り組みなどについて具体的に学びます。

日時：11月28日(火) 5限 16:30～18:00



講師：前田 邦博氏 プライドハウス東京 理事・社会福祉士
担当：福祉社会デザイン学部 社会福祉学科 川原 恵子 准教授
参加方法：WEB方式
事前申込制：以下のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント前日までに当日の参加URLをお送りいたします。

<https://forms.gle/oN1234jD78DipvEv8>

申込締切：11月21日



お問い合わせ先
東洋大学 ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927
MAIL: mlvolsup@toyo.jp



生徒指導論 公開講義

子どもの貧困問題と学習支援教室が果たす役割

実施目的：学習支援教室に通う生活困窮者世帯の子どもたちの現状から見えてくる家庭・学校・地域社会の抱える課題を理解し、これからの学校や地域社会の果たすべき地域社会の果たすべき役割を考えることを目的としています。

講演内容（概要）：NPO法人さいたまユースサポートネットの学習支援事業統括をされている山本香苗氏より、学習支援教室に通う生活困窮世帯の子どもたちの実情・学校・地域社会の抱える課題、学習支援教室が果たしてきた役割についてご講演いただきます。教職課程履修学生をはじめ、地域で子どもに関わる活動に従事する学生、あるいは関心のある学生のみならず、ぜひご参加ください。

日時：11月28日(火) 5限 16:30～18:00

講師：山本 香苗氏（NPOさいたまユースサポートネット学習支援事業統括）

担当：福祉社会デザイン学部 子ども支援学科 内田 塔子 准教授

参加方法：対面方式 赤羽台キャンパス 20406教室

事前申込制：以下のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント前日までに当日の参加URLをお送り致します

<https://forms.gle/y27QuwnxM7zfz5U15>

申込締切：11月21日



お問い合わせ先
東洋大学 ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927
MAIL: mlvolsup@toyo.jp



100年前の大規模震災に学ぶ ～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～

ちょうど100年前、1923年9月1日に「関東大震災」が発生しました。関東大震災は、10万人の死者・行方不明者を出した、明治時代以降最悪の地震災害で、死者の8割ほどが火災による焼死とされています。住宅が密集するキャンパス周辺でも、大規模な火災をどのように備えるかは大きな課題となります。

こうした関東大震災クラスの地震は200年周期で発生すると言われていますが、その間にも100年周期でマグニチュード7以上の地震が首都圏で発生するとされています。これをいわゆる「首都直下型地震」と呼び、今後30年以内に70%以上の確率で発生すると懸念されています。

今回の体験型プログラムは、大規模地震災害が発生し、大学に留まることになった際にどのように対応するかをシミュレーションで学びながら、併せて関東大震災の教訓から、大規模災害への備えを学びます。当企画は、災害支援・防災教育コーディネーターの宮崎賢哉氏にインストラクターとしてお越しいただきます。

12/1
(金)
18:00～

1 日目

18:00-19:00 オリエンテーション
19:00-20:30 避難スペース運営
20:30-22:00 体験プログラム
※夕食づくり（防災食の準備） 簡易トイレづくり他

12/2
(土)
～12:30

2 日目

7:30-9:00 体験プログラム
※朝食づくり、撤収
9:00-11:30 ワークショップ（クイズ、危険箇所のマッピング等）
11:30-12:30 ふりかえりとわかれあい

参加費

無料

定員

先着順
20名

対象：学部生のみ
大学院生、準留学生の方は
お申込みいただけません。

申込方法

申込方法：右のQRコードより申込フォームに入力してください。
申込期間：2023年11月15日（水）～11月28日（火）
※申し込み後キャンセルをする場合、すみやかにご連絡ください。



お問い合わせはこちら

東洋大学ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927
MAIL: mlvolsup@toyo.jp



環境・インフラ・脱炭素 社会課題解決 SDGsWeek EXPO 2023



現状をカエルカ

サキをヨミ

エコプロ 社会インフラテック カーボンニュートラルテック 自然災害対策展

2023年12月6日(水)～8日(金) 10:00～17:00
東京ビッグサイト【東ホール】

入場無料
(事前登録制)

主催 日本経済新聞社、(一社)サステナブル経営推進機構(エコプロ)、
インフラメンテナンス国民会議(社会インフラテック)、
日経 SDP(社会インフラテック/カーボンニュートラルテック/自然災害対策展)

<https://messe.nikkei.co.jp/sdgs/>



Body Image Seminar

～ボディイメージセミナー～

Let's discuss the definition of beauty in Japan and the world!

美しい外見って何？ 国によって価値観は違う？
東洋大生と留学生で話し合ってみよう！

7TH DEC (THURS)
15:00~
@ECZ, TOYO UNIVERSITY
(1F, BLDG8)

申込はこちら
Please apply here!

当日参加も可能！

Or just swing by!

文京区 I LADY. ピア・アクティビスト
Dチーム

ご質問: iladypeer@joicfp.or.jp

映画上映会

ただいま、
つなかん

2/20
火 10:00~12:30

詳細はこちらから

日時	2024年2月20日 (火) 10:00~12:30
場所	東洋大学白山キャンパス 井上円了ホール
お申込み	2024年2月12日 (月) 締切 ※先着順 QRコードよりお申し込みください
映画公式サイト	https://tuna-kan.com/

日本財団ボランティアセンター共催 東洋大学ボランティア支援室主催 お問い合わせ: mlvolsup@toyo.jp

防災備蓄品 配布会のお知らせ

文京区防災課より「防災備蓄品」の提供があり、「食品ロスを減らす」というSDGsの観点から、本学で受け入れ、配布することになりました。万が一の備えとしてぜひお受け取りください。
※申し込みは不要です。

12/14 木曜日 12:10~13:00
12/15 金曜日 12:10~13:00

配布場所 1号館1階 エレベーターホール前
配布場所 6号館1階 学生部前
持ち物 食料品を入れるエコバックなど

★配布食料品★
・シチュー(5個まで)
・水500ml(5本まで)
・ハリボー(1個まで)

※ハリボーは両日100個(先着順)です。
※なくなり次第終了となります。

お問い合わせ先 東洋大学ボランティア支援室
TEL 03-3945-7927 MAIL mlvolsup@toyo.jp

防災備蓄品 配布会のお知らせ

文京区防災課より「防災備蓄品」の提供があり、「食品ロスを減らす」というSDGsの観点から、本学で受け入れ、配布することになりました。万が一の備えとしてぜひお受け取りください。
※申し込みは不要です。

12/15 金曜日 12:10~13:00
12/19 火曜日 12:10~13:00
12/22 金曜日 12:10~13:00

配布場所 WELLB HUB-2 1階フロア
持ち物 食料品を入れるエコバックなど

★配布食料品★
・シチュー(2個まで)
・水500ml(2本まで)

※なくなり次第終了となります。

お問い合わせ先 東洋大学ボランティア支援室
TEL 03-3945-7927 MAIL mlvolsup@toyo.jp



令和6年 能登半島地震支援募金に ご協力お願いします

あなたの助けが必要です
ご協力お願いいたします

場所 各キャンパス

日時 次のページでお知らせしております

寄付先 日本赤十字社「令和6年能登半島地震災害義援金」
※寄付結果については後日ホームページで公開いたします

当日は応援メッセージを掲示するブースを設けます

募金ボランティアを募集しています

「何かできることはないか」と行動を
おこしたい方、応募をお待ちしております



講演会・スペシャルオリンピックス日本

スペシャルオリンピックスの 理念と共生への道標

2/3 (土)

15~16時

対面・オンライン

スペシャルオリンピックス

スペシャルオリンピックス(SO)は、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。

講演内容

競技を行いながら、様々なSOについての広報活動も行っているアスリートアンバサダーの方にお願いいたします。スペシャルオリンピックス日本についてご説明いただき、体験談の共有もさせていただきます。

お問い合わせ 東洋大学 エクステンション課 申し込みはこちらから
TEL: 03-3945-7636 申し込み締め切り: 1月12日
MAIL: mlex@toyo.jp



先着30名限定



ユニファイドスポーツ®が見せる これからの社会のカタチ

スペシャルオリンピックス日本のアスリートアンバサダーと一緒にバスケットボールをし、ワークショップを通してユニファイドスポーツ®の価値を考える

スペシャルオリンピックス(SO)は、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。



2024/2/3(土)



16:30~18:00



東洋大学白山キャンパス
アリーナ

持ち物

- ・室内シューズ
- ・飲み物
- ・タオル
- ・動きやすい服装(スポーツウエア等)
- ・更衣室がご使用いただけます

お問い合わせ 東洋大学 エクステンション課
TEL: 03-3945-7636
MAIL: mlex@toyo.jp

申し込みはこちらから
申し込み締め切り: 1月12日



東洋大生がワークショップで考えるSDGs 生理から問う社会の『当たり前』

生理に関するさまざまな不平等をなくすべくTV、新聞、雑誌など多数のメディアからも注目され、多くの講演活動をされているZ世代「#みんなの生理」共同代表谷口歩美氏をお迎えし、「生理から問う社会の『当たり前』」について考えます。

また、月経を取りまく環境改善を目指し「トイレ内で生理用品を無償で入手できる仕組み作りを通して、月経のある人のウェルビーイングを前進させたい」という本学学生による「Toyo-MeWプロジェクト」の活動報告をいたします。

日時 2024年2月6日(火) 11:00~13:00
場所 白山キャンパス125ホール(対面) WEB参加可

第1部

講師 谷口歩美氏 1998年生まれ

#みんなの生理共同代表。ジェンダー学修士。「生理用品を軽減税率対象に!」というオンライン署名キャンペーンを大学在学中の2019年12月に開始し、現時点で8万筆を超える賛同を得ている。2020年2月に#みんなの生理を友人らと共に創立。現在はメンバー6人と共に生理に関わる課題の解決に取り組む。



第2部

Toyo-MeWプロジェクトからの報告



第3部

ディスカッション

申込方法 Google フォーム (QRコードからお申込みください)
申込バ切 2024年2月1日(木)まで
募集人数 50名程度
お問い合わせ 東洋大学ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927 MAIL: mlvol@toyo.jp



主催 社会貢献センター(ボランティア支援室) 共催 国際共生社会研究センター

群馬県 甘楽町

地域おこし協力隊

インターン参加者募集

新たな土地で暮らして、新しい濃厚な2週間

10日間で**70,000円**支給
源泉徴収前の金額です

地域おこし協力隊って?
一定期間地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行う取組です。今回、甘楽町より特別に「東洋大生」枠が用意されました。

どんな人に向いてる?
・甘楽町に興味がある
・知らない土地で暮らしてみたい
・地域の方と交流したい・体を動かしたい
・就活でアピールポイントにしたい
「ガクチカ」としてもアピールできます。

インターン期間
春季休暇中 各クールごとに募集
第1クール 2月6日(火)～2月20日(火)
第2クール 2月27日(火)～3月12日(火)
第3クール 3月19日(火)～4月2日(火)

お申込み 右のQRコードよりお申し込みください
お問い合わせ ボランティア支援室 mlvolsup@toyo.jp 03-3945-7605



東洋大生がワークショップで考えるSDGs

日本の貧困とSDGs 一相談事例から貧困問題を考えるー

支援現場における「生」のお話を聞き、みんなで一緒に貧困問題を語り合おう!

2024年2月13日(火) 10:00～12:00
@東洋大学白山キャンパス(対面)

●講師 藤田孝典(ふじたかのり) 1982年生まれ)
首都圏で生活困窮者支援を行うソーシャルワーカー。聖学院大学心理福祉学部客員准教授。四国学院大学客員教授。NPO法人はっとプラス理事。反貧困ネットワーク埼玉代表。厚生労働省社会保障審議会特別部会委員(2012年)。著書に『コロナ貧困』(毎日新聞出版2021)『棄民世代』(SB新書 2020)『中高年ひきこもり』(扶桑社2019)『貧困クライシス』(毎日新聞出版 2017)『続・下流老人』『下流老人』(朝日新聞出版 2015・2016)『貧困世代』(講談社 2016)など多数。

●申込方法: Googleフォーム(右のQRコードを読み取って、お申込みください)
●申込〆切: 2024年2月1日(木)まで
●募集人数: 20名ほど
●お問い合わせ: 東洋大学ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927 MAIL: mlvolsup@toyo.jp




あれから

13年

被災地のまちづくりを考え、発信する
スタディツアー(2泊3日)

2/27~29

宿泊・交通費 **無料**

学生課外活動育成会企画 ボランティア支援室主催

プログラム参加費 **無料**

※ 交通費・嗜好品代は各自負担となります

ワークキャンプ プログラム

豊かな自然の中で、地域と関わる旅に出ませんか?

田人コース / 福島県いわき市
栃木コース / 栃木県益子町

主催 東洋大学ボランティア支援室
企画 東洋大学学生課外活動育成会

2023年度 ボランティア支援室 資料・記録

ボランティア支援室 ガイダンスの実施

ボランティア支援室では、学生のボランティア意識向上を図るため、授業単位でボランティア支援室のコーディネーターによるガイダンスを実施した。

概要は以下のとおり。

1. 実施コース

- A. 概要説明・ワーク (注)・白山キャンパスボランティア支援室見学 90分コース
 - B. 概要説明・ワーク (注) 60～90分コース
 - C-1. 概要説明 30分コース
 - C-2. 概要説明 ※映像によるガイダンス 30分コース
 - D. Web紹介動画の利用 (YouTube 動画でのご案内) 30分程度
- (注) ワークはディスカッション等を行います

2. 実施日時

授業期間に授業単位での実施

3. 申込方法

- ① ボランティア支援室サイト内のお申し込みフォームにご入力
 - ② 別紙の「ボランティア支援室ガイダンス申込書」に必要事項をご記入の上、ボランティア支援室 (白山キャンパス・甫水会館1階) に電子メールまたは直接提出
- ① ② のいずれかの方法でお申込ください。

4. 実施実績 (2023年度)

10件 (4月…3件、5月…2件、6月…3件、7月…2件)

5. 受講者の感想 (抜粋)

今回ボランティアについてのお話を聞いて、私もボランティアをしてみたい、ボランティアサークルに入ってみようかなと思いました。

まず、ボランティア支援室というもんがあるのを知りませんでした。ネット上にも情報があると聞いたので、今後はウェブサイトを開いた際には見てみようと思いました。

今まで災害・防災やジェンダーについてのボランティアはあまり興味のない分野だったが、小学校では防災訓練があったり、これから先ジェンダーを抱える児童も出てきたりするかもしれないため、そういった意味でその分野を経験してみるのも良いと思った。

ボランティアと奉仕ということが全くの別物であることを知りました。

私は、ボランティアの事は、対価が支払われないのに仕事をするのは何の意味があるのかと疑問に思って避けていたことがありました。

しかし、移動教室の付き添いや、ゴミ拾いなどを体験して仲良くなって信頼してもらえたことや、綺麗になったと実感して得る達成感などお金ではない対価を学べる・得られるものがボランティアだと考えました。

東洋大学ボランティア支援室事務運営要領

第1 趣旨

この要領は、東洋大学ボランティア支援室要項（以下「要項」という。）第18条に基づき、東洋大学ボランティア支援室（以下「支援室」という。）の運営等に関し必要な事項を定める。

第2 専門スタッフの任用及び職務等※要項第7条関係

支援室の室員である専門スタッフの任用及び職務については、次のとおりとする。

1. 任用

- (1) 専門スタッフの数は、1名とする。ただし、事情により2名で第3号の出勤日を分担し、勤務させる場合がある。
- (2) 身分は、原則として専任教職員（嘱託者を含む。）とする。ただし、専門的な業務を担うことから、業務請負契約に基づく者とする場合がある。
- (3) 勤務は、原則として平日（週5日）、10:00～18:00（7時間）とする。
- (4) 専門スタッフの呼称を「ボランティアコーディネーター」とすることができる。
- (5) 勤務に当たっては、行事等の必要に応じて、時差出勤及び土曜日、日曜日又は祝日に勤務する場合がある。日曜日又は祝日に勤務する場合、振替休日を取得させる。

2. 主な職務

職務は、要項第4条に規定する業務内容に準じて、次のとおりとする。

- (1) 支援室の方針及び業務計画の企画、立案及び調整に関する業務
- (2) ボランティア派遣団体の開拓に関する業務
- (3) ボランティア活動に関する情報の収集、管理及び提供に関する業務
- (4) ボランティアに係る相談、助言及び支援策に関する業務
- (5) 学外ボランティア関係機関等からの紹介及び連絡調整に関する業務
- (6) ボランティア活動に伴う事前説明会、講習会、報告会及び交流会等の企画及び実施に関する業務
- (7) 前各号のほか、支援室の実施運営に当たって必要な業務

第3 専門部会※要項第14条関係

専門部会の構成、役割及び運営については、次のとおりとする。

1. 構成

- (1) 室長が、ボランティア支援室運営委員会（以下「運営委員会」という。）の委員（原則として、学生部長及び教務部長を除く。）のうちから数名を委嘱する。
※専門部会員の発令は、作業部会として支援室事業の企画立案等、重要な役割を担い、かつ、開催頻度が多くなることから特例措置とする。
- (2) 室長（専門部会議長を兼ねる。）は、専門的な観点から、運営委員会委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

2. 役割

- (1) 運営委員会からの専門的な事項についての調査審議
- (2) 支援室業務に係る企画立案等の作業支援
- (3) ボランティア活動の視察及びトラブル等が生じたときの調査訪問（事故対応を含む。）
- (4) その他必要な事項

3. 運営
必要に応じて開催する。

第4 評価委員会※要項第16条関係

評価委員会の構成、役割、評価方法及び運営については、次のとおりとする。

1. 構成
 - (1) 本学の専任教員若干名
 - (2) 学外の関係機関等若干名
2. 役割
支援室が実施したボランティア活動等業務内容の評価及びその結果に対する助言を行う。
3. 評価方法
別に定める支援室業務内容の現状及び課題の改善策への自己点検評価内容と、今後のプログラム計画内容を評価資料とし、各評価委員から個別に評価結果を記述してもらう。
4. 運営
 - (1) 業務の進捗状況、将来計画等を踏まえ、必要に応じて開催する。
 - (2) 室長の求めに応じて評価及び助言を行い、その結果を室長へ報告する。

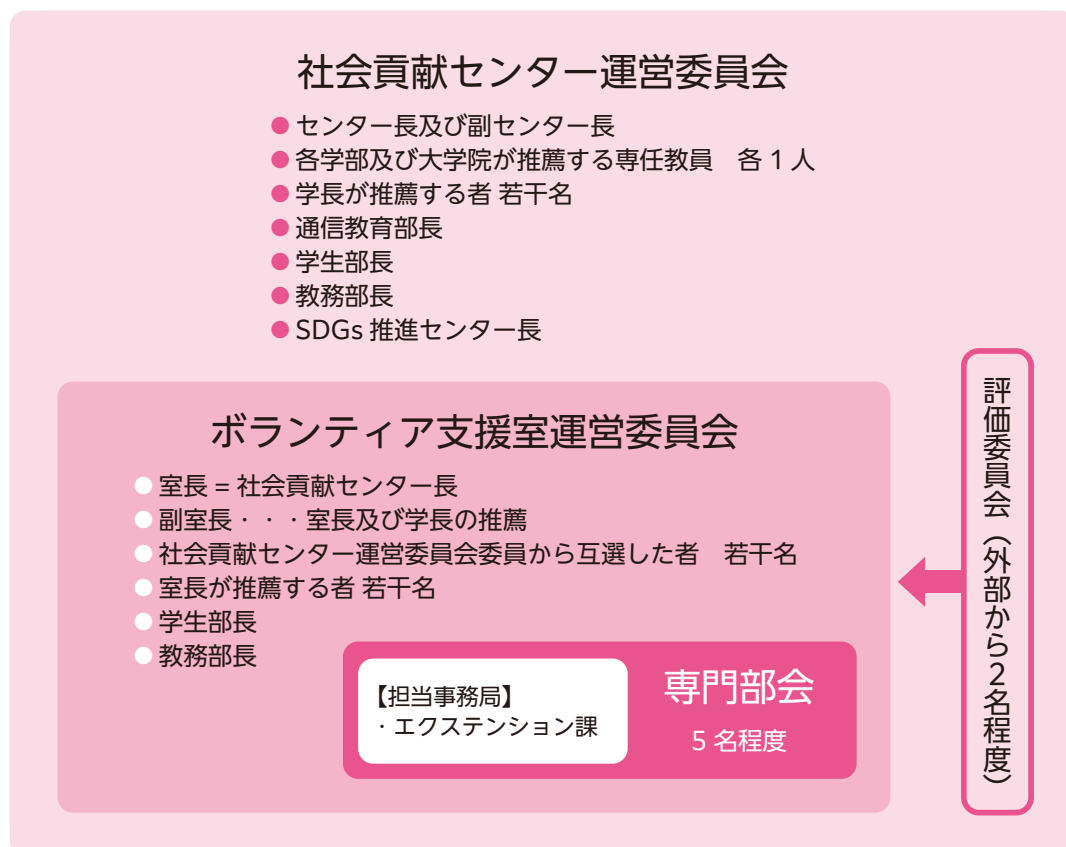
第5 改正

この要領の改正は、室長が運営委員会の意見を聴いて行う。

附則

この要領は、2021年4月1日から施行する。

組 織 図



ボランティア支援室運営委員会委員名簿

所 属	氏 名
室 長	高 山 直 樹

東洋大学ボランティア支援室要項第5条による
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

所 属	氏 名
文 学 部	堀 本 麻 由 子
総 合 情 報 学 部	小 瀬 博 之
生 命 科 学 部	川 口 英 夫

東洋大学ボランティア支援室要項第9条2号による
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

所 属	氏 名
室 長 推 薦 (文学部)	高 野 聡 子 ※
室 長 推 薦 (法学部)	谷 釜 尋 徳
室 長 推 薦 (社会学部)	村 上 一 基
室 長 推 薦 (国際学部)	子 島 進
室 長 推 薦 (福祉社会デザイン学部)	内 田 塔 子

東洋大学ボランティア支援室要項第9条3号による
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)
(任期：2023年4月1日～2024年3月31日) ※特別研究の為

専門部会委員名簿

所 属	氏 名
文 学 部	高 野 聡 子 ※
文 学 部	堀 本 麻 由 子
法 学 部	谷 釜 尋 徳
社 会 学 部	村 上 一 基
国 際 地 域 学 部	子 島 進
福 祉 社 会 デ ザ イ ン 学 部	内 田 塔 子
総 合 情 報 学 部	小 瀬 博 之

東洋大学ボランティア支援室要項第14条および事務運営要領第3条1号(1)による

(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

(任期：2023年4月1日～2024年3月31日) ※特別研究の為

(参考) 東洋大学 4キャンパスの学部配置

キャンパス	特 徴
白山 (東京都)	文系7学部(文、経済、経営、法、社会、国際、国際観光) 特に社会学部や国際学部、国際観光学部でボランティア活動が盛んにおこなわれている。 また、ボランティアサークルも多数存在。
川越 (埼玉県)	理系2学部(理工、総合情報) キャンパスと地元(鶴ヶ島市、川越市)との連携して正課内外で多くの活動が行われている。
板倉 (群馬県)	理系2学部(食環境科、生命科) 学部の特色を活かした地域への貢献活動を中心に展開されている。
赤羽台 (東京都)	情報連携学部、社会福祉デザイン学部、健康スポーツ科学部 情報連携学部：2017年に新設された新しい学部 福祉社会デザイン学部：2023年度開設 健康スポーツ科学部：2023年度開設 社会福祉、子ども支援、健康スポーツ等学科の学びは広く、それぞれにボランティア活動も行われている。

2023 年度 ボランティア支援室運営委員会・専門部会活動記録

第1回：2023年4月20日（木）【書面会議】（運営委員会及び専門部会）

審議依頼事項

1. 2023年度ボランティア支援室運営委員、専門部会委員について
2. 2023年度ボランティア支援室企画について
3. 2023年度学生課外活動育成会取扱要領について
4. 2023年度学生課外活動育成会企画一覧について
5. 東洋大学学生団体による社会貢献活動プロジェクトに対する助成事業選考【追加】について
6. ボランティア支援室企画について
 - ・トルコ・シリア大地震支援イベント（2023.4.27-28・5/19）
 - ・b-lab見学ツアー（2023.5.2）
 - ・カンボジアフェスティバル（2023.5.3-4）
 - ・富士樹海清掃ボランティア（2023.5.28）【学生課外活動育成会】
 - ・ウクライナ講演会「ウクライナの今（仮）」（2023.6.23）
 - ・こもれびの森・里山支援隊（2023.4.15-5.20）
 - ・東洋大生がワークショップで考えるSDGs「身近なモノから持続可能な開発について考えてみよう」（2023.5.20）
 - ・ボランティア支援室サポートスタッフ募集
 - ・本郷ロータリークラブ「チャリティーコンサート」（2023.5.13）
7. 東洋大学SDGsアンバサダー募集について
8. SDGs認知度調査について
9. ボランティア支援室専門部会委員スケジュール確認について（エクセルデータ）

報告事項

1. ボランティア支援室利用状況報告（2022年度）（授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況）
2. SDGsアンバサダー募集について（中間報告）
3. ボランティア支援室（赤羽台分室）開設について
4. 2023年度授業支援について

第2回：2023年6月30日（金）【書面会議】（専門部会）

審議依頼事項

1. 2023年度学生課外活動育成会取扱要領について（一部修正）
2. 2023年度学生課外活動育成会企画について
 - ・NICE日本国際ワークキャンプセンタープログラム
 - ・富士樹海清掃ボランティア（夏）
3. 2023年度ボランティア支援室企画について
 - ・赤羽台団地祭り
 - ・文京区クールアースフェア
4. 2023年度SDGs Weeks実施に伴う、「公開授業」のお願いについて
5. 「社会教育実習」「社会福祉総合演習」体験受け入れについて

報告事項

1. ボランティア支援室利用状況報告（2023年度）（授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況）
2. 学生課外活動育成会企画実施報告（資料なし）
3. ボランティア支援室企画報告
 - ・トルコ・シリア大地震支援イベント（2023.4.27-28・5/19）
 - ・文京区内社会貢献関連施設スタディツアー（b-lab、フミコム）
 - ・カンボジアフェスティバル2023（2023年5月3日～4日）
 - ・東京都、京北中学高等学校・フミコムからの寄附物品配布会（2023.5.12・18、6.15-18、6.28・30）
 - ・ボランティアカフェ（新学期編）
 - ・SDGsワークショップ
 - ・ボランティア入門講座（赤羽台）（2023年5月30日）
 - ・ボランティアカフェ（福祉編）・「福祉人生すごろくゲーム in 赤羽台」（2023年6月3日）
 - ・ボランティア入門講座（白山）（2023年6月5日）

- ・特別講演会「トランスジェンダーから見える世界共生」(白山)
- ・特別講演会「当事者が語る、ソーシャルワークへの期待」(赤羽台)
- ・あじさい祭り(2023年6月10日・11日・17日・18日)
- ・講演会「ウクライナの子どもたちは今」～ウクライナ侵攻から1年以上が経過したルーマニアの支援現場からの報告～
- ・ビーチクリーンアップ in Yuigahama Beach (2023.6.25)

第3回：2023年7月7日(金) 14:45～(専門部会)

審議事項

1. 学生課外活動育成会費によるボランティア支援室企画について
2. ボランティア支援室企画について
3. SDGs アンバサダーの活動について
4. SDGs Weeksについて
5. 東洋大学中長期計画について
6. その他

報告事項

1. ボランティア支援室利用状況報告(6月)(授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況)
2. ボランティア支援室企画報告
3. その他

第4回：2023年10月30日(月)【書面会議】(専門部会)

審議依頼事項

1. 2023年度「学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成」団体からの変更届の提出について
2. 2024年度予算要求について
 - ・ボランティア活動(学外)における職員の宿泊交通費の見直し
 - ・ボランティア支援室サポートスタッフ、SDGs アンバサダーの活動に対する交通費の支援
3. 2023年度学生課外活動育成会企画について
 - ・里親子デイキャンプについて
 - ・ボランティアやっただけで終わらせないための「対話のシカタ」
 - ・100年前の大規模震災に学ぶ～首都直下型地震に備える!東洋大学宿泊 サバイバル体験～
 - ・国際ボランティア活動支援事業
 - ・映画「ただいま、つなかん」連携大学上映会
4. 2023年度ボランティア支援室企画について
 - ・フィリピンの若者たちとつくるSDGsアクションについて(SDGs アンバサダー参加企画)
 - ・文京区博覧会について(SDGs団体アンバサダー出店)
 - ・2023年度 東洋大学社会貢献活動報告会および「大学生による地域活動」報告会・交流会
5. 2023年度SDGs Weeksについて
 - ・「アフガニスタンにおける教育の現状と課題」-初等中等教育制度及び障害児教育を中心に-について
 - ・「CSR論」公開講義 企業と人権について
 - ・国際社会プロジェクト演習I/IIB 公開講義「もう始まっている多民族・多文化共生社会 まっとうな受入れ制度を 労働者を労働者として」【白山】
 - ・生徒指導論 公開講義 子どもの貧困問題と学習支援教室が果たす役割【赤羽台】
 - ・社会福祉学基礎演習II 公開講義 誰もが尊重され、すこやかに生きることができる社会とは～LGBTQ+について学ぶ～【赤羽台】(チラシ校正中)
 - ・公開講座 ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろうについて
 - ・『オレンジ・ランプ』特別上映会
 - ・「おにぎりアクションinTOYO2023」(SDGs アンバサダー企画)
6. 「社会福祉総合演習」体験受け入れについて

報告事項

1. ボランティア支援室利用状況報告(2023年度)(授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況)
2. 学生課外活動育成会企画実施報告
 - ・NICE 日本国際ワークキャンプセンタープログラムについて(SDGsアンバサダー企画)
 - ・「湯河原でみつける、わたしの『ローカル』なライフデザイン～『風の人』としての、地域へのかかわり方～」(ボランティア支

援室サポートスタッフ企画)

- ・富士樹海清掃ボランティア(夏)について(SDGs 板倉アンバサダー企画)

3. ボランティア支援室企画報告

- ・CSRスタディーツアー「サイボウズ(株)」
- ・CSRスタディーツアー「NEC ネットエスアイ(株)」
- ・赤羽台団地祭り協力ボランティアについて
- ・文京区クールアースフェアについて(SDGsアンバサダー参加)
- ・東京国際金融機構の主催するセミナーへの登壇依頼について(SDGsアンバサダー参加)
- ・姫路中学・高等学校との交流会について(SDGsアンバサダー参加)
- ・都立小石川中等教育学校における防災授業講演について(SDGsアンバサダー参加)
- ・赤羽台SDGsアンバサダー学園祭での(株)ファーストリテイリングコラボ企画 事前学習会
- ・スペシャルオリンピックス日本との連携に伴う事業説明会について(SDGsアンバサダー参加)

第5回：2023年12月20日(水)【書面会議】(専門部会)

審議依頼事項

1. 2023年度 国際ボランティア活動支援事業(冬季休暇)
2. 2024年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び2023年度社会貢献活動に対する表彰について(学生のための活動)
3. 2023年度学生課外活動育成会企画について
 - ・被災地のまちづくりを考え、発信するスタディーツアー
4. 2023年度 ボランティア支援室企画について
 - ・文京区からの防災備蓄品の受け入れ
 - ・東洋大生がワークショップで考えるSDGs 日本の貧困とSDGs 一相談事例から貧困問題を考えるー
 - ・映画上映「ただいま、つなかん」について
 - ・2023年度 東洋大学社会貢献活動報告会および「大学生による地域活動」報告会・交流会
 - ・群馬県甘楽町地域おこし協力隊インターン制度への参加について

報告事項

1. ボランティア支援室利用状況報告(2023年度)(授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況)
2. 学生課外活動育成会企画実施報告
 - ・「里親子デイキャンプ」
 - ・100年前の大規模震災に学ぶ～首都直下型地震に備える!東洋大学宿泊サバイバル体験～
3. 2023年度 SDGs Weeks 実施報告
 - ・「アフガニスタンにおける教育の現状と課題」-初等中等教育制度及び障害児教育を中心に-
 - ・「CSR 論」公開講義 企業と人権について【川越】
 - ・国際社会プロジェクト演習I/IIB 公開講義「もう始まっている多民族・多文化共生社会 まっとうな受入れ制度を 労働者を労働者として」【白山】
 - ・生徒指導論 公開講義 子どもの貧困問題と学習支援教室が果たす役割【赤羽台】
 - ・社会福祉学基礎演習II 公開講義 誰もが尊重され、すこやかに生きることができる社会とは～LGBTQ+について学ぶ～
4. ボランティア支援室企画報告
 - ・フィリピンの若者たちとつくるSDGsアクションについて(SDGs アンバサダー参加企画)
 - ・Body Image Seminar
 - ・SDGsアンバサダー学園祭報告
 - ・文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会
 - ・文京区博覧会について(SDGs団体アンバサダー出店)
 - ・災害救済ボランティア講座について
 - ・中野区「少年・少女野球教室」
 - ・SDGs Week EXPO エコプロ2023出展について(SDGsアンバサダー出展)
5. 「社会福祉総合演習」体験報告会

第6回：2024年3月15日(金) (専門部会)

審議依頼事項

1. ・2024年度「社会貢献活動等奨励プロジェクト助成制度」について
 - ・2023年度内部評価について

2. 【各種活動企画】

- ・能登半島地震ボランティア
- ・「甘楽町地域おこし協力隊インターンシップ」
- ・東洋大学ウォーターサーバー設置プロジェクト
- ・「武田薬品工業（株）CSRスタディーツアー」
- ・2024年度ボランティア団体新入生勧誘活動

3. その他

報告事項

1. ボランティア支援室利用状況報告

2. 【課外活動育成会活動報告】

- ・「ボランティアやっただけで終わらせないための『対話のシカタ』」
- ・「ワークキャンププログラム」（益子・田人）
- ・「被災地のまちづくりを考え、発信するスタディーツアー」
- ・国際ボランティア助成

【各種活動報告】

- ・2024年度「SDGsアンバサダー（個人）」承認
- ・東洋大学ボランティアカフェ「『好き』から始まるボランティア!～あなたの好きを教えてください～」
- ・「スペシャルオリンピックスへの理念と共生への道標」講演会
- ・「ユニファイドスポーツ®が見せるこれからの社会のカタチ」【体験会】
- ・「生理から問う社会の当たり前」講演会
- ・「にじいろ社会の第1 歩」（プライドハウス東京訪問）
- ・「日本の貧困とSDGs」ワークショップ
- ・「ただいま つなかん」上映会
- ・「大学生によるボランティア・地域交流活動」報告会交流会

3. その他

東洋大学ボランティア支援室に対する内部評価結果

(学部：福祉社会デザイン学部 氏名：高山 直樹)

I 判定 (S～C) : A

S：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。

A：おおむね、ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。

B：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。

C：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

II 総 評

本学の「建学の精神」「教育理念」「心」の方針に基づいた活動が展開されている。特に「開かれた大学」として「大学の教育を広く民衆に届ける」理念の具体化として、講師派遣事業は多くの教員に協力を得て、全国各地に本学の知を届けている。また地域活性化活動支援事業も各学部や学科の特徴を活かし、学生が主体となる地域貢献につながる成果を上げている。一方、活動に参画する教員や学生が各学部、学科に偏っている傾向もみられることから、まず学部・学科の教員に対する社会貢献活動の理解の促進、教員の研究や教育の社会化の方向と社会貢献の有機的運動を計っていく方向性を意識化していくことに取り組む必要がある。また白山キャンパスに情報が集約され、発信されることから、白山以外のキャンパスの活動に展開されていきにくい体制があり、体制強化が求められる。

III 概評及び提言

1 理念・目的

<概評>

① ボランティア支援室の目的を適切に設定しているか。

本学の建学の精神と社会貢献センターの理念・目的がつながっており、生涯学習、講師派遣事業、地域活性化活動支援事業等により目的を達成している。

② ボランティア支援室の目的を明示し、社会や学内と共有しているか

本学ホームページで「社会貢献センター報告書」を公開しており、社会との共有を果たしている。

③ ボランティア支援室の目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

社会貢献活動に関する中期計画が作成され、「人生100年時代の学びのサポート」「前世代型グローバル教育の提供」、リカレント・リスキリング、大学院との連動、卒業生の活用などの具体的な施策が検討されており、大学の将来を見据えた形の社会貢献活動を掲げている。

<提言>

長所

- 1) 多様な学部・学科、研究科を擁し、多様な社会貢献活動を展開する基盤としての研究・教育活動がある。
- 2) 社会貢献活動と卒業生36万人の協働ができる基盤がある。

改善課題

- 1) 活動が多岐にわたり、その活動を調整・支援していく体制の強化が求められる。
- 2) 白山キャンパス以外のキャンパスにおける、社会貢献、地域貢献センターの分室の設置を働きかけ、活動拠点や情報拠点となる場の形成に努める必要がある。特に地域との関わりにおいては、窓口の存在がとても重要になると考えられるので、ボランティア支援担当窓口を明確にし、ボランティアの受付先を明確にすべきである。
- 3) 社会貢献活動が教員の研究や教育の発展、社会化していくことに繋がっていくという意識の醸成とそれを支えるインセンティブを作っていく必要がある。
- 4) キャンパスの移転が続いているため、移転後の近隣地域のニーズを把握し、各学部の特性に応じた情報発信を工夫・促進していくことが求められる。

以 上

2023年度版

東洋大学 ボランティア支援室年報

発行 2024年7月1日

東洋大学 ボランティア支援室

〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 甬水会館1階

TEL: 03-3945-7927 FAX: 03-3945-7601

